

CSR Report 2022

首都高 CSRレポート 2022

ひと
まち
くらしを



首都高速道路ネットワークで結びます



CONTENTS

3	トップメッセージ	13	特集1 環境への取り組み
5	CSRマネジメント	15	特集2 DXの推進
7	中期経営計画		
9	首都高の歴史		
11	首都高の現状		

首都高CSR方針に基づいた活動報告

	17 お客さまのために		53 株主・投資家の皆さまのために
	17 安全・安心に向けた取り組み		53 着実な債務の引渡しと返済
	23 渋滞緩和に向けた取り組み		54 資金調達
	25 お客さまサービスの向上		55 財務情報
	29 交通安全対策の推進		56 事業評価
			57 強固な経営基盤の構築に向けて
	31 社会のために		59 取引先の皆さまのために
	31 高速道路ネットワークの整備		59 入札・契約手続
	33 災害対応力の強化		60 工事の安全対策
	35 社会に根差した技術革新		
	36 国内外への技術力の展開		
	38 地域社会との連携		61 社員ののために
	39 社会に貢献できる企業を目指して		61 働き方改革の推進
			63 誰もが安心して働ける職場づくり
			65 人材育成の推進
	43 環境のために		
	43 環境への取り組み姿勢		
	首都高カーボンニュートラル戦略で策定した3つの基本方針		
	44 脱炭素社会に向けて		
	47 自然共生社会に向けて		
	49 沿道環境の改善に向けて		
	51 循環型社会に向けて		
	環境情報の発信		

外部評価

67	会社概要	71	ガイドライン対照表／SDGs対応表
70	第三者意見		

編集方針

首都高CSRレポートは、ステークホルダーの皆さまに対して、首都高速道路株式会社のCSR活動の考え方、取り組みなどを広くお伝えすることを目的として作成しています。

当社の経営理念や経営計画及びCSR方針をはじめ、首都高の建設、維持、管理に係る事業概要、事業活動を通じた社会への取り組み、環境への取り組みなどを幅広く紹介しています。

首都高CSRレポート2022

〈対象範囲〉

当社の事業活動を対象としています。

〈対象期間〉

主に2021年4月1日～2022年3月31日の期間における事業活動について報告していますが、継続的な取り組み等はその前後の活動についても記述しています。

〈参考ガイドライン〉

- ISO26000(国際標準化機構)「社会的責任に関する手引き」
- GRI「サステナビリティ・レポート・スタンダード」
- 国連グローバル・コンパクト原則
- 環境省「環境報告ガイドライン(2019年度版)」

〈使用する略称〉

本レポートでは、「当社」は首都高速道路株式会社を表します。また「高速道路機構」は、独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構を表します。ジャンクションは「JCT」、パーキングエリアは「PA」と略記します。



シンボルマーク:トライアングルストリーム

東京を中心に神奈川・千葉・埼玉の3方面へ伸びる首都高速道路のネットワークと、そのネットワークづくりを通じて「ひと・まち・くらし」を支えていくという当社の姿勢を表現したものです。

持続可能な社会の実現に向けて貢献し、
より良い未来を目指します。

代表取締役社長

前田 信弘



ひと・まち・くらしを支え続けます

高速道路は人と物を運び、人々のくらしを支える重要な根幹インフラです。その中でも、首都高グループは、東京を中心に埼玉・神奈川・千葉の3方向へ延びる首都高速道路の建設・維持・管理を担っており、首都圏のくらしや社会経済活動を支えていくことを使命としています。首都高速道路は開通から半世紀以上が過ぎ、既に40年以上経過した路線が全体の4割以上になるなど構造物の高齢化が進んでいます。これまでも私たちは、継承し続けてきた知見と経験、そしてたゆまぬ努力で培った先進技術を活かし、繰り返し維持管理するとともに、大規模更新・修繕事業を推進することで安全性確保に努めてきました。引き続き経営理念の「お客様第一」を胸に刻みながら、責務を全うできるよう真摯に業務に取り組んでいきます。

2050年カーボンニュートラルを目指します

2021年10月「地球温暖化対策計画」及び「気候変動適応計画」が改訂され、政府から、2050年カーボンニュートラルの実現に向けて気候変動対策を着実に推進していくことが示されました。また、国土交通省の「国土交通グリーンチャレンジ」をはじめ、東京都などの地方公共団体でも、地球温暖化対策計画等に関連する施策が策定されているところです。SDGs(持続可能な開発目標)のゴール13においても「気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる。」とされ、現在、多くの国や企業が脱炭素社会の実現に向けた取り組みを進めています。首都高グループは、このような動きと軌を一にして気候変動が地球の存続に対するトップリスクであることを再認識し、2050年カーボンニュートラルを目指すことを宣言しました。

そして、首都高グループ丸となってカーボンニュートラルを実現するため「首都高カーボンニュートラル戦略」を策定しました。この戦略では、道路インフラを最大限に有効活用するとともに、省エネルギーの徹底や再生可能エネルギー導入、新技術の開発などを積極的に推進するため、「ネットワーク機能強化への新たなアプローチ」「社会インフラ企業としての自助努力」「グリーン社会との協創(産業界とのコラボ)」の3つの基本方針と12のリーディングプロジェクトを設定しました。本レポートの「特集1:環境への取り組み」では、先端技術や首都高ネットワークを最大限有効活用して実現する「2050年の首都高の姿」を紹介しています。

また、今後はこの戦略に基づき、省エネルギー化や施設の緑化を最大限推進するとともに、様々な分野の企業や団体等、産業界とも連携して新技術開発を積極的に進め、クリーンエネルギー導入を推進します。

中期経営計画 2021-2023を 着実に実行します

10年～20年後の社会環境における、首都高グループのありたい姿を見越して、そこから現在に振り返ってどう進むべきかというバックカスティングの視点で中期経営計画 2021-2023を策定しています。本計画においては、将来のありたい姿を実現するために、基本理念・経営理念に加え、2018年度から

2020年度までの3年間の取り組みの達成状況や社会環境の変化等に伴うさらなる課題を踏まえ、持続的な成長に向けた転換期としてこれからの3年間に位置づけ、「安全・安心の追求」「快適・便利なサービスの提供」「関連事業の推進」「技術開発の推進」「首都高グループ総合力の強化」「首都高を支える人材・職場づくり」の6つの基本方針を定めています。本レポートでは、中期経営計画2021-2023の着実な実行を示すため、主な数値目標12項目の実績値(2021年度)と目標値(2023年度)を開示しています。

これまで、そして、これからも

首都高速道路は、1962年の開通から今年で60年目を迎えました。これまで、「安全な首都高を、快適に使っていただきたい」という強い意志と変わらぬ使命がぶれたことはありません。平時はもとより、首都直下地震や気象災害などの大規模災害時も、首都高グループの変わらぬ使命を果たすために、私たち首都高グループ社員一人ひとりは、日頃からあらゆる想像力を働かせ、シミュレーションや訓練を繰り返し、いざという時のために備えています。

そして、首都高グループは、これからも一丸となって、首都圏のひと・まち・くらしを結び、豊かで快適な社会の創造に貢献してまいりますので、皆さまの一層のご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

基本理念

私たちは、首都圏のひと・まち・くらしを安全・円滑な首都高速道路ネットワークで結び、豊かで快適な社会の創造に貢献します。

経営理念

お客様第一

安全と快適を追求し、お客様に満足頂ける質の高いサービスを提供します。

地域社会との共生

地域の皆様とともに、よりよい環境の実現と地域社会の発展を目指します。

社会的責任

高い倫理観と透明性をもって、お客様、地域の皆様、投資家の皆様との信頼関係を築きます。

自立する経営

効率的で健全な経営を行い、新しい分野での事業も積極的に展開します。

活力あふれる職場

社員が自らの力を高め、誇りと達成感を得る職場をつくりまします。

企業倫理憲章

■ 関係法令及びその精神を遵守し、公正な事業活動を推進して、誠実な企業と評価されることを目指します。

■ 経営に関する情報などは積極的に公開して透明性を保ち、広く社会とのコミュニケーションを図ります。

■ お客様の個人情報ははじめとする情報の管理を徹底します。

■ 人権を尊重し、あらゆる差別を排除します。

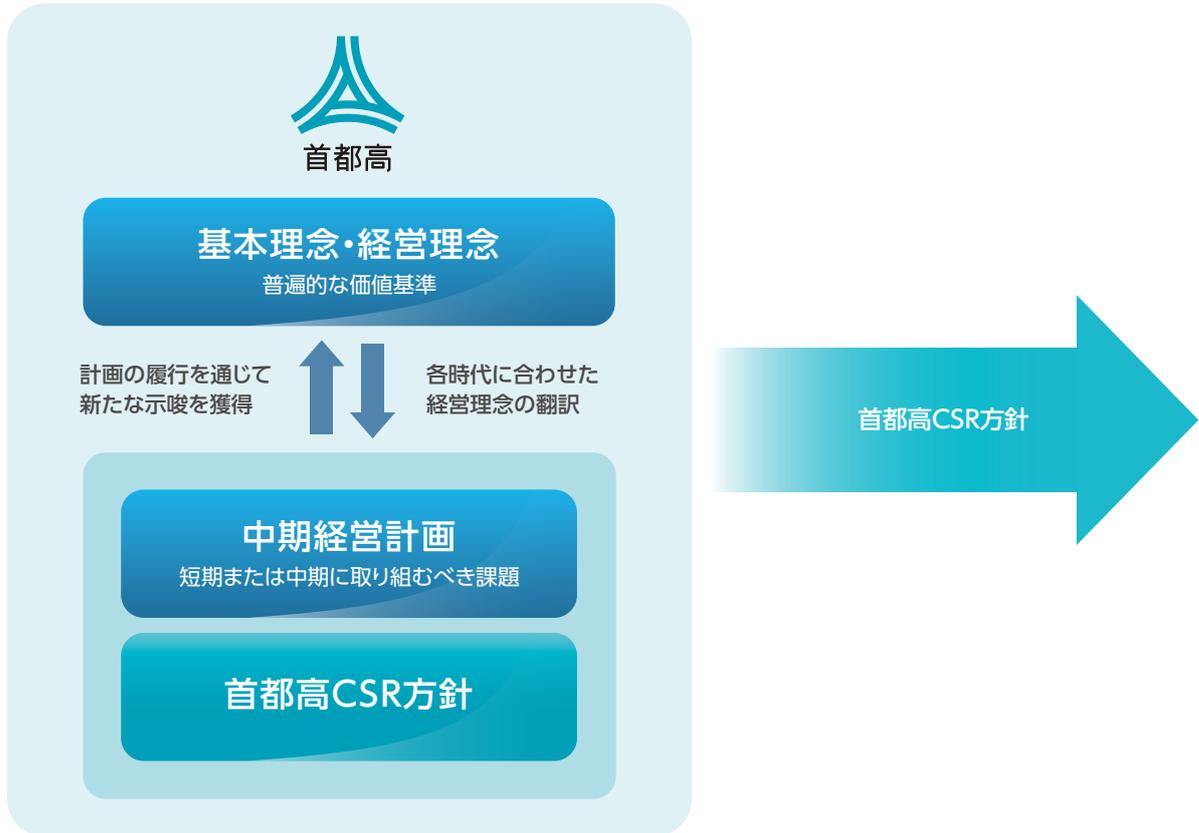
■ 経営トップは、この憲章の実現に力を尽くします。この憲章に反する事態に対しては、経営トップが率先して改善に努めます。

ステークホルダーに貢献するために

あらゆるステークホルダーに貢献し、広く社会から認知・信頼される企業を目指すため、当社のCSR活動の基礎となる「首都高CSR方針」を2016年12月に策定しました。

本方針に従いCSR活動を推進するとともに、ステークホルダーへの説明責任を果たすべく取り組みの内容を公表していきます。

経営理念・中期経営計画とCSR



CSRマネジメント体制

当社におけるCSRマネジメントは、役員層による「首都高CSR推進会議」を頂点とし、CS推進部担当役員が議長を務める体制でマネジメントしています。各課題別所管部署の代表者からなる「幹事会」を適宜開催し、計画の立案と実行を担保しています。

CSR推進事務局 (CS推進部) は、各会議のとりまとめに加え、社内各部署のCSR活動を支援し、全体に目を配る役割を担っています。



CSRに関する社員意識向上の取り組み

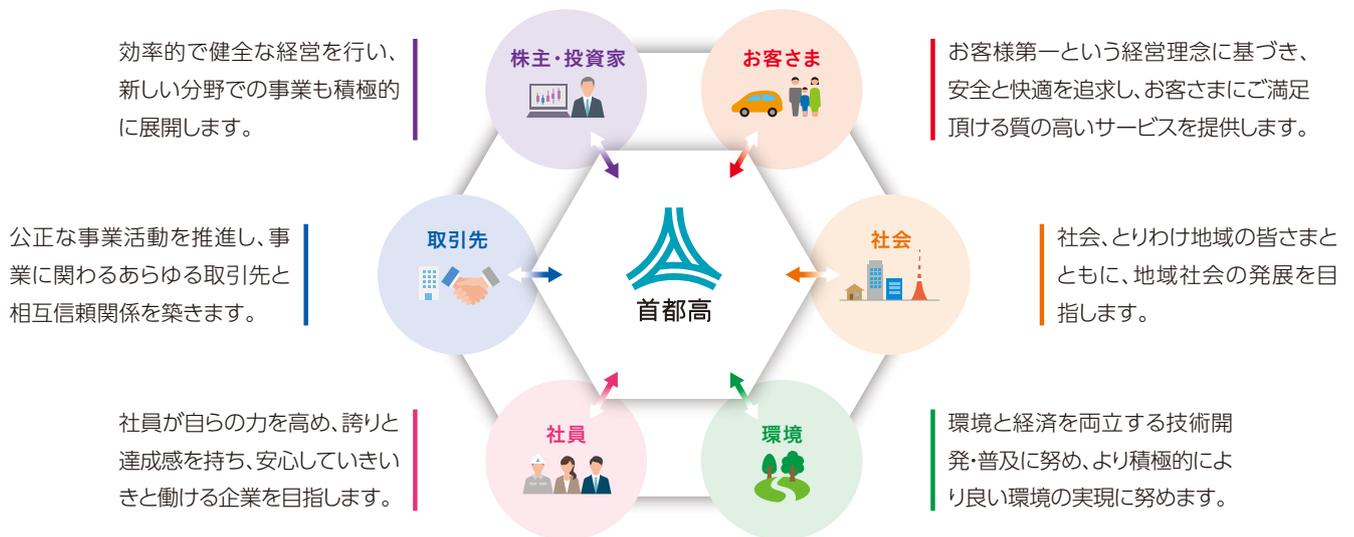
CSRに対する社内意識の向上を目的に、社外講師による研修やCSRに関する最新動向等を掲載した社内メール配信を実施しています。

2020年度は経営層だけではなく、若手社員を対象とした講演会

も開催しました。当社の社会的責任や社会課題解決への取り組みに対する社員の認識を深め、業務に繋がるCSR意識の向上に努めています。

首都高CSR方針

私たちは、経営理念及び企業倫理憲章に基づき、
すべてのステークホルダーのためにあらゆる事業活動を通じて
持続可能な社会の実現に向け、貢献してまいります。



首都高CSRとSDGsのつながり

持続可能な開発目標(通称SDGs)とは、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて掲げられた2016年から2030年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成されています。

SDGsの達成に向けて当社が貢献できる目標や分野を見出し、事業活動を通じてその達成に寄与することは、当社が持つ社会的責任の一つとして捉えています。首都高CSR方針に基づくCSRの取り組みを通じて、SDGsの達成に貢献していきます。



P71～72に掲載の「SDGs対応表」をご参照ください。

中期経営計画 2021-2023

中期経営計画2021-2023においては、以下の6つの基本方針を定めています。また、各基本方針の下、具体施策を定めるとともに、施策の到達水準を明らかにするため、必要に応じて数値目標及び時期目標を設定しています。本計画を着実に実現するため、首都高グループ一体となって取り組んでいきます。

6つの基本方針

首都高グループではこの6つの基本方針をCSR重要課題としています。

1 安全・安心の追求

～24時間365日、首都圏のひと・まち・くらしを支え続けるために～

- i-DREAMs®を活用した適切かつ効率的な維持管理の推進
- 日本橋区間地下化事業などの大規模更新・大規模修繕事業の推進、構造物の高齢化の進行への対応
- 危機管理及び災害対策の強化



トンネル点検



2 快適・便利なサービスの提供

～お客さまと地域社会から信頼され続けるために～

- 交通マネジメントの推進など渋滞のない首都高に向けた取り組み
- 周辺のまちづくりとの連携や脱炭素社会に向けた取り組みなど地域社会との連携強化
- ETC専用化及び新たな料金施策の推進



ETC専用入口(横浜北線 馬場入口)



3 関連事業の推進

～社会に貢献する企業として成長するために～

- 駐車場事業の強化・拡充、新たなPA等の創造
- i-DREAMs®などの専門技術を活用した事業の展開
- 将来の成長分野への経営資源の集中と新規事業の創造・事業領域拡大



川口ハイウェイオアシス



主な数値目標一覧

中期経営計画2021-2023においては、2023年度を時期目標としています。

1-1 健全橋梁率※1

2021年度実績	2023年度目標
94%	94%

1-3 トンネル点検率

2021年度実績	2023年度目標
61%	100%

2-1 渋滞損失時間※2

2021年度実績	2023年度目標
1,860万台・時	2,200万台・時以下

1-2 橋梁点検率

2021年度実績	2023年度目標
67%	100%

1-4 道路附属物点検率

2021年度実績	2023年度目標
65%	100%

2-2 交通規制時間

2021年度実績	2023年度目標
185時間/km	210時間/km以下



4 技術開発の推進

～技術のリーディングカンパニーとしてさらなる飛躍のために～

- 先進技術・DXの推進
- 新技術、新材料及び再生可能エネルギーの活用による社会・環境への貢献
- 総合的マネジメントの推進とパートナーシップの強化

太陽光パネルの設置

5 首都高グループ総合力の強化

～グループの力を結集し、最大限の力を発揮するために～

- 首都高グループ全体の経営基盤強化
- 首都高の事業理解を促進するための情報発信力の強化

子ども向け特別講座の様子

6 首都高を支える人材・職場づくり

～社員一人ひとりが元気に前向きに安心して働ける職場であり続けるために～

- 首都高を支える人材の育成
- 働き方改革の推進等による職場づくり

社員による首都高ウォッチングの実施



※1 健全橋梁率: 橋梁の健全度を表す比率 ((全橋梁径間数)-(早期に修繕を必要とする橋梁径間数))÷全橋梁径間数
 ※2 渋滞損失時間: 渋滞が発生することによる利用者の年間損失時間 (所要時間(時間)-規制速度走行時の所要時間(時間))×交通量(台)
 ※3 当社調べ

第1期

1962年～1970年

都心環状線と放射路線の整備



都心環状線(京橋～芝浦間)開通式

12月20日
首都高初の開通
(1号線京橋～芝浦間4.5km)

第2期

1971年～1988年

都市間高速道路との接続



上野線開通式

3月21日
6号向島線(江戸橋JCT～堤通間)、
7号小松川線全線開通
／京葉道路と接続

12月21日
3号渋谷線全線開通
／東名高速道路と接続



新宿線全線開通式

1月20日
千葉県内初の開通
湾岸線(新木場～浦安間)

1月24日
埼玉県内初の開通
6号三郷線
(小菅JCT～三郷JCT間)
／常磐自動車道と接続



三郷線開通式

8月26日
レインボーブリッジ
(11号台場線)開通

10月26日
5号池袋線
(戸田南～美女木JCT間)開通
／東京外環自動車道と接続

1962 1967 1968 1971 1973 1976 1978 1985 1987 1989 1993 1994 1997 1998 2001

7月19日
神奈川県内初の開通
神奈川1号横羽線
(浅田～東神奈川間)
／総延長50km突破

7月4日
芝公園～霞が関間の開通により、**都心環状線**が形成される

5月18日
4号新宿線全線開通
／中央自動車道と接続

2月15日
八重洲線開通
／総延長100km突破

9月27日
横浜ベイブリッジ
(湾岸線)開通

9月9日
中央環状線(四つ木～葛西JCT間)、
中央環状線(千住新橋～江北JCT間)、
川口線(江北JCT～川口JCT間)開通
／東北自動車道と接続／総延長200km突破

12月18日
東京湾
アクアライン
と接続

12月21日
鶴見つばさ橋(湾岸線)
開通

5月18日
埼玉大宮線
(美女木JCT
～与野間)開通



建設中の一橋JCT



都心環状線(芝公園～霞が関間)開通式

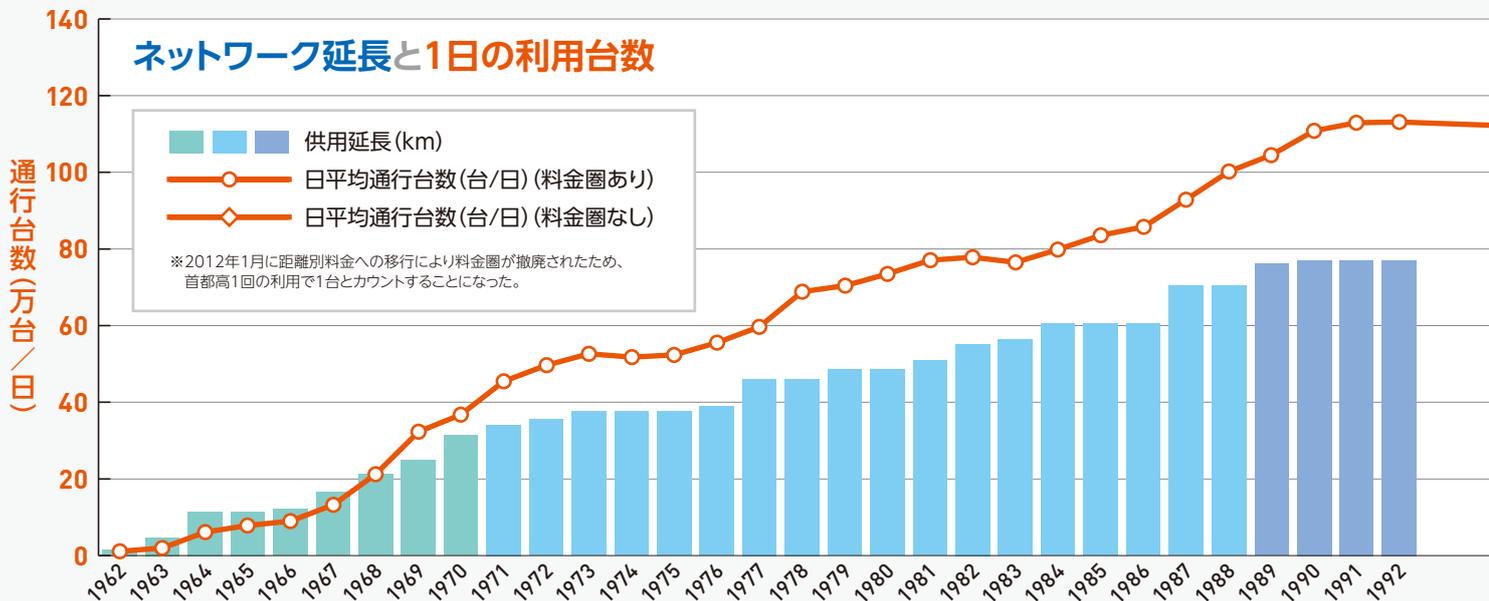


建設中のかつしかハープ橋



横浜ベイブリッジ(湾岸線)開通式

ネットワーク延長と1日の利用台数



開通
60
周年



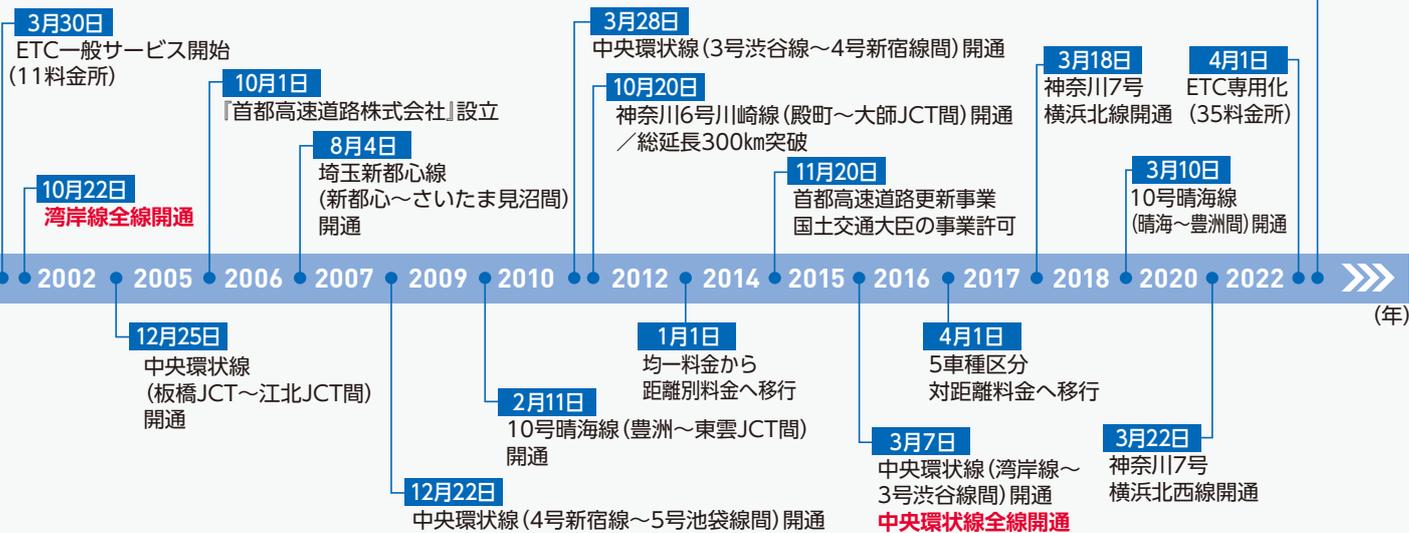
建設中のレインボーブリッジ



埼玉新都心線(新都心～さいたま見沼間)開通



神奈川横浜北線開通式



湾岸線全線開通式



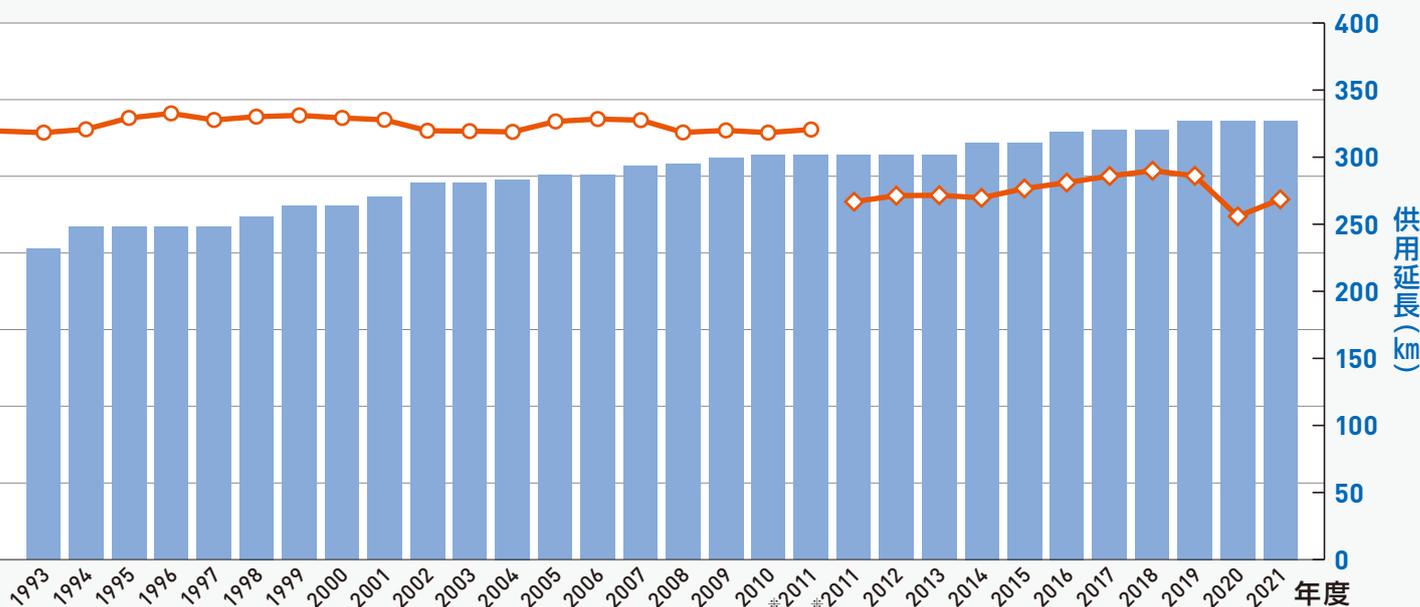
中央環状線山手トンネル(湾岸線～渋谷線間)開通式



晴海線(晴海～豊洲間)開通



横浜北西線開通(横浜青葉JCT)



1日約 **90万台** 以上の交通量

首都圏の道路ネットワークの中核を担い、人々に安全、円滑、快適な道路サービスを提供しています。

約 **327km** の道路ネットワーク

首都圏の幅広いエリアを道路ネットワークで結び、各自治体や地域の皆さまとともに、地域社会の発展に貢献しています。

一般道と比べて約 **5倍** の大型車交通量

都市間高速道路との接続により、首都圏と各地を繋いでいます。大型車の交通量が東京23区一般道の約5倍となっており、物流の効率化に寄与している一方、過酷な使用状況にさらされています。

きめ細やかな維持管理を必要とする構造物が **95%**

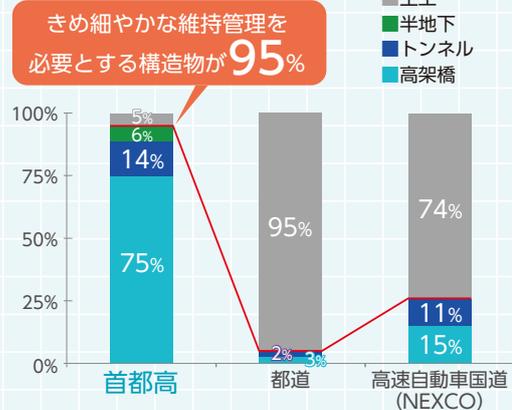
首都高は、きめ細やかな維持管理を必要とする高架橋やトンネルなどの構造物の占める割合が約95%となっており、他の道路と比べて著しく高くなっています。

大型車の交通量比較



出典：平成27年度 道路交通センサスより
 ●首都高における大型車断面交通量の平均(平日)
 ●東京23区内の一般道(都道)における大型車断面交通量の平均(平日)
 ●日本全国の高速自動車国道における大型車断面交通量の平均(平日)
 (上記大型車断面交通量の平均(平日)は、平日24時間大型車走行台キロの総計を総延長で除した値)

道路構造別比率

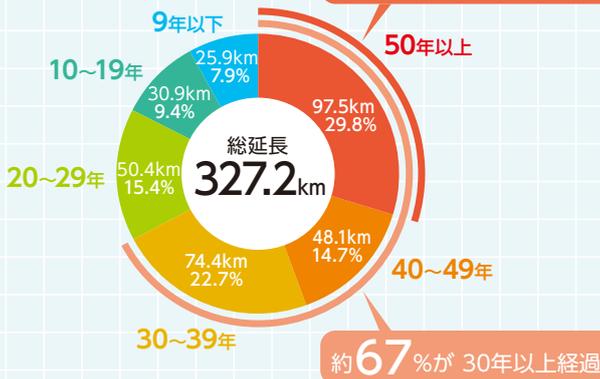


首都高：2021年4月時点
 都道：2007年4月時点(東京都建設局ホームページより)
 NEXCO：高速道路便覧2019より

総延長のうち **50年** 以上経過 約30%が開通から

総延長が約327kmにわたる首都高のうち、開通から50年以上を経過した路線が全体の約30%(約98km)、30年以上経過した路線が約67%(約220km)に達し、道路の高齢化が進んでいます。

開通からの経過年数比率 (2022年4月時点)



上限料金の見直し

首都高の2022年4月1日からの料金について

首都高では、2016年4月に対距離料金制度へ移行、激変緩和のために上限料金(普通車1,320円)を設定しておりました。制度移行後、首都圏のネットワーク整備も相まって、都心部の通過交通は減少したものの、都心部通過に際し周辺の路線よりも首都高速道路が割安な場合などがあり、依然として都心部に渋滞が発生している状況でした。

そこで、都心部の通過交通をこれまで以上に抑制する必要があることを踏まえ、より公平な料金体系のさらなる前進に向けて、首都高速道路の長距離利用において上限料金の見直し(普通車1,950円)を行いました。



大口・多頻度割引の割引率を
最大45%まで更なる拡充

物流を支える車の負担が急激に増加しないよう、ETCコーポレートカードの利用者が対象の大口・多頻度割引の割引率を、これまでの最大35%から最大45%*まで拡充します。



- * 中央環状線の内側を通過しない利用分の割引率を含む
- ・大口・多頻度割引の割引率の拡充は2026年3月末までの措置

深夜0～4時*の
深夜割引20%割引を導入

混雑している昼間のご利用から、比較的交通量が少ない深夜のご利用への転換を促すため、深夜割引を新たに導入。深夜0時から4時までの間に首都高速道路の入口等を通る車両の料金を20%割引します(ETC無線通行に限る)。



*深夜割引の適用判定は、首都高の最初のETCアンテナとの通信時間が基準

ETC専用化

首都高の料金所が ETC専用 に変わります

ETC専用に向けた流れ

首都高では2022年4月から35か所の料金所でETC専用運用としています。

2025年度中までに約9割まで順次拡大していく予定です。

2022年4月	2025年度	2030年度
35か所	約9割 (約160か所)	すべての料金所

01

空いている時間帯や経路の割引など、柔軟な料金設定が容易になり、混雑を緩和してお客さまの生産性向上を図れます。



02

人員確保が困難になる中、係員がいなくても料金所の機能を維持できます。



03

お客さまや料金所係員の感染症リスクを軽減できます。



脱炭素社会の実現に向け、 「首都高カーボンニュートラル戦略」始動

首都高グループは、2050年カーボンニュートラルを目指すことを宣言します

気候変動が地球の存続に対するトップリスクであることを再認識し、道路インフラを最大限に有効活用するとともに、省エネルギーの徹底や再生可能エネルギーの最大限導入、新技術の開発などを積極的に推進します。

カーボンニュートラル実現に向けた目指すべきゴールの考え方

2050年カーボンニュートラル実現にあたっては、2030年度を中間年次として、目指すべき中間目標を設定しました。

2050年(目指すべきゴール) ➡ カーボンニュートラル実現
 2030年度(目指すべき中間目標) ➡ 次世代自動車の普及等に加えて、交通円滑化のさらなる推進により、自動車交通からのCO₂排出量を約3割削減
※2019年度比 ・事業活動に伴うCO₂排出量約5割削減



これまでの首都高のネットワーク形成によるCO₂排出量削減効果

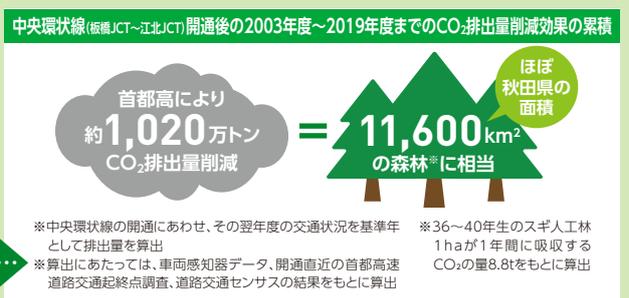
首都高は自動車から排出されるCO₂排出量の削減に大きく貢献しています。その効果は年間約50万トン^{*1}。

これは、首都高を利用している自動車が一一般道を走行(一般道の速度で走行)した場合のCO₂排出量^{*2}と首都高を走行する自動車のCO₂排出量の差によるものであり、まさに首都高のネットワーク形成によるCO₂排

出量削減効果といえます。

これを中央環状線(板橋JCT~江北JCT)開通後の2003年度から2019年度まで累積すると、約1,000万トン以上にも及びます。

首都高グループは今後各施策に様々な磨きをかけて、2050年カーボンニュートラル実現を目指していきます。



*1 2019年度時点 *2 首都高を利用する交通量(走行台キロ)が一般道路の速度(全国道路・街路交通情勢調査一般交通量調査結果より算定)で走行した場合のCO₂排出量

貢献する
SDGsの目標



特集

お客さまのために

社会のために

環境のために

株主・投資家の皆さまのために

取引先の皆さまのために

社員ののために

首都高グループはこれまで、ネットワーク形成を通じてCO₂排出量削減に貢献してきました。ここからさらに前進し、首都高グループとして2050年カーボンニュートラルを目指すことを宣言しました。脱炭素社会の実現に向け、グループ丸となって取り組む「首都高カーボンニュートラル戦略」の一部をご紹介します。

〈「首都高カーボンニュートラル戦略」の詳細はこちら〉



2050年の首都高の姿

- 首都高ネットワークがさらに強化され、安全性や利便性が益々向上。
持続可能な社会の実現に向けて2050年も地域社会との共生を図りながら、首都圏の大動脈として変わらず「ひと・まち・くらし」を支えている。
- 先端技術を活かした交通マネジメントを推進。首都高ネットワークを最大限有効活用した脱炭素でスムーズな道路交通が確保されている。



▶例えば…

企業活動におけるCO₂・廃棄物の削減



環境に配慮したビルへの転換

新技術開発の推進



非接触給電システム

ネットワークの充実

工事中でも機能維持するネットワーク



高速道路空間の活用



既存のネットワークを賢く使う交通マネジメントの推進

特定路線に交通が集中し混雑区間が発生



混雑区間をスムーズにする料金を設定



料金差により交通を誘導し混雑区間をスムーズに

※本イラストに描かれている2050年の首都高の姿はあくまでもイメージです。

3つの基本方針と12のリーディングプロジェクト

2050年の将来の姿を見据えながら、まずは、2030年度を目標に取り組んでいきます。

基本方針 1	ネットワーク機能強化への新たなアプローチ
リーディングプロジェクト	①既存のネットワークを賢く使う交通マネジメントの推進 ②ネットワークの充実
基本方針 2	社会インフラ企業としての自助努力
リーディングプロジェクト	③建設時・維持管理の環境負荷低減 ④道路照明等事業活動の最大限の省エネルギー化 ⑤業務用車両への次世代自動車導入実施 ⑥企業活動におけるCO ₂ ・廃棄物の削減 ⑦業務効率化のためのDXの戦略的導入
基本方針 3	グリーン社会との共創(産業界とのコラボ)
リーディングプロジェクト	⑧新技術開発の推進 ⑨環境配慮型PAの整備 ⑩CO ₂ 吸収への取り組み ⑪次世代自動車普及のための環境整備 ⑫治道環境の改善

リーディングプロジェクトは、社会状況や技術革新の動向を踏まえ、適宜、追加・更新します。

VOICE



計画・環境部 部長
渡邊 良一

今、世界はカーボンニュートラルに向かって動いています。より良い地球環境を将来世代に継承したいという人類の根源的な思いが、その力になっています。首都高グループも多くの企業や自治体等と同様、その社会的責任を果たすべく、2050年カーボンニュートラルを目指す宣言をしました。

お客さまに信頼される首都高グループとなり、安全・快適にご利用いただける高速道路ネットワークを提供していくために、そして、将来にわたってこの社会的使命を果たしていくために、この宣言は必要な一歩であると認識しています。

2050年カーボンニュートラルはチャレンジングな目標です。首都高グループの一人ひとりが脱炭素という視点で日々の業務や活動を再確認し、できることから取り組んでいく。このようなボトムアップの活動の積み重ねにより、カーボンニュートラル社会の実現に貢献してまいります。

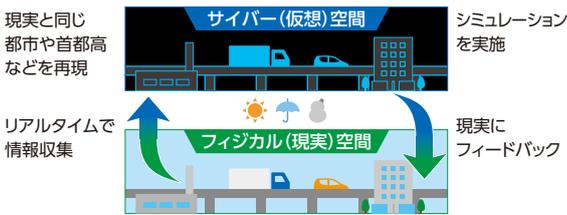
i-DREAMs®を軸とした、 首都高速道路のデジタルツイン構想。 道路管理の効率化、新たな価値創造を実現。

DXキーワード

【デジタルツイン】

インターネットに接続した機器などを活用して現実空間の情報を取得し、サイバー空間内にフィジカル空間の環境を再現することをデジタルツインと呼びます。現実世界と対になる双子(ツイン)をデジタル空間上に構築し、モニタリングやシミュレーションを可能にする仕組みです。

デジタルツインの仕組み(イメージ)



【GIS(Geographic Information System)】

地理情報を地図上で可視化して高度な分析や迅速な判断を可能にする地図情報システムです。

【プラットフォーム】

情報を生成・収集・蓄積・流通・共有・利用するための基盤です。

【3次元点群データ】

レーザーで空間をスキャンし、物体が反射した信号から反射した点の位置(3次元座標)情報を記録したデータの集まりです。

【ICT(情報通信技術)】

情報処理や通信に関連する技術等の総称です。

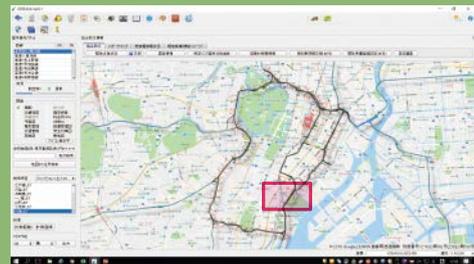
【AI(人工知能)】

記憶、推論、学習等、人間の知的機能を代行できるようにモデル化されたソフトウェアやシステムです。

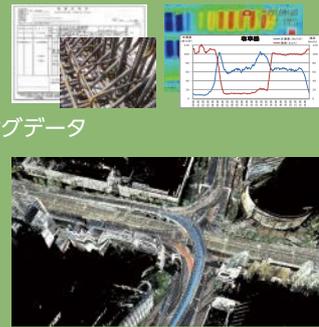
i-DREAMs® スマートインフラマネジメントシステム

現在

GISプラットフォームにおける 各種管理データの統合管理



- 地図情報
- CIMモデル
- 点検・補修履歴
- 構造物モニタリングデータ
- 周辺画像データ
- 路面データ
- 交通データ
- 環境データ
- 3次元点群データ
- 他



i-DREAMs®を拡張した 「総合防災情報システム」

災害発生時に速やかに情報を収集し、高度な情報共有や復旧計画の策定支援を行う「総合防災情報システム」を運用しています。これにより迅速な緊急輸送道路としての機能の確保につなげていきます。

総合防災情報システムの主な機能



貢献する
SDGsの目標



特集

お客さまのために

社会のために

環境のために

株主・投資家の皆さまのために

取引先の皆さまのために

社員ののために

首都高グループでは、これまでスマートインフラマネジメントシステム *i-DREAMs*[®] を軸として、維持管理の生産性向上を図ってきました。

この延長線上として首都高のDXを推進するために、現実空間の首都高ネットワークから得られる膨大なリアルタイム情報をもとに、デジタル化した首都高ネットワークを仮想空間に構築するのが首都高速道路のデジタルツイン構想です。

首都高グループでは、インフラの高齢化や生産年齢人口の減少に伴う技術者不足に備え、効率的な維持管理を支援・実現するスマートインフラマネジメントシステム *i-DREAMs*[®] を運用しています。

i-DREAMs[®] は維持管理に必要な情報を、データプラットフォームに統合するとともに、3次元点群データの取得とその活用や、ICT(情報通信技術)の活用により、効率的な維持管理を実現するスマートインフラマネジメントシステムです。

将来 ▶▶▶ 首都高速道路のデジタルツイン構想 (イメージ)

デジタル化した首都高速道路ネットワークをサイバー空間(仮想空間)に構築し、フィジカル空間(現実空間)から膨大なデータをリアルタイムに収集し、蓄積します。このようなサイバー空間上で、AI等を用いた効率的なデータ分析やシミュレーションを行い、調査か

ら設計、施工、維持管理、交通運用及び危機管理に至る様々なフェーズにフィードバックすることで、未来型の管理へ変革していきます。加えて、MaaS(Mobility as a Service)と連携したお客さまサービスの向上など、新たな価値の創造にもつなげていきます。



DXによる価値創造

予測保全

AIによる構造物劣化予測

例：当該構造物の損傷は、環境条件から5年後に大きく進展が予測されることから、〇〇工法の補修を提案します。



リモート検知

構造物異常検知と遠隔調査

例：先ほどの地震に伴い、〇〇付近で構造物に大きな損傷が発生している可能性あり。



高度な交通マネジメント

混雑状況に応じた交通運用

例：〇〇付近で混雑しており、周辺での渋滞の発生が見込まれます。



交通運用と連動した情報提供(MaaSとの連携)

例：〇〇付近周辺の渋滞が見込まれるので最適ルートを変更しました。



VOICE



技術部 DX推進室 室長
日隈 宏治

維持管理費の不足や技術者人口の減少等の課題は首都高も同様であり、その対応のためには首都高全体としてデジタル技術の積極的な導入が必要不可欠です。デジタル技術を駆使した道路管理の向上により、災害時の迅速な状況把握、現場対応が可能となり首都高機能の向上に寄与します。さらに新たなデジタル技術を検討し、実装していくことで会社として今後の働き方改革の礎にするとともに、首都高がお客さまにより便利に利用していただける手段にしていきたいと考えています。



お客様の ために

お客様第一という経営理念に基づき、
安全と快適を追求し、
お客様にご満足頂ける
質の高いサービスを提供します。

CONTENTS

安全・安心に向けた取り組み	17
渋滞緩和に向けた取り組み	23
お客様サービスの向上	25
交通安全対策の推進	29

安全・安心に向けた取り組み

貢献する
SDGsの目標



〈首都高の保全〉



着実な点検・補修の推進

確実な点検

国土交通省が定める維持修繕に関する省令・告示の規定に基づき、道路構造物(橋梁・トンネル等)に対する計画を策定し、安全・安心な道路を維持するための点検を確実に^{きようあひ}行っています。

人の立ち入りが困難な場所や狭い空間(狭隘部)で高所作業車による人の接近が困難な箇所では、ロープアクセスによる点検や、ロボット・無人飛行機(ドローン)などの新技術を活用した点検を実施しています。立地条件や構造に応じて適切な点検方法を選択し、きめ細やかな点検を目指します。



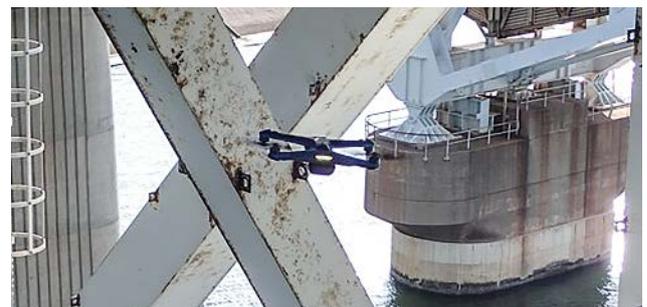
橋梁の接近点検



海上部でのロープアクセスによる点検



狭隘部でのロボットによる点検



無人飛行機(ドローン)による点検

計画的な補修

お客さまが安全・安心に首都高をご利用いただけるよう、道路構造物(橋梁・トンネル等)を健全に保つための補修を計画的に進めています。補修工事は、交通への影響が少ない時間帯に行っています。

損傷に対する補修実施件数
(2021年度実績)
約36,000件



土木構造物(伸縮継手)の補修



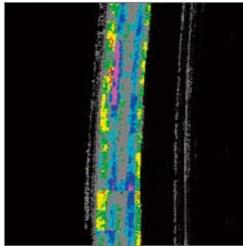
土木構造物(コンクリート床版)の補強

■ 快適走行を目指した舗装の補修

お客さまに快適に走行いただけるよう、日常的な巡回点検、定期的な詳細点検により舗装路面状況を適切に把握し、劣化箇所を補修しています。



MMS*計測による定期的な詳細点検



MMS*計測による路面点検結果

基準面からの変位
 ■ -20mm以下
 ■ -20mm~-10mm
 ■ -10mm~-5mm
 ■ -5mm~5mm
 ■ 5mm~10mm
 ■ 10mm~20mm
 ■ 20mm以上



舗装工事実施状況

※車両等で走行しながら建物や道路の形状などの3次元位置情報を高精度で効率的に取得できる移動式高精度3次元計測システム

効率的な維持管理

生産年齢人口の減少に伴い、維持管理を担う技術者の不足が懸念されています。このような課題を解消し、効率的な維持管理を実現するために、スマートインフラマネジメントシステム*i-DREAMs*®*を運用しています。

※維持管理に必要な情報をGIS(地理情報システム)プラットフォームに統合し、取得した3次元点群データ、ICT、AIを活用する維持管理システム

確実な施工管理による品質の確保

お客さまに長期にわたって首都高を安全・安心にご利用いただくために、豊富な経験を有する技術者が仕様書や基準等に基づいて細やかな施工管理を行い、品質を確保しています。

また、目的とする構造物が設計図書どおりにつくられるよう、工事の進捗に合わせた確実な出来形管理を行っています。



中央分離帯コンクリートの配筋検査状況



鋼製橋脚接合部の溶接前検査状況



首都高メンテナンス西東京(株)
 羽田事務所 鋼構造部 鋼構造二課
 主任 稲垣 亮太

維持・補修工事にも大小様々な工事がありますが、現在担当している工事は人目に付かないところで小さな作業を日夜行っています。一つひとつの作業は小さいものですがその積み重ねが首都圏の大動脈である首都高を支えていると、ふと思い出す時があります。

小さな作業といいましたが、その準備・段取りは決して小さくはなく、まさに「段取り八分仕事二分」という言葉のとおりだと日々感じております。

これからも日々の積み重ねを続け、首都高を守ってまいります。

VOICE



長期の安全・安心を確保する「大規模更新」「大規模修繕」

道路構造物の点検・補修に日夜取り組んでいますが、進行する構造物の高齢化や過酷な使用状況などにより発生する重大な損傷への抜本的な対応も求められています。道路構造物を長期にわたり健全に保ち、ご利用のお客さまに安全・安心な道路を提供し続けるために、構造上・維持管理上の問題や損傷状況を細かくチェックしながら、首都高の更新・修繕事業を進めています。

大規模更新実施箇所図



●この他に大規模修繕実施箇所として55kmを選定

凡例

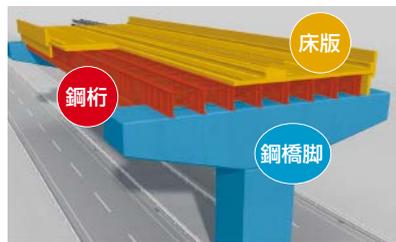
大規模更新実施区間

首都高 (未開通)

その他の高速道路等 (未開通)

大規模修繕事業の推進

大規模修繕事業は、橋梁単位で全体的に補修することにより、新たな損傷の発生・進行を抑制し、長期の耐久性を向上させるものです。2021年度は、6号向島線などで鋼桁、鋼橋脚の補修等を行いました。



コンクリート床版の補強 (炭素繊維補強)

補強前

補強後

コンクリート床版

炭素繊維

主桁

補強後

コンクリート床版の下面に炭素繊維シートを格子状に接着することで、ひび割れの開閉が拘束され、コンクリート床版の耐久性が向上します。



高い耐久性を備えた恒久足場を設置することで、点検や補修を円滑に行っています。また、恒久足場が周囲と調和するように景観性も考慮しています。

鋼桁の補強

補強前

補強後

鋼桁

鋼桁の主桁と横桁の交差部等、疲労き裂が発生している箇所に対して鋼板部材で補強することにより、鋼桁の耐久性が向上します。

疲労き裂発生箇所

鋼板部材とボルトによる補強

鋼桁・鋼橋脚の補修

補修前

補修後

鋼桁

鋼橋脚

劣化した既設の塗膜を除去し、耐久性の高い塗料を用いて被覆補修を行うことで、従来よりも防食性能が向上します。

「更新事業」特設サイト

更新事業に関する基本的情報や更新事業現場紹介動画、工事進捗状況などの幅広い情報を、特設サイトにてお届けしています。

〈特設サイト〉

東品川・三軒茶屋出入口付近

東品川・三軒茶屋出入口付近 (オンラインツアー)

〈YouTube〉

300mの橋をスライド!

超絶工事を徹底解説!

高速大師橋事業紹介動画



大規模更新事業の推進

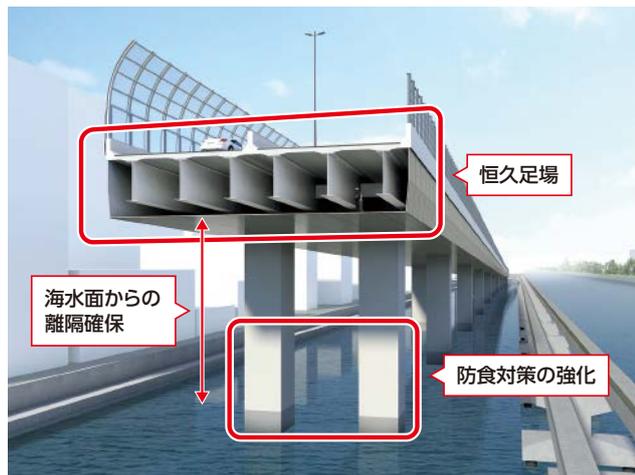
■ 1号羽田線(東品川栈橋・鮫洲埋立部) (2028年度完成予定)

1号羽田線の東品川栈橋・鮫洲埋立部は1963年の開通から50年以上が経過しました。海上部に建設された東品川栈橋では、橋桁と海水面との空間が極めて狭く損傷が発生しやすい環境であることから、コンクリートの剥離や鉄筋の腐食等が多数発生しています。鮫洲埋立部は仮設と同等の構造で、路面の陥没等の重大な損傷が発生してい

ます。そのため、長期的な安全性を確保する観点から、大規模更新のひとつとして構造物の更新(造り替え)工事を実施しています。

当該区間を長期耐久性・維持管理性に優れた構造に造り替えるほか、走行安全性の向上のため道路幅を17mから18.2mに広げる等の取り組みにより、安全かつ快適な道路環境の整備を進めています。

東品川栈橋更新イメージ



東品川栈橋損傷状況



鮫洲埋立部損傷状況



東品川栈橋施工状況



鮫洲埋立部施工状況

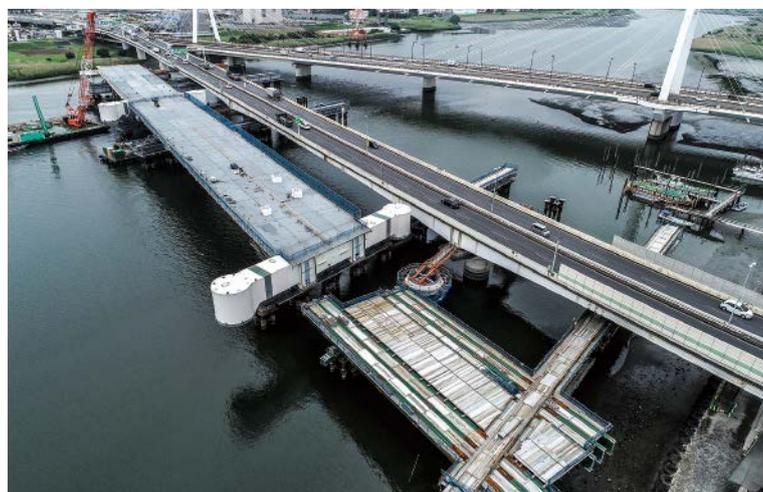


■ 高速大師橋 (2025年度完成予定)

首都高リニューアルプロジェクトの第二弾として、2018年1月から高速大師橋更新工事を進めています。

高速大師橋は、1968年11月の開通から50年以上が経過し、多くの自動車交通に過酷な使用状況などにより、橋梁全体に多数の疲労き裂が発生しているため、日々、点検・補修を行っています。構造物の長期的な安全性を確保する観点から、橋梁の更新(造り替え)を行い、疲労き裂が発生しにくい構造に造り替えています。

2022年8月現在、新設橋の組み立てや、附属施設物の工事を実施しています。2023年度には約2週間の通行止めを行い、既設橋と新設橋を河川上で移動する架け替え工事を行う予定です。



高速大師橋施工状況(2022年5月)

VOICE



更新・建設局 大師橋工事事務所
係員 王 瑾

高速大師橋更新事業は、供用から50年以上経過した橋梁を、新しい橋梁に架け替える工事です。この工事では、これまで河川内で新しい橋脚の施工や新しい橋桁の組み立て等の作業を実施してきましたが、2023年度にはいよいよ橋梁の架け替え段階となり、約2週間の通行止めを予定しております。

河川内工事という特徴から、季節や天候などの自然条件を考慮し、工事工程を調整する難しさもありますが、このプロジェクトの一員として日々工事を進めていることに、大変やりがいを感じております。

引き続き、お客さまや地元の皆さまのご理解やご協力をいただけるよう、安全・着実に工事を進めてまいります。



日本橋区間地下化事業

安全・安心な新しい「道」へ

日本橋川上空の首都高は、都心部の渋滞解消のために、1964年の東京オリンピック前に建設され、1963年の開通から半世紀以上が経過しています。この区間は、1日あたり約10万台の自動車が走行する過酷な使用状況にあるため、構造物の損傷が激しく、更新が

必要となっています。都心部の交通を支える首都高を、次世代へつなぐ、安全・安心な道にするため、地下化事業とあわせて、構造物の更新を行います。



事業概要

路線名	① 都心環状線
事業区間	東京都千代田区内神田二丁目～ 東京都中央区日本橋小網町
延長	約1.8km
道路の区分	第2種第2級(自動車専用道路)
車線数	往復4車線
設計速度	60km/時、50km/時(ジャンクション部 40km/時)
出入口の廃止	3箇所(常盤橋、呉服橋、江戸橋)
換気所	常盤橋換気所(改築)
道路構造	トンネル構造 約1.1km 高架構造 約0.4km 擁壁構造 約0.3km



1964年の東京オリンピック前に建設中の首都高速道路(日本橋付近)



現在の日本橋と首都高速道路

鋼桁の接続部(切欠き部)



支承部の疲労き裂



コンクリート床版の亀甲状ひび割れ



き裂の進展を抑制するため応急補修を実施済

VOICE



更新・建設局 日本橋工事事務所
係員 細田 大樹

私は日本橋区間地下化事業において、将来の地下ルート整備に向けた準備工事である、呉服橋・江戸橋出入口を撤去する工事を担当しています。

工事を進める上で、日本橋川の河川上であり、かつ限られた範囲で作業を行わなければならないことなど、都心部での工事ならではの難しさに直面しておりますが、全国的に注目度の高い事業に関わることができ、日々充実感を得ています。

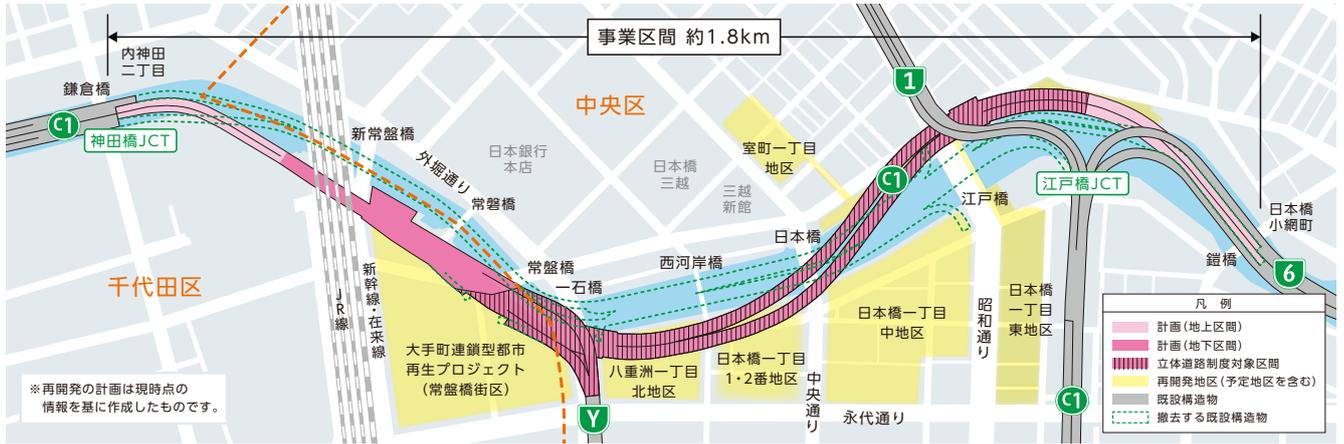
将来、日本橋川上空に青空をお届けできるよう、今後もお客さまや地域の皆さま、工事に関係する皆さまにご協力いただきながら、安全に工事を進めてまいります。

新しい日本橋の「まち」へ

日本橋川周辺は、国家戦略特区の都市再生プロジェクトに位置付けられ、多くの再開発計画が立ち上がり、新しいまちづくりが始まろうとしています。当社は、「立体道路制度」を活用し、建物の地下にトンネルを整備することで、これらのまちづくりと一体となって地下化事業

業に取り組み、地域の魅力のさらなる向上に貢献します。それにより、日本橋川周辺の景観や環境の改善が図られ、新しい日本橋の「まち」へ生まれ変わります。

■ 日本橋川周辺のまちづくり



再開発の計画は現時点の情報を基に作成したイメージです。

〈日本橋地下化事業〉



首都高速道路日本橋区間地下化事業

START!
Safety Technology Activation Renewal Tunnel

この国の道の起点である「日本橋エリア」からはじまる、安全・安心な未来の道へ。景観形成・都市再生をになう持続可能な交通インフラへのリニューアル。

TOPICS

日本橋区間地下化PRルームがオープン

2021年11月1日、当社更新・建設局日本橋工事事務所(東京都中央区日本橋本町2丁目2-2 日本橋本町YSビル2階)内に「日本橋区間地下化PRルーム」がオープンしました。日本橋区間地下化事業の概要を紹介するパネルや、新設するトンネルなどの地下構造を再現した1/1000スケールの模型などにより、首都高速道路日本橋区間地下化事業の内容について詳しく知ることができます。



- 開館時間：平日10時～12時 / 14時～16時(事前予約制)
- ご予約は、日本橋区間地下化事業特設サイトをご確認ください。



渋滞緩和に向けた取り組み

貢献するSDGsの目標



渋滞対策の推進

中央環状線全線開通(2015年3月)や堀切・小菅JCT間と板橋・熊野町JCT間の4車線化(2018年2月・3月)などの取り組みにより渋滞は緩和しましたが、上り坂や合流部、交通集中する区間などではなお渋滞が発生している状況です。お客さまにさらに快適に利用いただくために、渋滞対策を継続的に推進します。

上り勾配での速度低下対策

- エスコートライトによる速度低下対策
- 速度回復を促すメッセージの表示
- 付加車線の設置
- 看板や路面標示による上り勾配等の注意喚起

交通集中への対策

- 各種道路交通情報の広報
- ネットワーク整備

合流部の対策

- 交通需要の時間変化に応じた合流部の運用変更
- 入口流入調整
- 拡幅による車線増
- 交通状況に応じた区画線改良

快適な利用のためのサービス

- 情報提供の充実
- 休憩施設の拡充

[多様な情報提供を目指して]



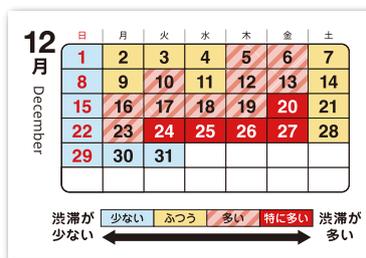
交通集中への対策

各種交通情報の広報

渋滞を避けた利用を促進するため、過去のデータから各日の混雑の程度を4段階で予測した「渋滞予測カレンダー」を当社Webサイトに掲載し、混雑する日をお知らせしています。

渋滞予想カレンダー

※新型コロナウイルス感染症に関わる社会状況・交通状況の変化により休止する場合があります。



上り勾配での速度低下対策

トンネル警報板を活用した速度低下対策・既存の渋滞対策の機能強化

2021年度は、慢性的な渋滞が発生している中央環状線(内回り)中野長者橋付近で、トンネル警報板を活用した上り勾配での速度低下対策を実施しました。

2016年に設置したエスコートライトによる速度回復と合わせて、トンネル警報板による速度低下の注意喚起を行うことでさらなる渋滞削減を目指します。

① 中央環状線(内回り) 中野長者橋付近

交通状況

中央環状線(内回り) 中野長者橋付近の上り勾配での速度低下により渋滞が発生

対策内容

トンネル警報板による速度低下に対する注意喚起



合流部の対策

区画線改良による合流の安全性の向上・円滑化

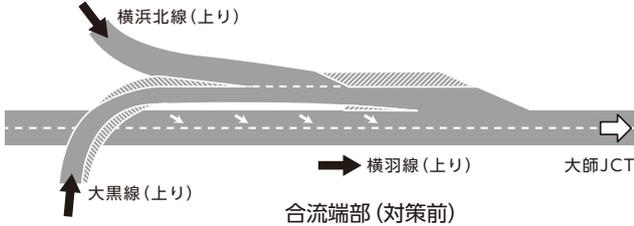
2021年度は交通状況の変化を踏まえ、渋滞が増加した神奈川1号横羽線(上り)生麦JCT、湾岸線(東行き)大黒JCTにおいて、JCT合流部の安全で円滑な合流を目的とした区画線改良を実施しました。

② 神奈川1号横羽線(上り)生麦JCT

対策前

交通状況

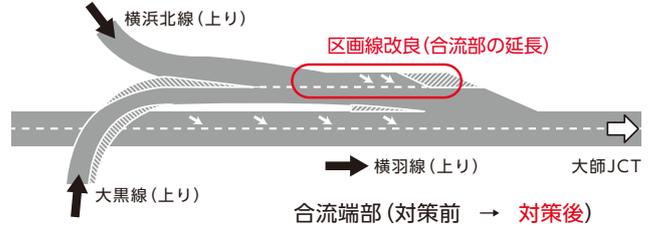
神奈川7号横浜北線(上り)から神奈川1号横羽線(上り)方面の交通量増加に伴いJCT合流部から渋滞が延伸



対策後

対策内容

神奈川1号横羽線(上り)生麦JCT合流部を延長

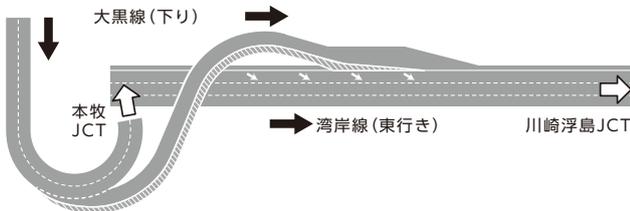


③ 湾岸線(東行き)大黒JCT

対策前

交通状況

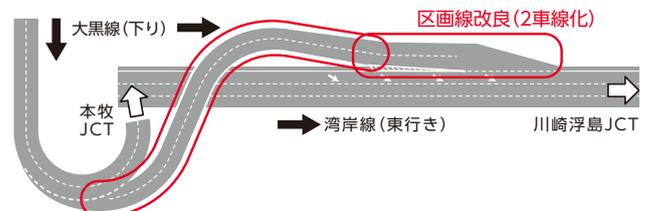
神奈川5号大黒線(下り)から湾岸線(東行き)方面の交通量増加に伴いJCT内の1車線区間から渋滞が延伸



対策後

対策内容

神奈川5号大黒線(下り)大黒JCT分岐部から湾岸線(東行き)合流部を2車線化



特集

お客さまのために

社会のために

環境のために

株主・投資家の皆さまのために

取引先の皆さまのために

社員ののために

お客さまサービスの向上



多様化するニーズに対応する情報提供を目指して

交通管制と情報提供

24時間365日体制で交通管制を行うとともにパトロールカーによる迅速な事故処理や落下物の回収に努めています。道路交通情報は、交通管制システムを駆使し、刻々と集まってくるデータを迅速に処理してリアルタイムでお客さまに提供しています。

道路交通情報の提供は、高速道路上の情報板をはじめ、場所に応じた様々なメディアで行っています。

情報収集



情報処理



情報提供

出発前
情報アプリ「mew-ti」
道路交通情報アプリ「mew-ti」では、リアルタイムのルート検索等が可能です。

車内で
ETC2.0サービス
ETC2.0対応車載器を搭載されたお客さまに向けて、ETC2.0路側機を活用したより高度な道路交通情報や安全運転支援情報等を図形と音声でお知らせしています。

広域経路情報の提供画面
安全運転支援情報提供画面

一般道路で
街路情報板
街路文字情報板
街路図形情報板

JCT手前で
図形情報板

入口手前で
文字情報板

トンネル手前で
トンネル警報板とトンネル用信号機

道路交通情報アプリやSNSを活用した情報提供サービス

適切な交通情報をリアルタイムに提供できるよう、様々な取り組みを進めています。

スマートフォンなどによるオンデマンド型の交通情報案内や走行箇所に応じた交通安全情報提供に対応できるよう、情報アプリ「mew-ti」の更新を進めています。さらに、より多くのお客さまへの

情報提供手段としてSNS (Twitter、LINE) を活用しています。これらにより、通常時の交通情報だけでなく、災害や事故による通行止めの際には解除見込み情報等のお客さまに必要な情報をより迅速に提供します。さらに、より高度な情報の提供を目指し、最新技術を取り込んだ交通情報データベース開発にも取り組んでいます。

■ 道路交通情報アプリ「mew-ti」



■ Twitterによる情報提供



■ LINEによる情報提供



ETC2.0サービスの提供

ETC2.0路側機(通信アンテナ)を活用し高度な道路交通情報や安全運転支援情報等を提供するETC2.0サービスの展開を進めています。2022年4月現在、首都高全線の180箇所で開催されています。

ETC2.0サービス
(2022年4月現在)

180箇所

渋滞手前などで
情報アプリ「mew-ti」
GPS運動により走行箇所に応じた注意喚起をします。



JCT手前などで
所要時間表示板

経路比較タイプ



渋滞ポイント付近で
渋滞末尾情報板



パーキングエリアで
首都高ナビ(大型パネル/タッチパネル)

大型パネル タッチパネル



出口手前で
文字情報板



パーキングエリア

出口

JCT手前で
文字情報板



浜崎橋JCT、一ノ橋JCT、谷町JCTにて情報板を左右に分割して方向別の表示を実施

快適に通行できる料金所を目指して

料金所において現金の受け渡しやETCカード処理等を行う料金収受業務では、収受を担う係員が使命感をもち、迅速かつ正確な料金収受を心がけて日々の業務に取り組んでいます。本業務に必要な機器の操作や基本動作に加え、新しい料金制度や緊急時の対応等も確実に行うことができるよう、日々の研修や朝礼での確認を徹底し、技能向上に努めています。また、お客さまに気持ちよくご通行いただけるよう、接客スキルの向上にも積極的に取り組んでいます。



Web会議システムを活用したお客さまサービス向上研修の様子

VOICE



首都高トールサービス東京(株)
箱崎営業所
浅妻 卓子

私は箱崎料金所で料金収受を担当しています。料金収受は、首都高をご利用されるお客さまと直接対面する非常に重要な仕事だと考えています。私の接客に対するお客さまの印象が、首都高全体へのイメージになる可能性がありますので、適度な緊張感を保ちつつ、常に笑顔を保つよう心がけています。

また、現在首都高では、ETC専用化が進められています。今後、ETC専用となる料金所が順次拡大していく予定ですが、私は、現金でお支払いされるお客さまに対し、これまでと変わらず、笑顔で丁寧に心を込めてご対応させていただきたいと思っています。



快適な都市型PAの実現に向けて

首都高には大小合わせて20箇所のPAがあります。都心の限られたスペースの中でお客さまに安心・快適にご利用いただけるよう、PAのサービス向上に取り組んでいます。

PAリニューアルの推進

お客さまがPAで過ごす時間をより快適に感じられるようトイレのリニューアルを進め、現在、和式便器の洋式便器への交換を全PAで完了しております。

今後のPAのリニューアルの際には、太陽の熱や光、風といった自然のエネルギーを積極的に活用した空間設計によりPAのエネルギー消費を抑えるとともに、木材利用を推進することで炭素の排出抑制に貢献し、これまで以上に環境にも人にもやさしいPAを目指します。

施設のバリアフリー化の推進

身体障がい者専用駐車マスやオストメイト対応トイレの設置を進めています。2022年4月末現在で、身体障がい者専用駐車マスは全20PA、オストメイト対応トイレは19PAに整備されています。

公衆無線LANサービスの提供

20箇所のPAのうち6箇所で、どなたでも無料で利用できる公衆無線LANサービス[Shutoko Free Wi-Fi]を提供しています。

環境にも人にもやさしいPAづくり

都市景観と調和した、より良い空間づくりを目指しています。代々木PAは環境に配慮したエコPAを志向し、建物の電灯等の電力を補う太陽光発電のソーラーパネルや、駐車場に遮熱性舗装を取り入れています。また、壁や屋上を緑化し、建物の窓には低放射ガラス(通称:Low-Eガラス)を採用するなど、周囲の自然と調和し、ご利用のお客さまが運転の疲れを忘れてくつろげるPAづくりを進めています。その他、用賀PAや平和島PA(下り)なども施設に緑を取り入れており、環境にも人にもやさしいPAづくりを推進しています。

TOPICS

川口ハイウェイオアシスがOPEN



首都高初のハイウェイオアシス*「川口ハイウェイオアシス」が2022年4月25日にオープンしました。

川口ハイウェイオアシスは、川口市が整備するイナパーク川口(赤山歴史自然公園)と川口線(上り)川口PAとを連結し、一体的に整備した施設です。この整備によりPAの機能を拡張

するとともに、首都高を降りることなく公園や地域を散策することができる快適な空間となりました。

また、ハイウェイオアシス内の商業施設や屋内遊具施設の運営を通じて、お子さまからお年寄りまで幅広い世代が集い・憩える場所を提供してまいります。



【整備概要】

- 駐車場の拡張：駐車台数が従来の119台から227台にほぼ倍増
- トイレの増設：PA内の既設トイレに加えて、公園内に新設されたトイレも利用可能に。休憩所も併設
- 商業施設の拡張移転：PA内の商業施設を公園内へ移転し、レストランの座席数や売店の売場面積を約2倍へ拡張
- 屋内遊具施設の設置：株式会社ボーネルンドがプロデュースする関東最大級の屋内外遊具施設「ASOBooN」を設置

* 高速道路の休憩施設と都市公園などを一体的に整備し、高速道路利用者に潤いのあるスペースを提供するとともに、都市公園などの利用増進を図る施設

VOICE

首都高速道路サービス㈱
営業第二部 リテイル営業課
課長 御園生 敦

川口ハイウェイオアシスの開業にあたっては、公園区域への移転、川口市からの工事・維持管理の受託、遊具施設の整備及び管理運営など、当社にとって初めてのことがばかりでした。苦労も多々ありましたが、多くのお客さまにお越しいただける施設になってほしいという思いの下、準備を進めてきました。また、公園内というユニークな立地や、地域とのつながりを活かして、川口市の地場産業の鋳物や植木を、建材や遊具に取り入れています。

これから川口ハイウェイオアシスが、より多くのお客さまに首都高を知っていただくきっかけとなり、首都高と地域の結節点として地域社会に貢献する存在になってほしいと願っています。



川口市役所 都市計画部
赤山歴史自然公園整備室
室長補佐 小野寺 裕司 さま

2012年度から川口ハイウェイオアシスの整備に携わり、約10年の時間を要しましたがようやく完成、オープンを迎えることができました。

屋内遊具施設を計画に追加したこと、建設費高騰による設計の見直しなど数多くの困難な課題を関係者の皆さまと議論し、ともに乗り越え、形となったことを大変嬉しく思っています。

今後、川口ハイウェイオアシスは、高速道路利用者にも潤いのある空間を提供するとともに、多くの方々に来園していただき、みんなが笑顔になり、川口の魅力を発信することのできる場所となればと思っています。

お客様の声に迅速に応えるために

首都高に関するお客さまからの総合的なお問い合わせ窓口として『首都高お客さまセンター（営業時間 24時間（年中無休））』を設置し、お客様の声に対して迅速に対応しています。さらに、当社Webサイトにお問い合わせフォーム（グリーンポスト）を設けてお客様の声をお聞きするなど、様々なご意見を承る機会を充実させています。

また、お客さま対応品質の向上とお客さまの声のより一層の反映を目指し、2015年にISO10002:2014（JISQ10002:2015）*の「自己適合宣言」を行いました。その後、2020年にISO10002:2018（JISQ10002:2019）*への適合を確認しました。

*お客さま対応プロセスを継続的に改善するためのマネジメントシステムで、正式名称は「品質マネジメント—顧客満足—組織における苦情対応の指針」

VOICE



りらいあコミュニケーションズ株式会社
社員ライフライン本部
ライフライン第一事業部
第二サービス室
馬嶋 佳孝 さま

わたしたちは、首都高速道路(株)とともに「首都高お客さまセンター」を支えています。

首都高速道路(株)の「お客様第一」の経営理念に基づき、所要時間、渋滞・混雑状況、入口閉鎖状況などの最新の情報を提供するとともに、通行料金・各種割引についてのご質問や、その他、首都高に関するすべてのご質問・お問合せ・ご意見・ご要望を24時間・365日承っています。

お客さまのお顔が見えない分、常にお客さまのお声にしっかりと耳を傾け、迅速、誠実かつ公平に対応することを日々心掛け、お客さま満足の向上を目指しています。

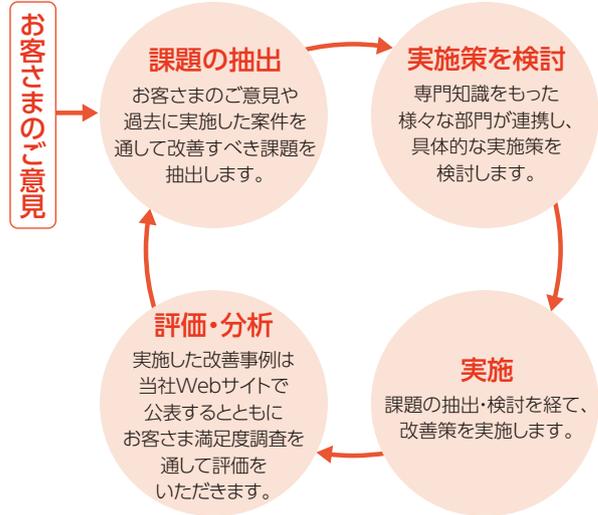
お客さまからの「ありがとう」のお言葉を励みに、これからも、安全・安心で快適に首都高をご利用いただけるよう、より一層のお客さま対応に努めてまいります。

過去3箇年のお客さまセンター・グリーンポストのお問い合わせ件数・ご意見件数

形態	2019年度	2020年度	2021年度
お客さまセンター	645,914件	423,339件	546,473件
グリーンポスト	1,882件	1,800件	2,328件
	835件	877件	1,145件

●お客さまセンター欄中、上段の件数は所要時間や渋滞状況等に関するお問い合わせ件数、下段の件数は上段の件数のうちご意見等に当たる件数を示すもの

お客さまのご意見を改善に活用させていただく流れ



お客さまからのご意見件数
(2021年度)

3,473件

●お客さまセンター、グリーンポスト合計

〈首都高ドライブズサイト〉



お客様の声を活かした改善の実施

2021年度には276件の改善を実施しました。今後も、お客さまのご要望、貴重なご意見を真摯に受け止め、さらなる改善に努めます。

お客様の声

箱崎PAの大型車用駐車マスに普通車が停まっていて、大型トラックを停められず困っています。

原因

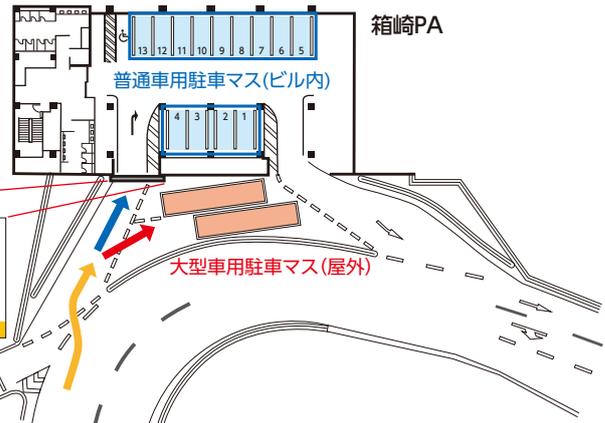
普通車を含む小型車が、ビル内にある駐車マスでなく、屋外にある大型車用の駐車マスを利用して

対策

PAへ入るお客さまが気がつきやすい位置に、普通車はビル内、大型車は屋外へと車種別に誘導する案内看板を設置しました。

お客様の声による
改善実施件数(2021年度)

276件



路面標示による車種別の駐車位置案内を実施



看板の追加により駐車位置案内を強化

特集

お客さまのために

社会のために

環境のために

株主 投資家の皆さまのために

取引先の皆さまのために

社員ののために



交通安全対策の推進

貢献する SDGsの目標



交通安全の実現に向けて

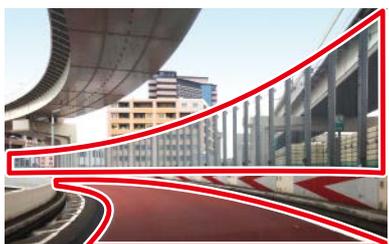
渋滞・事故分析に基づく安全対策

事故多発箇所において、事故要因に応じた交通安全対策等、効果的な対策を実施し事故防止に努めています。具体的には、分合流部での整流化を促し車両接触を抑制する区画線白実線化、カーブ区間での走行速度に注意を促すカラー舗装、二輪車安全対策、追突注意を促す路面文字等の対策を行っています。また、雨天時の重大事故が懸念される施設接触事故抑制のため、mew-tiアプリを用いて、事故多発地点へ進入する手前での安全情報の提供をしています。

2018～2020年度事故対策実施前後の年間事故件数 (箇所当たり)



区画線白実線化・車両接触事故対策 (板橋～熊野町JCT間)



注意喚起カラー舗装及び二輪車安全対策・施設接触事故対策 (阪東橋出口)



路面文字・追突事故対策 (6号向島線(下り)新大橋カーブ手前)

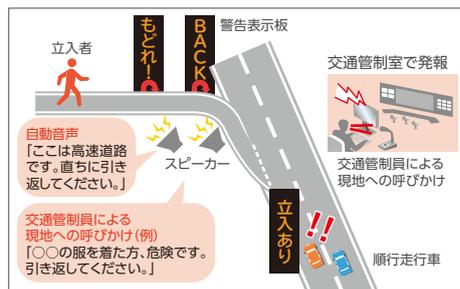


mew-tiアプリを用いた天候別安全情報提供(イメージ)

逆走車や歩行者等の立入対策

車の逆走、歩行者・自転車等の立ち入りによる事故を防止するため、各出入口共通の注意喚起対策として、注意喚起看板や路面文字等を設置しています。また、立ち入り実績のあった箇所や構造上立ち入りやすいと思われる箇所に関しては、センサーを用いた立入、逆走検知・警告システムの導入や出口部への黄色カラー舗装の実施を進めており、今後も継続的な展開を予定しています。

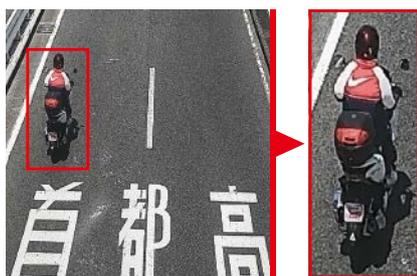
さらに、昨今、ナビアプリの「自動車モード」を使用して誤って125cc以下の自動二輪車等が立ち入る事案が多発していることから、ナビアプリ会社への働きかけやナビアプリ利用時の注意点を周知しています。



立入、逆走検知・警告システムイメージ



黄色カラー舗装 (新都心出口)



125cc以下の自動二輪車の立ち入り事案 (戸越入口)



ナビアプリ利用時の注意点 (例: Googleマップ)

交通安全啓発活動推進

PA等における警察や他の高速道路会社と連携した交通安全キャンペーン、交通事故が多発している路線・地点での注意喚起広報、当社社員による安全運転講習会の実施等、交通安全啓発活動を推進しています。

2007年より、展開しているスマートドライバープロジェクト*の推進、交通安全イベントの開催等、社会の交通安全意義の向上に向けて積極的に取り組んでいます。

*「思いやりを増やす。交通事故を減らす。」をスローガンとした事故削減活動



PAにおける交通安全キャンペーン実施状況

交通安全キャンペーン実施回数 (2021年度)

84回

法令違反車両対策の強化

現場取締実施回数
(2021年度) **791**回

効果的な取締り

道路法(車両制限令)に定められている車両の大きさや重さに違反する車両の通行は、道路構造物や交通に著しい悪影響を与える可能性があります。

道路構造物を保全し交通の危険を防止するため、違反車両に対して警察や他の道路管理者と協力した合同取締り、軸重測定設備*を用いた取締り等、効果的な取締りを実施しています。

さらに、落下物接触事故を防止するため、積荷の是正指導等を実施しています。

*自動的に走行車両の軸重を測定し、違反車両を特定する設備

反復・悪質違反者への対応

道路法(車両制限令)違反車両情報を高速道路会社6社で共有し、違反の反復状況に応じて、違反者講習会や大口・多頻度割引の割引停止措置等を実施しています。

また、違反者講習会欠席者等の悪質な違反者に対しては個別訪問による是正指導を実施するなど、道路法違反車両に対して厳正に対処しています。



法令違反車両取締りの様子

TOPICS

交通巡回隊員の想い

～ お客さまに安全な首都高速道路を24時間365日ご利用いただくために ～



交通巡回の実施

パトロールカーにより定期的に首都高全線を巡回監視しています。交通事故、故障車、落下物等異常事態が発生した場合は、現場に急行して警察や消防などの関係機関とともに事故対応を行うほか、故障車の支援、落下物の回収など、安全で円滑な交通の確保を図ります。

交通事故、故障車、
落下物等の対応件数
(2021年度)

約**40,000**件

お客さまの声

エンジントラブルで立ち往生していたところ、パトロールカーがすぐに駆けつけてくださり、風が吹いて寒い中、隊員の皆さんはレッカー車が到着するまでの約1時間半もの間、事故が起こらないよう外に出て一生懸命に交通整理に努めてくださいました。



運転していたトラックが故障してしまい、不安になっていたところパトロール隊員の3人が来てくれて、手押しで安全な場所まで移動していただき助かりました。体調を気遣っていただき、心配りにも感謝しています。

VOICE



首都高パトロール(株) 西東京事業本部 羽田交通管理部
高橋 恵

首都高の安全・安心を守る。これが私たちの使命です。常に危険との隣り合わせですが、首都高をご利用になるお客さまに、安心して、安全に目的地に到着してほしい、そのような願いのもとパトロールをしています。

私は、首都高で数少ない女性交通管理隊員です。男性と同じ業務ですが、中でも私らしくできることはないかと考えて業務にあたっています。駆けつけた現場でお会いするお客さまの中には、女性の方やお子さまも多くいらっしゃいます。少しでも不安な気持ちを和らげられるよう、やさしい雰囲気でお話を心掛けています。

1日100万台近くが通行する首都高では、どこかでアクシデントは発生してしまうものです。駆けつけた現場で直接「ありがとう」とお礼の言葉をかけてもらえることが、日々の準備と訓練の励みになっていますが、こうして後日、グリーンポストやお客さまセンターにメッセージが届いているのを知ると、身の引き締まる思いがします。

これからも仲間とともに協力し助け合い、24時間365日休むことなくパトロールを行い、「安全」・「安心」・「快適」を基本に、お客さまの「笑顔」を守っていきたくと思っています。

首都高パトロールのことをもっと知りたい方はこちら



特集

お客さまのために

社会のために

環境のために

株主・投資家の皆さまのために

取引先の皆さまのために

社員のために



社会の ために

社会、とりわけ地域の皆さまとともに、
地域社会の発展を目指します。

CONTENTS

高速道路ネットワークの整備	31
災害対応力の強化	33
社会に根差した技術革新	35
国内外への技術力の展開	36
地域社会との連携	38
社会に貢献できる企業を目指して	39

高速道路ネットワークの整備

貢献する
SDGsの目標



首都高ネットワークの充実を目指して

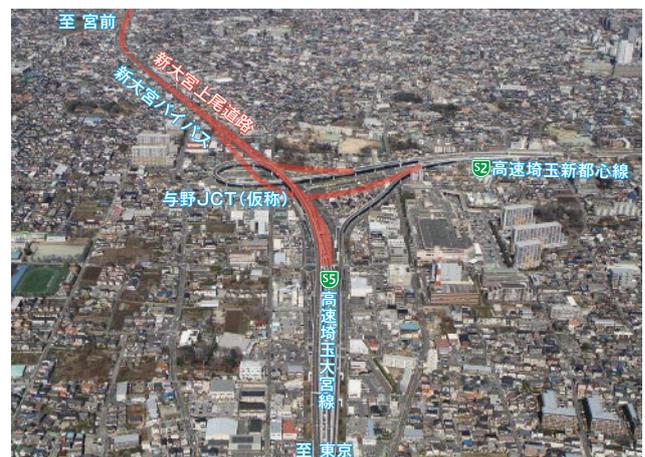
首都高のネットワーク整備は、2014年度に中央環状線が全線開通した後、2016年度には神奈川7号横浜北線、2017年度には10号晴海線(晴海～豊洲)、2019年度には神奈川7号横浜北西線が開通し、さらなるネットワークの拡充が図られました。今後も首都高ネットワークのさらなる整備を進めていきます。

新大宮上尾道路(与野～上尾南)

国土交通省関東地方整備局との共同事業として、一般国道17号(新大宮上尾道路(与野～上尾南))事業に着手しました。新大宮上尾道路は埼玉県を中心部を南北に縦断する路線で、さいたま市中央区円阿弥から鴻巣市箕田間の延長約25.1kmの自動車専用道路です。そのうち、さいたま市中央区円阿弥から上尾市堤崎までの延長約8.0kmを事業区間とし現在事業を進めています。既存の首都高ネットワークと一体となり、東京都心と埼玉県中央地域の交通アクセス向上を図るとともに、一般国道17号新大宮バイパスにおける交通事故の防止や渋滞の緩和等へ貢献していきます。



宮前付近(2019年3月8日撮影)



与野JCT(仮称)付近(2019年3月8日撮影)

首都高ネットワーク



新大宮上尾道路(与野~上尾南)

路線一覧

- ① 高速都心環状線
- ② 高速中央環状線
- ① 高速1号上野線
- ① 高速1号羽田線
- ② 高速2号目黒線
- ③ 高速3号渋谷線
- ④ 高速4号新宿線
- ⑤ 高速5号池袋線
- ⑥ 高速6号向島線
- ⑥ 高速6号三郷線
- ⑦ 高速7号小松川線
- ⑨ 高速9号深川線
- ⑩ 高速10号晴海線
- ⑪ 高速11号台場線
- Y 高速八重洲線
- B 高速湾岸線
- K1 高速神奈川1号横羽線
- K2 高速神奈川2号三ツ沢線
- K3 高速神奈川3号狩場線
- K5 高速神奈川5号大黒線
- K6 高速神奈川6号川崎線
- K7 高速神奈川7号横浜北線
- K7 高速神奈川7号横浜北西線
- S1 高速川口線
- S2 高速埼玉新都心線
- S5 高速埼玉大宮線

PA一覧

- 高速1号羽田線
平和島PA(上り)
平和島PA(下り)
- 高速3号渋谷線
用賀PA
- 高速4号新宿線
永福PA
代々木PA
- 高速5号池袋線
志村PA
南池袋PA
- 高速6号向島線
箱崎PA
駒形PA
- 高速6号三郷線
加平PA
八潮PA
- 高速9号深川線
辰巳第一PA
辰巳第二PA
- 高速11号台場線
芝浦PA
- 高速湾岸線
市川PA
大井PA(東行き)
大井PA(西行き)
大黒PA
- 高速神奈川1号横羽線
大師PA
- 高速川口線
川口PA(川口ハイウェイオアシス)

凡例

首都高 (未開通区間) (表記上の略称)

その他の高速道路等 JCT: ジャクション

PA: パーキングエリア

(2022年3月現在)

特集

お客さまのために

社会のために

環境のために

株主 投資家の皆さまのために

取引先の皆さまのために

社員のために

災害対応力の強化



災害時の安全確保に向けて

首都圏のくらしや社会経済活動を支える重要な役割を担っている首都高。お客さまの安全の確保、道路交通機能の維持のため、災害対策を強化し、大雪・大雨などの異常気象や地震の発生に備えています。

迅速な対応を実現する地震防災対策

地震等の災害発生時にお客さまの安全を確保するとともに、道路交通機能を維持し緊急交通路^{※1}・緊急輸送道路としての社会的役割を果たすために「防災業務計画」を定め、国や関係機関等と緊密な連携を保ちつつ、地震その他の災害に対する措置を講じています。

また、災害発生時の相互協力を定めた連携協定を陸上自衛隊東部

方面隊(2016年9月)、東京ガス株式会社(2019年10月)、KDDI株式会社(2020年3月)、東京電力ホールディングス株式会社(2020年10月)とそれぞれ締結し、災害への備えをより強化しました。

※1 大規模な災害発生時に、災害対応を実施する消防・救急・警察・自衛隊などの緊急車両や道路点検車、災害応急対応車両の通行を優先し、一般車両の通行を禁止する道路

緊急交通路の確保

地震発生時に橋梁の損傷を軽微なものに留め、早期の緊急交通路の確保を可能にするため、^{ししよ}支承(橋桁を支える台座)や落橋防止構造の一層の強化を進めています。

大規模地震が発生した際は、「首都直下地震道路啓開計画(八方向作戦)」^{けいかい}※2に基づき、関係機関と連携して緊急交通路を確保し、消

防車、救急車、自衛隊等の緊急車両の通行を可能とする必要があります。迅速に緊急交通路を確保するために段差修正材等の応急資機材の配備を進めるとともに、首都高グループが一体となって訓練を行っています。

※2 首都直下地震道路啓開計画検討協議会(国土交通省、東京都、当社等が参加している)が定めた計画



地震時の緊急交通路確保(訓練の様子)

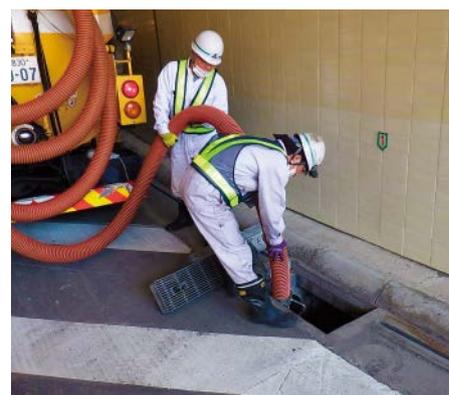
大雨対策の強化

大雨時でもお客さまが安全・安心に首都高をご利用できるよう対策を強化しています。

降雨時には、文字情報板によりお客さまへの注意喚起を行っています。気象予測情報から大雨が予測される場合には、排水柵の事前清掃など滞水等の事前準備を行います。また、排水施設、舗装の改良等による対策を行っており、滞水による交通障害の防止に努めています。



文字情報板での注意喚起イメージ



排水柵の事前清掃

積雪・凍結対策の取り組み

当社では、2018年1月22日からの積雪・凍結により発生した「長時間の車両滞留」及び「通行止めの長期化」の再発防止を基本方針としています。

また、2020年度に北陸地方で発生した大規模車両滞留を踏まえ、国の「冬期道路交通確保対策検討委員会」による『大雪時の道路交通確保対策 中間とりまとめ(令和3年3月改定)』においては、従

来の「出来るだけ通行止めしない」や「道路ネットワーク機能への影響の最小化」から、「人命を最優先に、幹線道路上で大規模な車両滞留を徹底的に回避する」という基本的な考え方を転換することとされました。

これらを踏まえ、当社は、ソフト・ハードの両面から様々な取り組みを実施していきます。

「車両滞留」の防止

■ 予防的通行止めの実施

首都高では大雪が予想される場合、車両滞留を予防するため、路面状況が悪化することを想定して、あらかじめ早い段階で行う予防的通行止めを実施することがあります。

その際は、降雪前から出控え広報を含め適切な情報提供を行い、現場状況を正確に把握できる体制や、車両滞留が発生した場合のお客さま支援体制を強化します。

冬期は冬用タイヤの装着とタイヤチェーンの携行をお願いするとともに、雪道走行時のチェーン装着の徹底を呼びかけてまいります。

■ 車両立ち往生発生リスク箇所への対応

路面への積雪・凍結に伴うお客さまの車両の立ち往生を防ぐため、過去の事例や勾配などのデータから選定した車両立ち往生のリスク箇所を中心にカメラの増設等を行い、監視体制を強化しています。

また、車両立ち往生が発生した場合は、事前に付近に配備したレッカー車により迅速に車両移動を行います。

「通行止めの長期化」の防止

■ 首都高の構造的特性に応じた積雪・凍結対策の強化

首都高は高架構造の割合が高く、冬期は構造物が上下から冷やされ、降雨・降雪時に路面凍結が起こりやすいという構造上の特性があります。

加えて首都高は路肩が狭く、積雪時には雪を路肩に寄せるスペースがないことから、除雪車両で積もった雪を集める「除雪」と、集めた雪をダンプカーに積んで道路外に運び出す「排雪」の2段階の作業が必要です。

そのため、降雨・降雪時の路面状況の悪化に備えた凍結防止剤散布、積雪時の除排雪作業体制の強化により、通行止め時間の短縮を図ります。



除排雪作業状況



凍結防止剤散布状況



(参考)2021年度の取り組みポスター

確実な情報提供

■ お客さまへの適切な情報提供

気象情報等に基づく予防的な通行止め情報の提供、不要不急の外出を控えていただくための事前広報を実施します。また、通行止めとなった際は、解除予定情報を提供します。事前広報、交通規制等の情報は当社Webサイト、mew-ti、SNS(Twitter等)、文字情報板や日本道路交通情報センターの放送によりお知らせしています。

また、トンネル内のお客さまに対しては、ラジオ再放送、拡声放送設備を活用し、情報提供を行います。

ツイッターアカウント: [公式] 道路交通情報@首都高

 @shutoko_traffic



関係機関との連携強化

■ 警察や関係機関との連携

通行止めや通行再開時の連携について、警察、国土交通省、他の高速道路会社との事前調整を行います。

特集

お客さまのために

社会のために

環境のために

株主・投資家の皆さまのために

取引先の皆さまのために

社員ののために



社会に根差した技術革新

貢献する
SDGsの目標



都市高速道路の技術開発の推進

都市内に位置する首都高は、施工スペースに制約がある一方で、円滑な道路ネットワークの確保、高齢化が進行する構造物の補修や耐震に向けた対応も求められています。さらに、騒音・振動といった沿道への影響の軽減、新材料や省エネルギー・再生可能エネルギーの活用による環境負荷の軽減にも取り組む必要があります。これら

の状況に対応可能な、優れた維持管理・更新技術を開発することを目指し、グループ会社、(一財)首都高速道路技術センター、政府、大学、他企業と幅広く連携を図りながら、社会に根差した新たな技術や工法の研究開発を進めています。開発した技術が広くインフラ事業に活用されることで、社会の健全な発展に貢献できるよう努めています。

お客さまや周辺へ配慮した技術開発を目指して

新たな技術の採用により、環境負荷の軽減、新たな耐震性向上手法の採用、新規開通や交通規制低減による利便性向上を実現しています。

環境にやさしい水性塗料を使用した鋼橋の塗替え技術

令和2年度 土木学会賞 田中賞 作品部門 受賞

鋼橋の塗替え塗装に用いられる塗料には、引火しやすく大気汚染の原因となる揮発性有機化合物(VOC)が含まれています。そこで、VOCを従来塗料の約1/5に削減した水性塗料を標準塗料として採用しました。大気中へのVOCの排出量を削減し、火災リスクも大幅に低減しています。鉄面へ水性塗料を塗布することは、錆の発生や塗りにくいといった課題がありましたが、独自の規格・仕様を定めることで解決しています。



水性塗料を用いた塗替え

制震デバイスによる高架橋の耐震性向上技術

特許第6344836号、特許第6476055号、特許第6476054号
第23回国土技術開発賞 入賞

高架橋の耐震性向上に用いるダンパー等の制震デバイスを開発し、補強が必要な橋梁に順次設置しています。首都高は、地震時に緊急交通路として確実な機能を果たし、地震後の復旧においても、首都圏の物流を担う、という重要な役割が求められています。そのため、地震による構造物の損傷を制御する各種制震デバイスとその設計方法を、民間企業との共同研究により開発しています。



ダイス・ロッド式摩擦ダンパー

高速施工と高耐久化を実現した都市高速道路の更新技術

～東品川栈橋・鮫洲埋立部更新事業～

令和3年度 土木学会賞 インフラメンテナンスプロジェクト賞 受賞
日建連 第2回土木賞 受賞

都市高速道路の構造物の更新では、制約の多い施工条件下での施工性向上や通行止めによる社会的影響の低減を図る必要があります。東品川栈橋・鮫洲埋立部更新事業では、迂回路を設置し長期の通行止めを回避しながら、高架部にはプレキャスト製の床版や高欄を、土工部にはプレキャストボックスカルバートを採用することで、高速施工と高耐久化を実現しています。

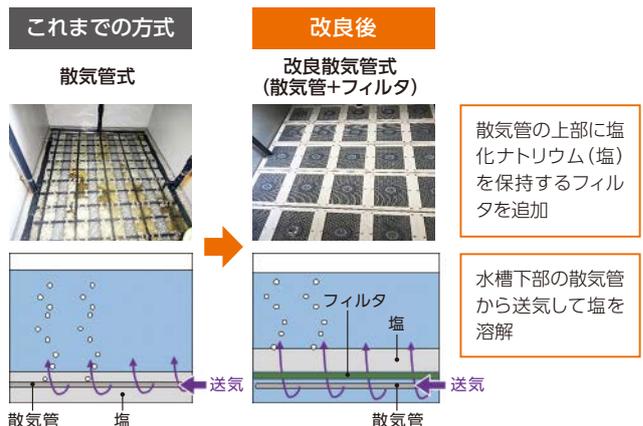


狭隘空間でのプレキャストボックスカルバートの施工

路面凍結防止用塩水の製造能力向上技術

冬季降雪時には、路面凍結を防止するため、塩水散布車により路面に塩水を散布します。散布する塩水は、塩化ナトリウムと水を混合して濃度20%となるように塩水製造施設で製造しています。

降雪が長期化すると大量の塩水が必要となることから、塩水製造施設の下部に設置している散気管の上部に、塩化ナトリウムを保持するためのフィルタを追加することにより、溶解速度を向上させ、塩水製造能力の向上を実現しました。



国内外への技術力の展開



国内における取り組み

国内技術コンサルティング事業

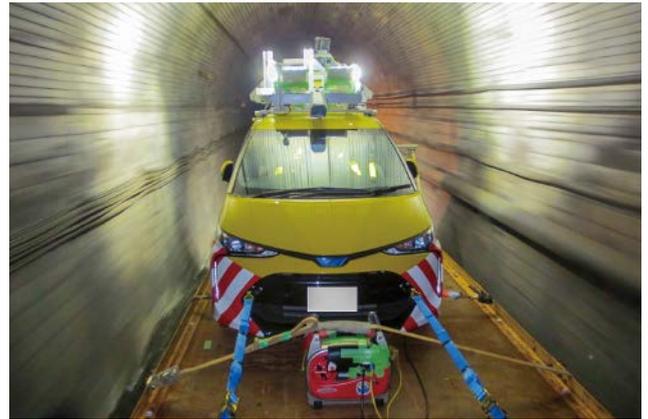
■ 土木分野におけるコンサルティング

当社ではこれまで半世紀以上にわたり、首都高の計画・建設・維持管理・交通運用を担ってきました。道路構造物の点検が義務化され道路メンテナンスへのニーズが高まっている中、当社において培われた専門技術力を活かし技術コンサルティング事業を行っています。



橋梁における床版・桁の点検作業

また、国・地方公共団体が管理する道路の点検・診断、補修設計・耐震補強設計等の業務を実施するとともに、首都高グループが開発した道路構造物の維持管理システム(インフラドクター®)を、道路分野のほか、鉄道、空港分野へ展開しています。



3次元点群データ計測車両(伊豆急行線トンネル内)

■ 建築分野におけるコンサルティング

当社はこれまでに500棟を超える建物の設計や工事を手掛けてきました。これらの実績をもとに、2007年に一級建築士事務所を設立し、公共及び民間の建築設計業務を中心に技術力を活かし、設計から工事・工事監理までを首都高グループで一貫した建築コンサルティングを行っています。

現在、国・地方公共団体が促進する緊急輸送道路沿道建築物の耐震化事業を踏まえて耐震診断、耐震補強設計や東京都及び横浜市の耐震アドバイザーとして、お客さまの生活に適した補強方法の提案などを実施しています。

また、近年は公共分野の建築設計にも参入し、一級建築士事務所として安全・安心なまちづくりに貢献しています。



当社事務所で設計した板橋区公衆トイレ

維持管理技術の紹介を通じた地域貢献

首都高グループの技術を広く道路インフラ等の維持管理に活用いただくため、国・地方公共団体等の職員を対象に「橋梁の維持管理技術に関する勉強会」を開催しています。2021年度は12月に開催し、15団体52名の方にご参加いただきました。勉強会では、首都高グループの補修や点検に関する技術内容や活用方法について議論する場を提供しました。

こうした維持管理技術を広く伝える取り組みを通じて、道路インフラ全般の適切な維持管理に貢献しています。



橋梁の維持管理勉強会(横浜ベイブリッジ)

特集

お客さまのために

社会のために

環境のために

株主・投資家の皆さまのために

取引先の皆さまのために

社員のために

海外における取り組み

海外技術コンサルティング事業

2010年に国際協力機構(JICA)から受注した業務を皮切りに、海外に向けた技術コンサルティング事業を開始し、新興国を中心に維持管理・交通管制・ITS等の業務を推進しています。2011年にはタイのバンコクに海外駐在員事務所を開設し、タイやその周辺国を中心



橋梁現場調査(ガーナ)

国際貢献

JICA等が実施する研修の受け入れを積極的に行っており、世界各国の研修生を当社施設や工事現場等へ招いています(2021年度は新型コロナウイルス感染症の影響により受け入れはありませんでした)。また、カンボジア、タイ、インドネシア、ミャンマー、マレーシア、フランス、フィリピン、計7か国12機関の道路機関等と「技術協力を



東品川橋・蛟洲埋立部現場視察(フィリピン・MPTC社)

にさらなる海外展開を図っています。

また、タイのドンムアン有料道路(株)やタイ高速道路公社(EXAT)からITS等の業務を受注するなど、海外企業からの直接受注を含め、海外への技術展開を進めています。



関係機関へトンネル防災説明(フィリピン)

関する覚書」を締結しており、道路分野における積極的な技術協力を推進しています。また、新興国の政府機関等へ技術者を長期派遣し、技術指導や技術者育成にも協力しており、これまで計10か国35名(2022年3月時点)の専門家を派遣してきました。今後も技術指導や技術協力を通じた国際社会への貢献を進めていきます。



オンライン会議後の記念撮影(マレーシア・プロリントス社)

TOPICS

タイ高速道路公社(EXAT)との交流

2022年1月にタイ国高速道路公社(EXAT:Expressway Authority of Thailand)の交通管制室等のバーチャルツアーを開催しました。

これは2021年にEXATが庁舎を新築し、交通管制室等を刷新したことを受けて、バンコク事務所が本企画を提案し、実現したものです。

当日は、EXATの交通管制システム等の概要紹介に加え、交通管制室等をGoogle Meetで生中継しました。

コロナ禍で行き来ができない状況でしたが、工夫を凝らして技術交流を継続することで、コロナ後の海外道路機関等との技術協力関係のさらなる強化に繋げていきたいと考えています。



バーチャルツアー後の記念撮影



EXATのFacebookに掲載された写真

地域社会との連携



特集

お客さまのために

社会のために

環境のために

株主・投資家の皆さまのために

取引先の皆さまのために

社員ののために

自治体との相互協力

各自治体と当社が持つそれぞれの資源の有効活用を目的に、4つの都県市と包括的連携協定を結んでいきます。防災・災害対策の面で相互に協力することによる高速道路における安全・安心の確保や環境保全推進の取り組みなど幅広い分野での連携を強化しています。また、イベント・広報活動なども協力して行うことによって、観光振興への貢献などを図るとともに、PAにおける地域情報の発信、地域製品のPRなども行っています。

包括的連携協定の締結実績

2011年 2月	東京都
2012年10月	千葉県
2016年12月	神奈川県
2020年 3月	横浜市

地域活性化を目指して

地域との連携を強化し、積極的な情報発信を進めることで地域間の交流や連携を促進し、それぞれの多様性を活かした魅力ある地域づくりを目指します。地域の皆さまとともに取り組むことで、地域が抱える課題の解決や地域活性化に貢献していきます。

地域協働イベント

■ 地域の魅力を伝え、観光を促進するPAイベント

地方公共団体と協働して、PAにおいて物産品や農産物の販売、地域の観光パンフレットの配布など、地域の魅力を伝え、観光を促進するイベントを実施してきました。今後もPAを活用し、地域とのより一層の連携を深めていきます。



PAでの観光促進イベント

■ 国立公園を有する地域の魅力を伝えるPAイベント

環境省と2016年度に締結した「国立公園オフィシャルパートナーシップ」を踏まえ、2018年度・2019年度には長野県と協働して、長野県内の国立公園の紹介と地域の魅力を発信するイベントを川口PA及び大黒PAで実施しました。今後もパートナーシッププログラムの取り組みとして、地方公共団体と協働し、PAにてイベントを開催していきます。



国立公園の紹介と地域の魅力を発信するイベント

■ 地域の魅力を伝えるオンラインイベント

埼玉県、さいたま市及びJAタウンと連携し、観光PR動画の放映、オススメ観光地、物産品等の紹介により埼玉エリアの魅力を発信するオンラインイベントを実施しました。



バーチャルPA

■ 地域を盛り上げる現地でのイベント

レインボーブリッジを期間限定のスペシャルライトアップで彩り、レインボーブリッジが結ぶお台場地区を盛り上げることで、地域活性化に向けた取り組みを行ってきました。

今後も沿道地域の皆さまと協働して、地域の魅力をPRする取り組みを行っていきます。



レインボーブリッジ スペシャルライトアップ

社会に貢献できる企業を目指して



社会活動への協力

アウェアネスカラー運動への賛同

レインボーブリッジ等のライトアップやイルミネーションの変更によりアウェアネスカラー*運動に賛同しています。

2021年度は、2020年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症患者の治療に尽力する医療関係者等に感謝を示し応援するためのライトアップを、また、国際パラリンピック委員会からの依頼に基づき、東京パラリンピック競技大会の開催に先立ち、障がい者に対する差別をなくすためのキャンペーン「WeThe15」設立を記念するライトアップを、レインボーブリッジにおいて実施しました。

また、これまでは、乳がんの早期発見・診断・治療の大切さを啓発する「ピンクリボン運動」や臓器移植医療の定着・推進を目的とした「グリーンリボン運動」の趣旨に賛同するライトアップやイルミネーションを実施しております。

*社会運動のシンボルカラーのリボンを装着したり、建造物をシンボルカラーにライトアップしたりすることでその運動への支援・賛同を示す色



医療従事者応援
ライトアップ(ブルー)

WeThe15ライトアップ(パープル)

社会課題への取り組み

次世代育成の支援

未来を担う子どもたちの健やかな成長を支援するため、見学・地域イベント・自然体験などを通じた様々な次世代育成活動に取り組んでいます。少子化が進み次世代育成の重要性が高まる中、活動を強化し、子どもたちの豊かな成長を支援しています。

今後も当社は「首都高」「交通」「仕事」に関するリアルな体験を通じて、子どもたちが新たな発見やさらなる学びを得て、未来を考える機会を提供していきます。

■ 首都高講座 子ども未来プロジェクト

小学生を対象に首都高を身近に感じる体験を提供する社会貢献イベントを毎年実施し、子どもたちの職業観を広げていくことをサポートしています。

2021年度は首都高の施設と小学校の教室を中継でつないだライブ授業を実施しました。首都高の取り組みを楽しく学べる体験型施設、「首都高MMパーク」(横浜市西区みなとみらい)や、首都高の「司令塔」ともいえる交通管制室をオンラインで見学し、当社社員と一緒に社会の仕組みを楽しく学びました。



子ども未来プロジェクトのYouTube動画はこちら

VOICE



目黒区立菅刈小学校
校長 前田 幸子 さま

本校児童と「首都高」との出会いは、10年前の稲作体験から始まりました。そのご縁で、首都高の仕事に関する、オンラインを活用した授業のご提案をいただき、キャリア教育の位置付けで本校の5年生が授業に参加しました。

教室の全面スクリーン画面いっぱいに首都高MMパークや交通管制室が映し出され、トンネルやパトロールカー、バイク隊の様子など、まさに働いている、動いている社会

の「今」と学びの「教室」が繋がれた授業でした。本物に触れることで児童の学びは確かな実感をもったものになり、現場の大人の姿は児童に夢を与えてくれました。始まったばかりの取り組みですが、子どもたちの未来への確かな手応えを感じました。



子ども未来プロジェクト2021の様子

■ しながわ職場歩き

品川区内の中学生が区内の企業を訪問し、社会人との対話を通して将来の具体的な職業観を育むことを目的とするプログラムに参加しています。 ※新型コロナウイルス感染症の影響により2021年度は中止



しながわ職場歩き

■ しながわ寺子屋

品川区内の企業や商店が中学校を訪問し、働く大人と中学生との対話機会を提供するプログラムに参加しており、中学生の職業観の醸成に寄与しています。



しながわ寺子屋

■ 夏休み親子見学会

横浜北西線沿線の地元小学校の親子を対象に、夏休み親子見学会を開催しました(11の小学校、120名参加)。2019年度は横浜北西トンネル内にて泡消火栓、非常電話、すべり台式非常口などの防災設備の見学・体験をしていただきました。

※新型コロナウイルス感染症の影響により2021年度は中止



夏休み社会科見学ツアー

■ 地元保育園との交流活動

地域貢献の一環として、地元保育園と交流を行っています。施設や現場見学のほか、毎年秋のハロウィンイベントでは、保育園児のパレードを出迎え、地元地域の一員として地域の子どもたちを見守っています。



ハロウィンイベント

待機児童問題解消への協力

当社が管理する9号深川線の管理地において、江東区認可保育所「ナーサリールーム ベリーベアー深川冬木」(受け入れ定員数200名)が2017年4月に開園しました。これは待機児童問題対策として江東区より要請を受け、設置協力を行ったものです。

敷地面積約4,500m²は開園当時日本最大級の広さを誇り、立地も駅から徒歩3分、駐輪場も150台以上を備えるなど、動きながら子育てをする世代をサポートする環境づくりに協力しています。



ナーサリールーム ベリーベアー深川冬木



TOPICS

目黒区 青少年プラザ社会教育講座 「君もファール～おおはしりの杜でいきもの探し」

2021年8月22日(日)、10月9日(土)に、目黒区青少年プラザ社会教育講座「君もファール～おおはしりの杜でいきもの探し」に当社社員が講師として参加しました。目黒川周辺の原風景を再現したおおはしりの杜を通じて、子どもたちが自分の町で共に暮らす生き物や植物を学びきっかけとなりました。今後も当社はおおはしりの杜における生態系保護に取り組むとともに、自然の大切さを伝えてまいります。



目黒区青少年プラザ担当
近堂 美也子 さま

「地域を知って、発表しよう」というねらいの講座を実施するにあたって、おおはしりの杜にご協力いただきました。講座では子どもたちが仲間と一緒におおはしりの杜の緑地空間で、生き物や植物の生態系を学びました。都市部にありながら身近な場所で多様な生き物や植物に触れることができ、地元の魅力を再発見するよい機会となりました。

今後も地域の子どもたちにとって、自然を身近に知り、学べる空間を整備していただくことを期待しています。

VOICE

地域共生への取り組み

当社は、地域社会と共生し地域の皆さまに愛される首都高を目指すべく、様々な取り組みを行っています。

清掃活動

■ 首都高お掃除隊

首都高の高架下や社屋等の周辺の清掃活動を首都高グループ一体となって行っています。



■ 地域の一斉清掃への参加

中央区や江東区など自治体が主催する一斉清掃活動にも参加し、美しい街づくりに貢献しています。

※新型コロナウイルス感染症の影響により
2021年度は中止



■ 日本橋川清掃活動

地域の団体である名橋「日本橋」保存会らが主催している日本橋川の清掃活動に参加し、川の浄化、清掃に貢献しています。



美化活動

■ 中央通り「はな街道」フラワーサポートプログラム

フラワーサポーターとして、日本橋・中央通りの景観保全や新たな賑わい創出として花壇に花を咲かせる活動を支援するとともに、花壇や中央通り周辺の清掃活動にも参加しています。

※新型コロナウイルス感染症の影響により2021年度は参加を見送り



■ 大黒PA園芸活動

春と秋の年2回、地域の大学と共同で大黒PA内の花壇に花を植えています。

※新型コロナウイルス感染症の影響により2021年度は秋のみ実施



支援活動

■ ノーマライゼーション首都高

障がい者支援団体と連携し、高架下管理地における除草作業の就労支援を行っています。



情報発信

首都高沿線地域との共創に向け、様々な媒体を利用した情報発信を行っています。

Webページ

■「首都高で行こう!」特設サイト

首都高沿線地域の魅力を発信するとともに、旬なドライブ情報をお届けしています。首都高メールマガジンや首都高公式Facebookと連動し、グルメ・イベントの情報、クーポンやプレゼントの情報なども発信しています。



■首都高NEWS

当社が取り組む事業の紹介に加えて、運転で疲れた際に取り組みめるストレッチ、首都高をテーマにしたコラムの紹介など、首都高にまつわる幅広い情報をお届けしています。



ドライブ情報誌

■「首都高じゃらん」

首都高のPAや関東近郊の道の駅などで、ドライブ情報誌「首都高じゃらん」を無料で配布しています。首都圏近郊の魅力発信に向けた特集や、首都高を利用した観光案内、首都高に関する豆知識など、様々な情報を提供しています。



ラジオ放送

■ニッポン放送「LOVE&MELODY」内、「週末ナビいきなり一緒にレポーター」

ニッポン放送で毎週土曜日に放送中のラジオ番組「LOVE&MELODY」内の「週末ナビいきなり一緒にレポーター」のコーナーにおいて、首都高を利用したドライブ情報を発信しています。



メルマガ 会員募集中

より多くの皆さまに、首都高沿線地域の魅力を発信するため、メルマガ会員を募集しています。登録方法等の詳細はこちら。



TOPICS

首都高MMパークがオープン

2021年6月30日に神奈川局新社屋の1、2階にお客さまとのコミュニケーションスペースとして自由に見学できる「首都高MMパーク」がオープンしました。

「首都高MMパーク」では、パトロールカー・バイクの展示、道路設備や事業の紹介などを行い、来場されたお客さまに首都高の取り組みや事業などを楽しく知っていただく空間としていきたいと考えています。



- 開館時間：10時～16時30分
- 休館日：毎週月曜日（祝日の場合は翌営業日）、年末年始等

特集

お客さまのために

社会のために

環境のために

株主 投資家の皆さまのために

取引先の皆さまのために

社員ののために



環境の ために

環境と経済を両立する
技術開発・普及に努め、
より積極的により良い環境の実現に
努めます。

CONTENTS

- 環境への取り組み姿勢 43
- 首都高カーボンニュートラル戦略で
策定した3つの基本方針 43
- 脱炭素社会に向けて 44
- 自然共生社会に向けて 47
- 沿道環境の改善に向けて 49
- 循環型社会に向けて 51
- 環境情報の発信 51

環境への取り組み姿勢

当社は2050年カーボンニュートラルの実現を目指し、「首都高カーボンニュートラル戦略」を策定しました。

持続可能な社会の実現に向けて、地域社会との共生を図りながら、首都圏の大動脈として変わらず「ひと・まち・くらし」を支えるため、道路インフラを最大限に有効活用するとともに、これまで推進してきた環境への取り組みに磨きをかけてまいります。

首都高カーボンニュートラル 戦略で策定した3つの基本方針

持続可能な社会の実現に向け、3つの基本方針を設定しました。この3つの基本方針に基づいたリーディングプロジェクトに取り組んでいきます。

1

ネットワーク機能強化への 新たなアプローチ

首都高インフラを最大限有効活用するため、既存のネットワークを賢く使う交通マネジメントを推進して利便性のさらなる向上と自動車交通からのCO₂排出量削減



2

社会インフラ企業としての 自助努力

道路施設への省エネルギー化を徹底、再生可能エネルギーを最大限導入、加えて施設への緑化推進により自らのCO₂排出を抑制



3

グリーン社会との共創 (産業界とのコラボ)

地域社会との共生や、様々な分野の企業・団体等産業界とも連携して新技術開発を積極的に進め、ゼロエミッション電源拡充を下支え



脱炭素社会に向けて

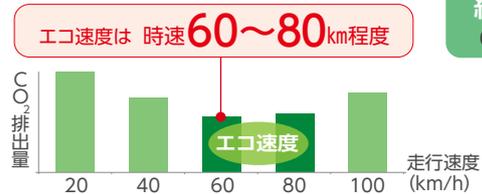


高速道路利用に伴うCO₂排出量削減への取り組み

交通円滑化によるCO₂排出量の抑制

これまで高速道路ネットワーク整備や交通マネジメントを推進してきたことにより、2021年度における首都高を走行する自動車からのCO₂排出量は、約147万トン/年と推計されます。これらの自動車がすべて一般道を走行（一般道で走行した場合のCO₂排出量は192万トン/年と推計されるため、首都高の存在によるCO₂排出削減量は約45万トン/年（約23%）抑制されていると考えられます。

速度とCO₂排出量の関係



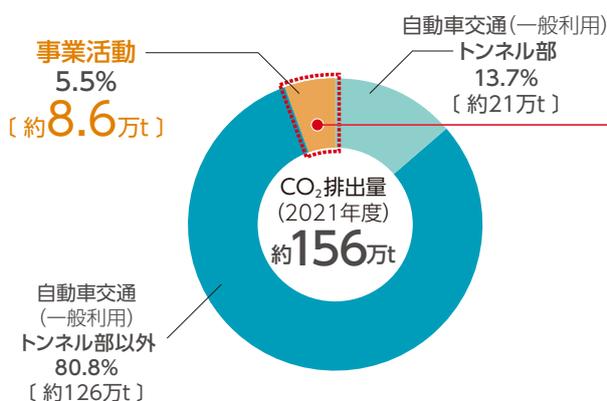
首都高を走行した場合のCO₂排出量抑制
約**23%**
(約45万トン/年)

事業活動に伴うCO₂排出量削減への取り組み

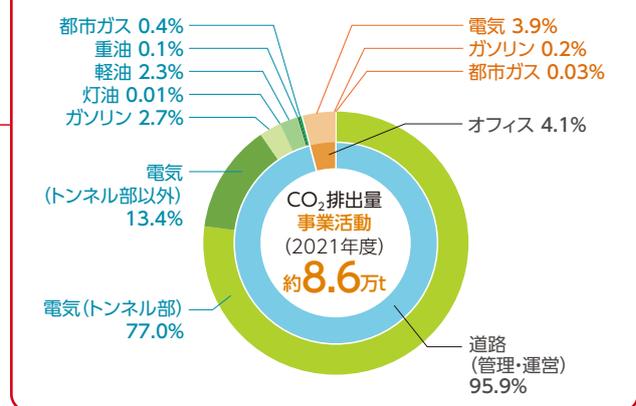
事業活動に伴うCO₂排出量

首都高の事業活動において、2021年度に排出されたCO₂は約8.6万トンと推計されます。その内訳は、道路の維持管理にかかわるものが95.9%、オフィス（社屋）にかかわるものが4.1%となっており、トンネル部の電気の割合が大部分を占めています。

高速道路事業にかかわるCO₂排出量



高速道路の維持管理等におけるCO₂排出量



オフィスにおける省エネルギー活動

オフィスにおける省エネルギー活動の取り組みとして、執務室内の照明の調整や不要な照明の消灯、空調温度の適切な設定、省エネルギー機器の導入などを実施しています。

オフィスでの電力使用にかかる2021年度のCO₂排出量は3,369トン/年であり、2012年度と比較して約33%の削減を達成しました。

オフィス活動における使用電力量 (MWh) とCO₂排出量 (t)



●グラフにおける使用電力量は、社屋以外の使用電力も一部含む

LEDの導入

■ 道路照明のLED化

当社は他の高速道路会社に先駆け、高架部の道路照明にLEDを初めて導入するなど、LED化に力を入れています。道路LED照明は従来の水銀灯や高圧ナトリウム灯と比較して消費電力が少なく長寿命であるため、LED化の推進により省エネルギー化を図り地球温暖化の抑制に貢献しています。



水銀灯

高圧ナトリウム灯

LED照明灯

■ 景観照明のLED化

レインボーブリッジをはじめとした大規模な橋梁の景観照明（イルミネーション）のLED化も進めており、ランドマークとしての役割と省エネ化の両立を図っています。

なお、LED化したレインボーブリッジの景観照明が、優秀な照明施設を表彰する「2020年照明普及賞（主催：一般社団法人 照明学会 照明普及分科会）」を受賞しました。

（デザイン監修・施工を行った株式会社石井幹子デザイン事務所、岩崎電気株式会社と共同受賞）



LED化前

LED化後

LED化前

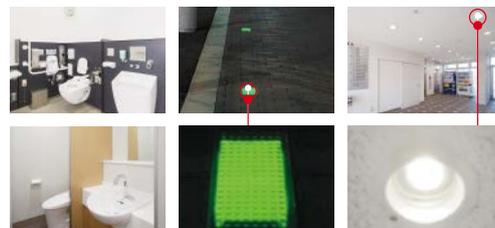
LED化後

LED化による削減効果
約70%減
(190kWh→50kWh)
※レインボーブリッジでの削減効果

■ PA等施設のLED化

湾岸線大井PA（東・西行き）・代々木PA・加平PAでは、環境配慮型PAとして、節水型トイレ、ソーラーLEDブロック、LEDダウンライトなどの環境にやさしい技術を取り入れています。

今後、その他のPAでも、積極的に環境に配慮した取り組みを推進していきます。



節水型トイレ

ソーラーLEDブロック

LEDダウンライト

再生可能エネルギーの導入

首都高上のPAやトンネル坑口^{こうぐち}に太陽光発電設備や風力発電設備を整備しています。

発電した電力は、トンネル内の空調設備に利用される電力の一部や、PAの建物、トイレの照明などに利用しています。

今後も、再生可能エネルギーの導入を拡大していきます。

再生可能エネルギーの主な設置場所



発電電力量
約150kW

再生可能
エネルギー設備
8箇所

VOICE



首都高機械メンテナンス(株)
保全・技術部技術課 須藤 佑太

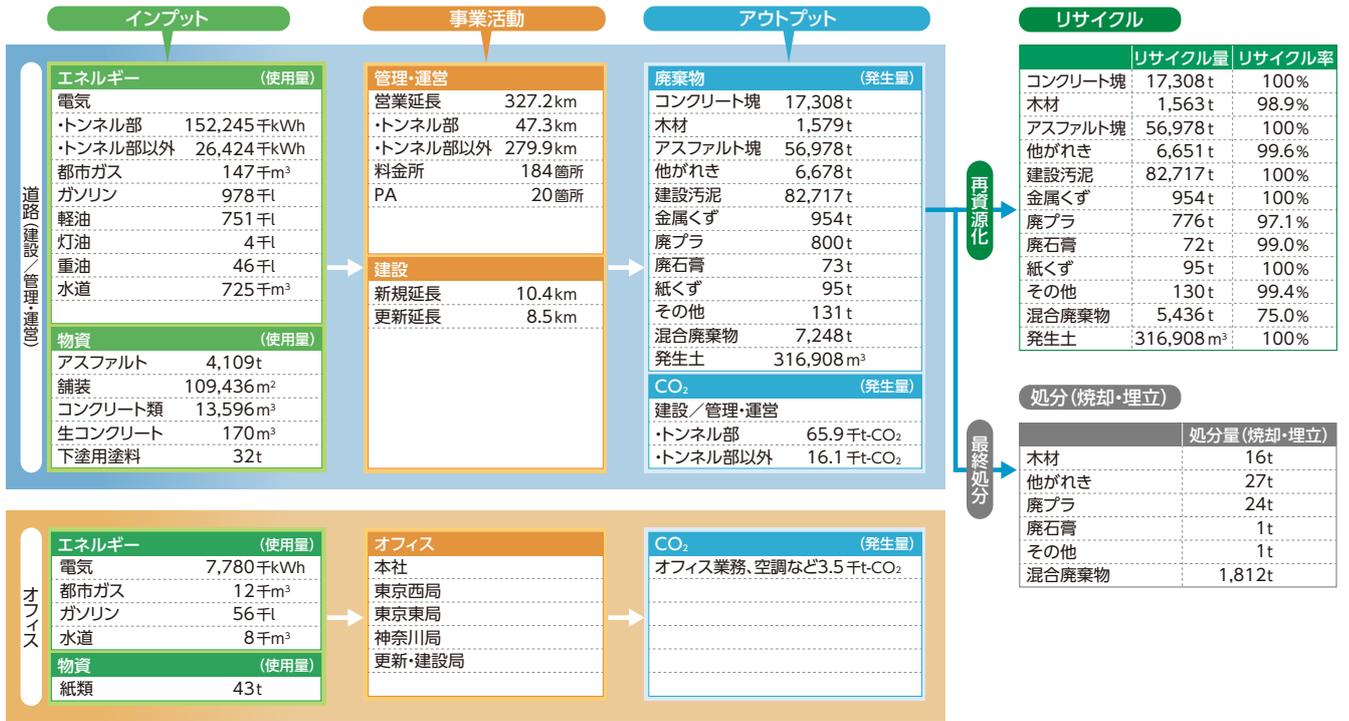
道路規制を行う際に使用する標識車は、通常エンジンで発電した電力を使用しお客さまへ注意喚起を行っていますが、環境配慮型多電源標識車は専用バッテリーに予め充電した電力を使用することで、エンジンを止めたまま標識装置を使用することができ、アイドリングによるCO₂排出量や騒音を大幅に削減することができます。お客さまの安心・安全を守るため、点検・補修作業は欠かせませんが、環境負荷軽減に向けて、身近な作業から行動を起こすことが大切だと考えています。環境配慮型多電源標識車を活用するとともに、この技術を他の工事車両にも展開し、カーボンニュートラルの実現に向けた取り組みを今後も進めてまいります。

マテリアルフロー

当社では、高速道路の建設や管理・運営、さらにオフィスでの活動を含む事業活動において、資材やエネルギーを使用し、またCO₂や廃棄物(リサイクル資源含む)を排出しています。環境と経済を両立

し、より良い環境の実現を図るため、これらの排出量を定量的に把握し、各種取り組みの基盤とすることに努めています。

マテリアルフロー 2021年度



次世代自動車普及のための環境整備

ZEVの普及促進

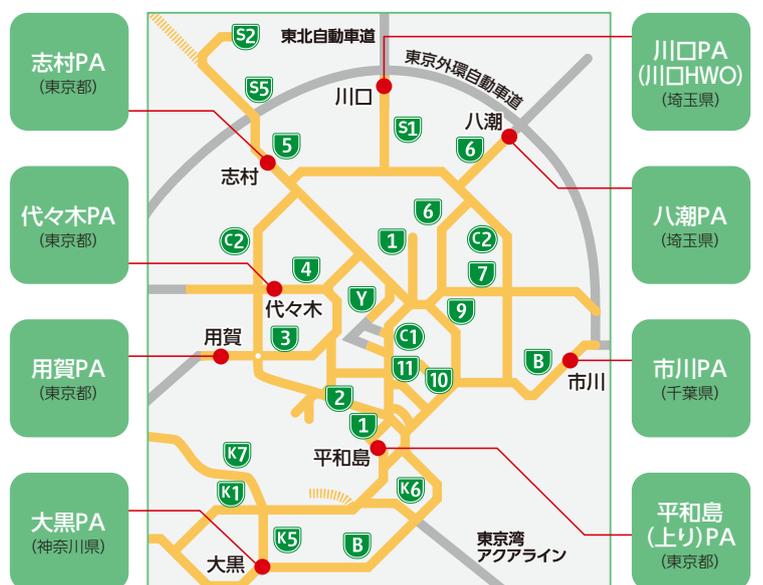
地球温暖化抑制のための環境改善対策のひとつとして、ZEV*が近年注目を集めています。当社はZEV普及と支援の一環として、2008年に高速道路会社で初めてPAにEV用急速充電器を設置しました。現在は8箇所のPA(平和島(上り)、用賀、代々木、志村、八潮、市川、大黒、川口)で急速充電器をご利用いただけます。

*電気自動車やプラグインハイブリッド自動車などの走行時にCO₂を排出しない自動車(ゼロエミッションビークル)

大黒PAでのEV用急速充電器の増設

急速充電器の充電待ちを解消するため、6台同時充電と一口あたり最大90kWという高出力に対応しました。2020年度グッドデザイン賞を受賞した特徴的なデザインはご利用されるお客さまからの視認性に優れるほか、充電ケーブルの重さを緩和する等、操作性も改善されており、この度の大黒パーキングエリアへの設置が国内で最初の事例となります。

EV用急速充電器設備 8箇所
(2022年3月末時点)



見沼たんぼ首都高ビオトープ

■ 自然共生型の都市高速道路を目指して

埼玉新都心線の見沼たんぼ地域では、首都近郊に残された数少ない貴重な緑地空間である同地域の生態系を再生するため、高速道路の高架下に延長1.7km、面積6.3haのビオトープ*を整備しています。整備にあたっては、遺伝子レベルで生態系を守るために在来植物の中から樹種選定を行い、見沼たんぼ地域で集めた種子を育てて苗木を生産・植栽しました。現在では、モニタリングを通じた適切な管理により、順調に植物が育っています。

また、地域の幼稚園児を招いての自然観察会や環境を学ぶ学生たちの現場実習を実施しています。モニタリングや外来種の駆除等の維持管理作業も地域の方々のご協力のもと進めており、地域の自然との調和だけでなく、地域の皆さまに親しまれるビオトープを目指しています。

*地域に元来生息する生きものが暮らす場所



見沼たんぼ首都高ビオトープ

■ 「ハンノキ・プロジェクト」を通じた自然再生の試み

ビオトープ近隣の小中学校と連携し、埼玉県の蝶であり準絶滅危惧(埼玉県レッドデータブック)に指定されている「ミドリシジミ」を呼び戻す「ハンノキ・プロジェクト」を進めています。このプロジェクトは、ミドリシジミが好み、かつて見沼たんぼ地域に広く生育していた樹木「ハンノキ」をビオトープに植えることで、ミドリシジミの生息環境を取り戻す自然再生プロジェクトです。



ミドリシジミ
写真提供: (公財) 埼玉県生態系保護協会



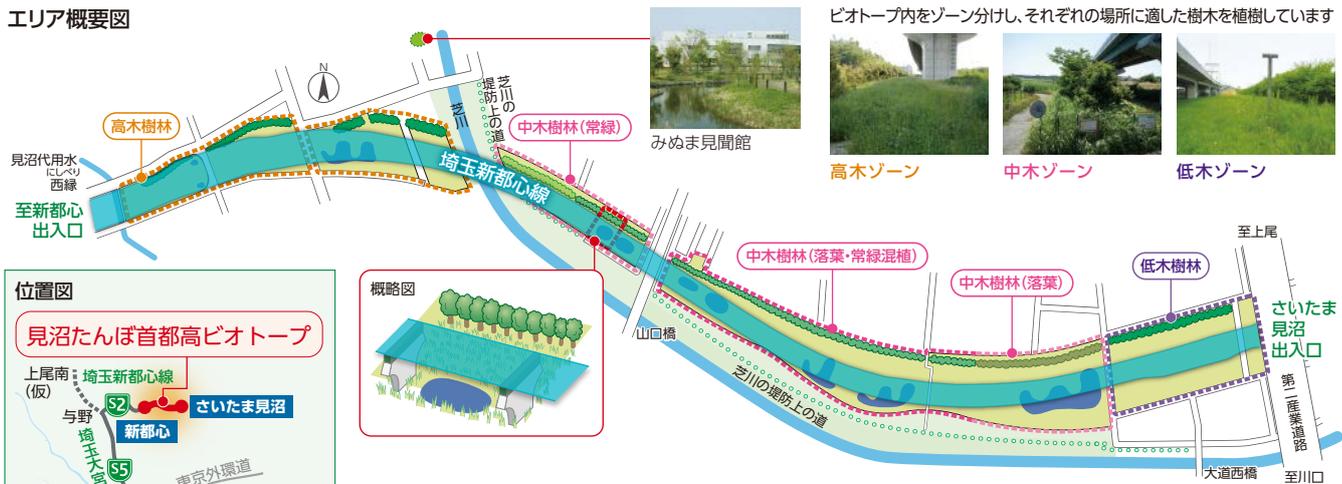
ハンノキ・プロジェクト

■ ボランティア活動による維持管理への取り組み

見沼たんぼ首都高ビオトープに興味があり、在来種の維持管理作業について理解を深めたいという方を対象にボランティア活動の募集を行っています。賛同いただいた地域のボランティアの皆さまと、地域で減少する在来野草を増やすことを目的とした草花の種取り、種まきといった維持管理に取り組んでいます。



エリア概要図

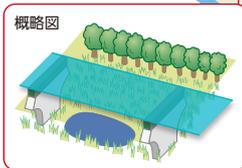


ビオトープ内をゾーン分けし、それぞれの場所に適した樹木を植樹しています



高木ゾーン 中木ゾーン 低木ゾーン

位置図



見沼たんぼ首都高ビオトープで見られる主な動植物



動植物の写真提供: (公財) 埼玉県生態系保護協会

特集

お客さまのために

社会のために

環境のために

株主・投資家の皆さまのために

取引先の皆さまのために

社員ののために

周辺環境との調和に向けた取り組み

道路空間の緑化の推進

都市内に立地し、高架橋やトンネルなどの構造物が占める割合が95%を超える首都高では、JCTやPA、換気所などにおいて植栽可能な空間をできる限り有効利用し、周辺環境との調和や維持管理性に優れた緑化を推進しています。



西新宿凍結防止剤倉庫



西新宿換気所



新横浜換気所

周辺環境に配慮した道路照明

埼玉新都心線では、ビオトープの生き物を守るため、「低位置照明」を設置しています。これは、夜間に高架橋から漏れる明かりにより生き物へ影響を与えないよう、照明器具を箱に入れて道路両端の高欄上(路面から約1mの高さ)に設置し、道路面だけを照らすも

のです。

2号目黒線でも、国立科学博物館附属自然教育園に飛来する野鳥などへの影響に配慮し、道路外への漏洩光を最小限にするために「高欄照明」を採用しています。



低位置照明(埼玉新都心線)



高欄照明(2号目黒線)

沿道環境の改善に向けて



騒音・振動対策の推進

遮音壁

遮音壁は、沿道の方々の生活環境を快適に保つため、沿道への騒音の低減を図ることを目的として設置しています。

透光型遮音壁は、騒音の低減を図るだけでなく、景観にも配慮したものになっています。

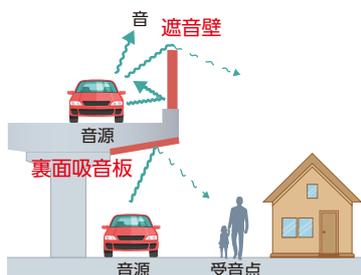
裏面吸音板

裏面吸音板は、環境対策のために高架橋の裏面(下部)に設置する吸音板のことです。

街路からの騒音が周囲に反射することを抑え、騒音低減を図ることができます。



遮音壁の設置



裏面吸音板設置事例
(高速3号渋谷線:目黒区大橋付近)

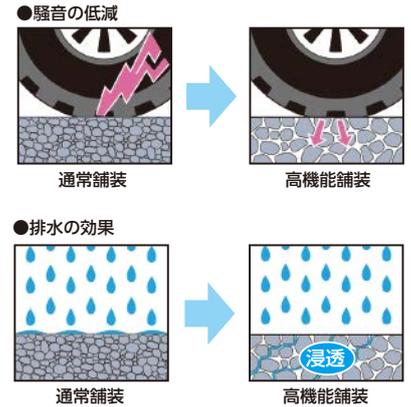
高機能舗装

舗装材に空隙が多い材料を用いて、路面とタイヤの空気の圧縮を少なくし、エアポンピング音*を低減する高機能舗装の整備を進めています。

高機能舗装は、雨水排水にも効果があり、空隙に水が浸透することで、ハイドロプレーニング現象を抑え、また視認性も高めることから、ドライバーの走行安全性にも貢献することができます。

近年では、高機能舗装の舗装メンテナンス頻度を向上させた小粒径ポーラスアスファルト混合物による舗装への打ち替えも進めています。

*自動車のタイヤと路面の摩擦により圧縮された空気が解放されるときに生じる音



ノージョイント化

ジョイント(道路桁の遊間のつなぎ目)は、車両の通行によって衝撃を受けて損傷しやすく、騒音・振動の発生や、走行性を悪くする要因となっていました。技術の進歩によって、ジョイントを減らす対策(ノージョイント化)が可能となり、多くの地点で進めています。これ

により、ジョイントを補修する箇所が減るため、工事渋滞を減らすことが可能となり、スムーズな走行(エコ速度による走行)も実現されます。

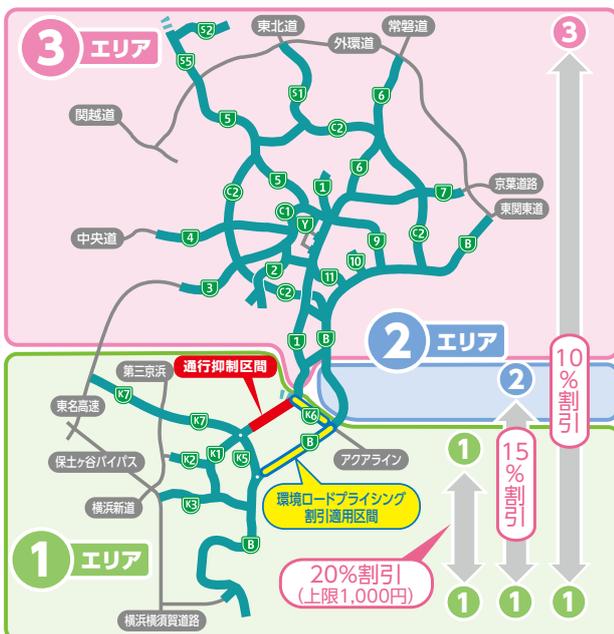


大気環境対策の取り組み

環境ロードプライシング割引の実施

この割引は、沿道に住居地域が多い神奈川1号横羽線から湾岸線へ特大車・大型車の転換を図るため、湾岸線や神奈川6号川崎線を利用するETC特大車・大型車に対して割引を行い、湾岸線や神奈川6号川崎線を利用しやすくする取り組みです。浮遊粒子状物質

(SPM)や二酸化窒素(NO₂)等の排出量が多い特大車・大型車をご利用のお客さまに湾岸線を積極的にお使いいただくことで、神奈川1号横羽線沿道の環境改善につながるよう取り組んでいます。



特集

お客さまのために

社会のために

環境のために

株主・投資家の皆さまのために

取引先の皆さまのために

社員ののために

循環型社会に向けて

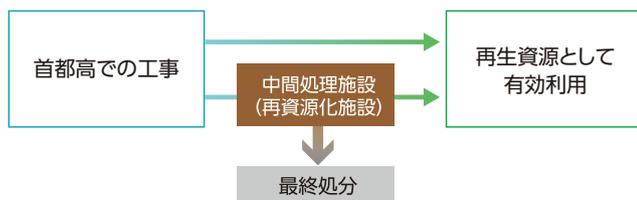


環境負荷低減を目指して

工事における環境負荷低減の取り組み

工事により発生する土、コンクリート塊等の建設副産物を、再生資源として有効利用するなど、環境負荷低減に向けた取り組みを推進しています。

再資源化フローイメージ図



グリーン購入法に基づく購買活動の推進

「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律(グリーン購入法)」に準じて、特定調達品目毎の調達目標を設定して推進します。

調達目標を100%とする分野(21分野215品目)

紙類 (7品目)	文具類 (85品目)	オフィス家具等 (10品目)	画像機器等 (10品目)
電子計算機等 (4品目)	オフィス機器等 (5品目)	携帯電話等 (3品目)	家電製品 (6品目)
エアコンディショナー等 (3品目)	温水器等 (4品目)	照明 (4品目)	自動車等 (8品目)
消火器 (1品目)	制服・作業服 (4品目)	インテリア・寝装寝具 (11品目)	作業手袋 (1品目)
その他繊維製品 (7品目)	設備 (10品目)	災害備蓄用品 (10品目)	役務 (21品目)
ごみ袋等 (1品目)			

廃棄予定の横断幕をトートバッグに再生する「アップサイクル」の取り組み

お客さまへの工事案内や運転マナー啓発等を目的に首都高上に設置をしていた横断幕を、機能性とデザイン性を備えたトートバッグに再生しています。

素材の再利用にとどまらず、新しい価値を付加する形で商品化(=アップサイクル)を行っています。環境への配慮や、1つとして同じデザインが無いファッション性が評価されるなど、大好評いただいています。

オンラインストア「首都高みやげ」、八潮PA等で販売

HATARAKU TOTE

首都高の横断幕がトートに变身

ROOTOTE CIRCULATION SHUTOKO

環境情報の発信



環境イベント等を通じて地域社会や一般の方との交流を図り、環境共生社会の実現に向けた首都高の環境への取り組みについて広く情報発信を行っています。

首都高環境サイト shuto-E-co

当社の環境への取り組みを詳しく紹介する専用サイトです。首都高カーボンニュートラル戦略の説明やイベントのお知らせ・開催報告など様々な取り組みを紹介しています。

< shuto-E-co >



コンテンツ例

- CARBON NEUTRAL STRATEGY**
首都高グループが2050年に目指す、カーボンニュートラルについて紹介しています。
- NEWS**
ブログやイベントなどの更新情報をご紹介します。
- SHUTO-CO ECO QUIZ**
環境にまつわるクイズに挑戦!
- ECO ACTION**
首都高の環境への取り組みをご紹介します。

環境イベント

首都高の環境への取り組みについて、年齢を問わず、わかりやすくご理解いただくために、環境イベントで情報を発信しています。今後もオンラインイベントとリアルイベントをミックスさせより多くの方に知っていただくよう取り組んでいきます。



消灯によるCO₂削減啓発イベント

地球温暖化の防止に寄与するとともに、一人でも多くの皆さまの環境への配慮意識の向上を図ることを目的に、夏至と七夕の2日間（2021年6月21日、7月7日）、レインボーブリッジ、鶴見つばさ橋、横浜ベイブリッジ、かつしかハープ橋、五色桜大橋でライトダウンを実施しました。

また、同様のイベントである「EARTH HOUR(アースアワー)2022」(2022年3月26日開催)にも参加し、レインボーブリッジ、鶴見つばさ橋、横浜ベイブリッジでライトダウンを実施しました。



レインボーブリッジ

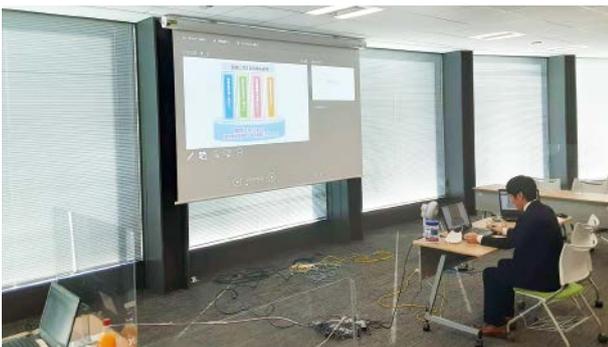


ライトダウン

環境教育・啓発活動

社員の環境への意識を醸成することを目的として、外部機関等とも連携し、社員向け環境研修を実施しています。2021年度はオンラインで実施しました。

また、環境省の啓発活動にも賛同し、社内での普及啓発を行っています。



オンライン研修の様子



すぐたべくん(環境省)の呼びかけ



3010運動(環境省)の呼びかけ

VOICE



計画・環境部 担当部長
藤原 新

首都高グループでは、これまでネットワークを整備し、災害時には緊急交通路及び緊急輸送道路としての役割を果たすとともに景観形成や都市再生、沿道環境の改善などの対策にも積極的に取り組んできました。

これらの取り組みは、沿道地域にお住まいの皆さまや、道路を利用されるお客さまのご理解やご協力を得て実現できるものも多々あります。

2050年カーボンニュートラルを実現するためには、今後も、交通円滑化のさらなる推進を始め、緑地の保全やZEVの普及拡大など、環境に関する社会的ニーズの多様化に対応し、お客さまや地域と一体となって、より豊かな社会の実現に貢献してまいります。



株主・投資家の皆さまのために

効率的で健全な経営を行い、新しい分野での事業も積極的に展開します。

CONTENTS

- 着実な債務の引渡しと返済 …………… 53
- 資金調達 …………… 54
- 財務情報 …………… 55
- 事業評価 …………… 56
- 強固な経営基盤の構築に向けて …… 57

着実な債務の引渡しと返済

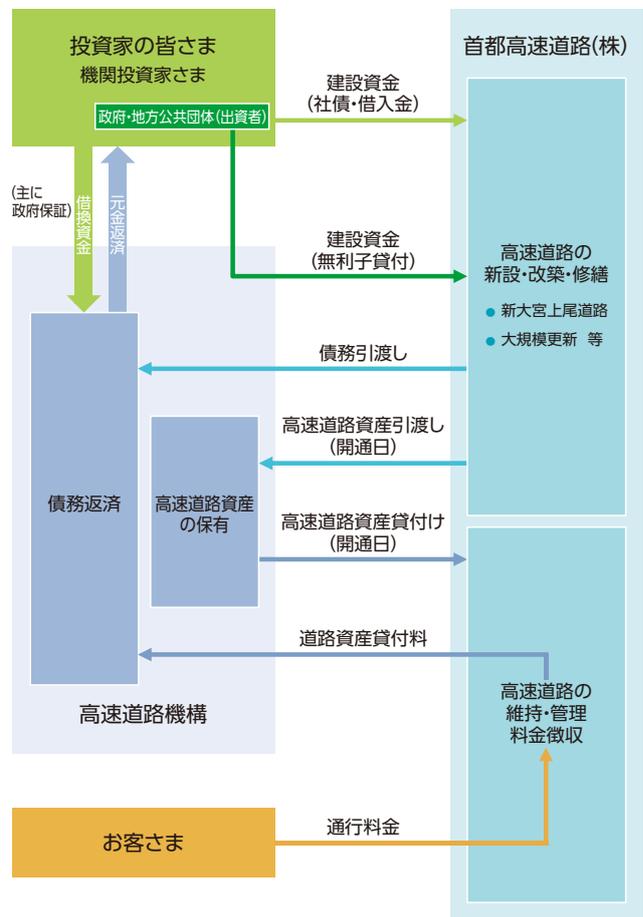
債務の引渡しとは

道路資産(会社資産となるものは除く)の完成後、道路資産の形成に要した額と同額の債務を高速道路機構に引き渡します(=高速道路機構が債務を引き受ける)。

債務の引渡しに当たっては、高速道路機構と債務引受契約を締結し、原則として弁済期日が到来する順に債務を選定し、高速道路機構へ引き渡します。

新設工事等の場合にあつては高速道路の開通毎に、また修繕工事にあつては四半期毎に高速道路機構へ債務を引き渡します。

高速道路事業スキームにおける資産・債務の流れ



債務の引渡し実績と予定

債務の引渡し実績

(単位:百万円)

	2014年度迄	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	合計
債務引渡し実績額	1,051,207	68,500	388,143	143,373	93,945	251,383	110,765	124,834	2,232,150
うち無利子借入	363,960	0	130,943	18,373	2,295	64,033	765	834	581,203
うち有利子債務	687,247	68,500	257,200	125,000	91,650	187,350	110,000	124,000	1,650,947

- 2022年3月31日現在
- 政府保証債及び社債(財投機関債)は額面ベースです。

債務の引渡し予定

(単位:百万円)

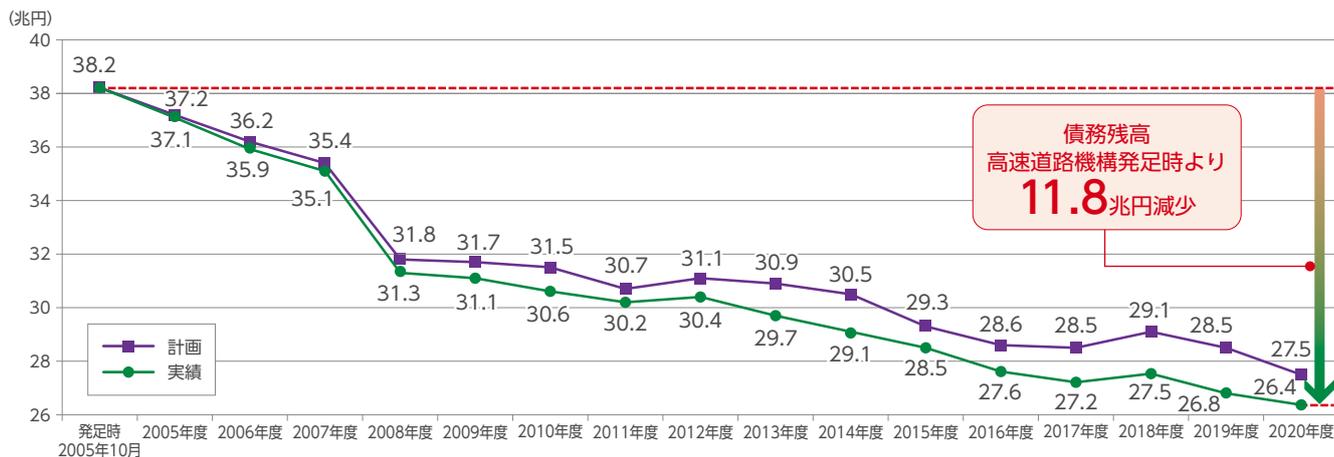
	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
債務引渡し予定額	213,893	75,006	45,722	80,189	100,333	112,262	270,109
うち無利子借入	0	1,825	0	0	706	1,702	0
うち有利子債務	213,893	73,181	45,722	80,189	99,627	110,560	270,109

- 2022年3月31日現在
- 引渡し予定額は原則として2022年3月25日付変更した「都道首都高速1号線等に関する事業」の収支予算の明細に基づき記載しています。
- 各年度における実際の債務引渡し額は、工事の進捗状況等により上記予定と異なる場合があります。

債務の返済

2021年3月末現在の高速道路機構の債務残高は、発足時より▲11.8兆円の26.4兆円となっています。

高速道路機構の債務残高(高速道路会社6社合計)

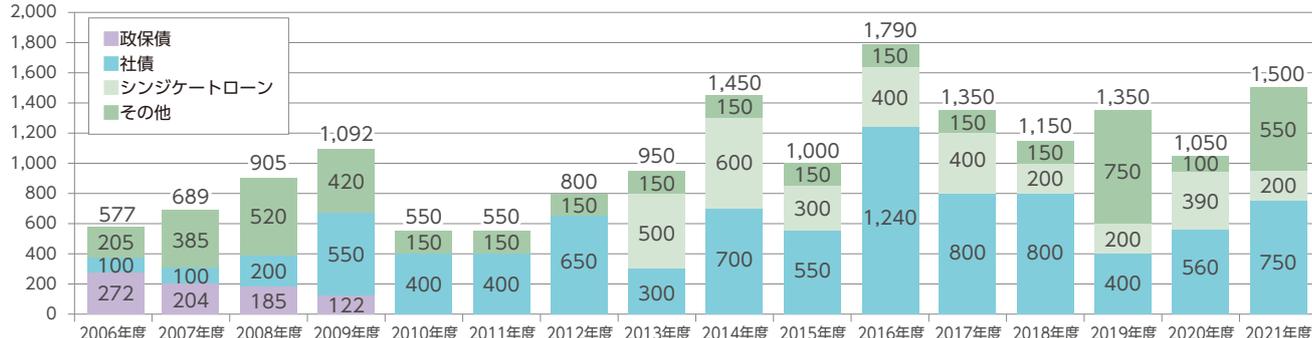


出典:「高速道路機構ファクトブック2021」

資金調達

当社における高速道路機構引渡対象資産に係る有利子債務の調達は、社債発行及び金融機関からの借入により行っています。なお、政府保証債は、民営化時の計画どおり発行量を徐々に減らし、2009年度に発行を終了しています。

(単位:億円)





財務情報

決算情報

連結損益計算書

(単位:億円)

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
営業収益	4,460	3,862	5,346	3,575	3,852
営業費用	4,457	3,823	5,327	3,606	3,796
道路資産賃借料	1,877	1,937	1,901	1,597	1,665
高速道路等事業管理費及び売上原価	2,475	1,780	3,316	1,901	2,014
販売費及び一般管理費	104	105	109	107	115
営業利益	2	38	18	△30	56
営業外収益	2	4	2	2	4
営業外費用	0	0	1	1	1
経常利益	4	42	19	△28	60
特別利益	158	3	-	-	-
特別損失	2	1	1	7	1
親会社株主に帰属する当期純利益	104	29	△0	△45	45

連結貸借対照表

(単位:億円)

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
流動資産	3,638	3,789	2,952	2,780	3,142
現金及び預金	270	225	188	169	185
高速道路事業営業未収入金	423	289	297	481	452
棚卸資産	1,969	2,341	1,278	1,222	1,372
受託業務前払金	155	12	3	6	4
その他流動資産	819	920	1,183	900	1,126
固定資産	668	717	729	711	695
有形固定資産	616	651	670	652	637
無形固定資産	26	26	26	23	22
その他固定資産	26	39	32	35	35
資産合計	4,306	4,507	3,681	3,491	3,837
流動負債	845	803	777	700	714
高速道路事業営業未払金	371	340	396	351	416
1年以内返済予定長期借入金	68	206	42	76	42
受託業務契約負債	-	-	-	-	19
受託業務前受金	173	24	5	20	-
その他流動負債	232	231	331	251	235
固定負債	2,847	3,050	2,256	2,173	2,466
社債	1,140	1,300	900	960	1,310
長期借入金	1,398	1,444	1,045	915	853
その他固定負債	308	306	311	298	303
負債合計	3,692	3,854	3,033	2,874	3,181
株主資本	663	692	692	647	692
非支配株主持分	4	4	5	5	5
純資産合計	614	652	647	617	656
負債・純資産合計	4,306	4,507	3,681	3,491	3,837

IR報告書の作成

投資家の皆さまに向け高速道路事業スキームや債務の特性、調達した資金の充当先等についてとりまとめた「IR報告書」を作成し、当社Webサイトで公表するとともに、投資家の皆さまを個別訪問する際にも活用しています。

[IR情報](#)


IR報告書イメージ



事業評価



道路事業に係る厳格な評価の実施

事業の効率性や実施過程における透明性を一層向上させるため、事業着手前から完了後までの各段階において、事業の必要性や効果を客観的に評価し公表しています。

事業評価の仕組み

■ 新規事業採択時評価

新規事業の採択時において、費用対効果(B/C)分析を含めた事業評価を実施します。

■ 事業再評価

「事業採択後3年間未着工または5年間継続中の事業」・「再評価実施後に5年間が経過した時点で継続中の事業」について再評価を実施し、必要に応じて見直しを行うほか、事業の継続が適当と認められない場合には事業を中止します。

■ 事後評価

事業完了後5年以内に、事業の効果、環境への影響等の確認を行い、必要に応じて適切な改善措置、同種事業の計画・調査のあり方等を検討します。

事業評価監視委員会の設置

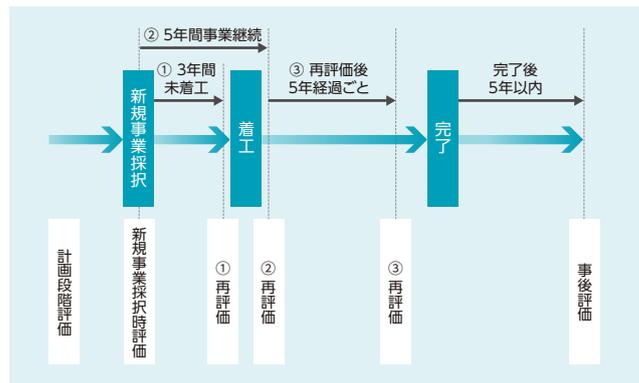
再評価、事後評価を実施する際は、当社が提出した対応方針(案)について、学識経験者等から構成される事業評価監視委員会を設置して審議を行っています。不適切な点や改善すべき点があると認められたときは意見の具申を行います。

投資家の皆さまに向けたIR活動

投資家個別訪問

機関投資家の皆さまを個別に訪問し、高速道路事業スキームや債務の特性、調達した資金の充当先等についてご説明するとともに、年度全体の資金調達計画等をお伝えすることで、投資家の皆さまに当社事業への理解を深めていただけるよう努めています。

事業評価の実施フロー



近年の事業評価実施実績

	再評価	事後評価
2019年度	(該当なし)	高速中央環状品川線
2020年度	(該当なし)	(該当なし)
2021年度	(該当なし)	(該当なし)

今後の事業評価予定

	事後評価
2022年度	高速晴海線
2024年度	高速横浜北線 高速横浜北西線

現場視察会及び各種説明会の開催

市場関係者向けに、当社事業への理解をより深めていただくことを目的とし、調達した資金の充当先である高速道路の建設現場等をご覧いただく現場視察会を定期的に行っています。

また、当社の今後の計画や、財務情報等をご理解いただくために、事業計画説明会や決算説明会を開催しています。



現場視察会

TOPICS

ソーシャル・ファイナンス・フレームワークの策定

当社は国際資本市場協会(ICMA)が定めるソーシャルボンド原則に基づくソーシャル・ファイナンス・フレームワークを策定し、2022年6月に株式会社格付投資情報センター(R&I)から第三者評価を取得しました。「ソーシャル・ファイナンス」とは、社会的課題解決に向けたプロジェクトに充当することを目的とした資金調達手段です。

当社はソーシャル・ファイナンスにより調達した資金を活用し、所要時間の短縮や渋滞の緩和、インフラの高齢化対策などの当社が直面する社会的課題の解決に努めていきます。



高速1号羽田線更新工事



大師橋工事



強固な経営基盤の構築に向けて

貢献する
SDGsの目標

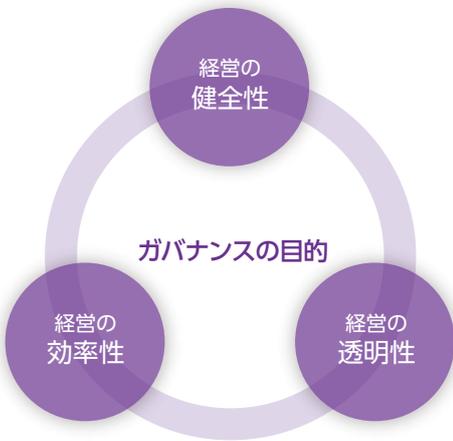


コーポレート・ガバナンス

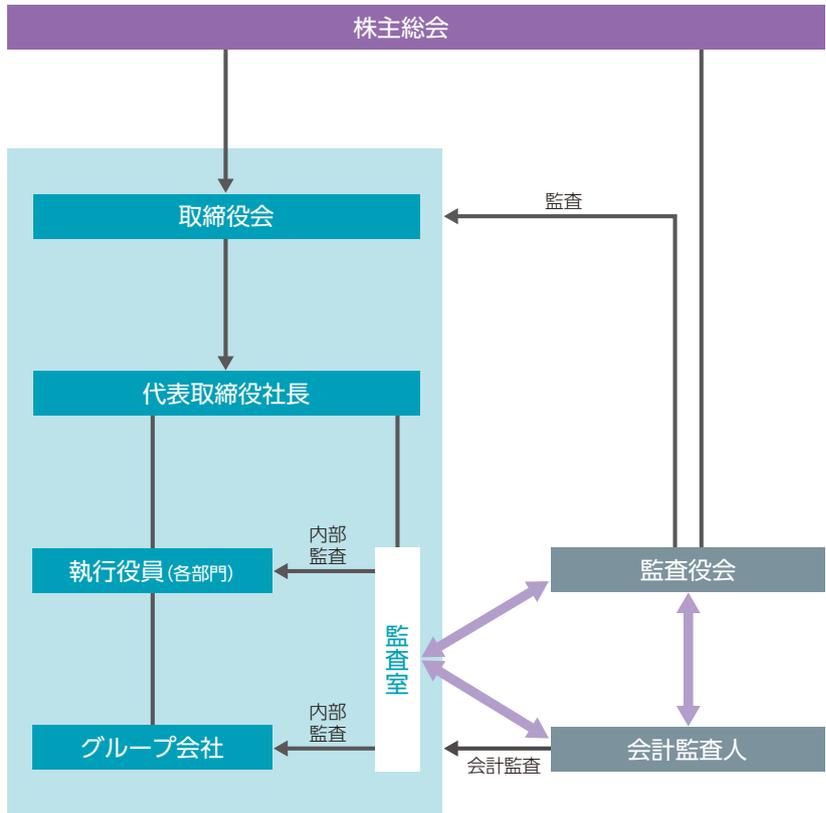
基本的な考え方

当社では、経営の意思決定、業務執行及び監督さらにはグループの統制、情報開示等について適正な体制を整備し、経営の健全性、効率性及び透明性の確保に努めています。

また、内部統制システムの運用状況の概要を開示するなど、コーポレート・ガバナンスの充実を図っています。



コーポレート・ガバナンス体制



●内部監査、監査役監査及び会計監査人監査の相互連携については、内部監査実施状況報告、常勤監査役と内部監査部門との定期的な連絡会の開催、常勤監査役に対する会計監査人からの監査実施状況報告等を通じて情報交換を図り、相互に効率的かつ効果的な監査活動が行えるよう努めています。

コンプライアンス

企業倫理憲章・社員行動倫理規範

取締役会が定めた「企業倫理憲章」及び「社員行動倫理規範」に基づき、社員は法令、定款及び社会規範を遵守した行動をとることとしています。

首都高コンプライアンスマニュアル

社員一人ひとりが常にコンプライアンスに則った行動をとる助けとするため「首都高コンプライアンスマニュアル」を作成し、これを活用した研修や講演会を通じて、コンプライアンス意識の徹底を図っています。

コンプライアンス委員会の設置

コンプライアンスに関する事項を審議するため、社長、総務・人事部担当役員、監査担当役員及び社長が指名する役員をもって構成するコンプライアンス委員会を設けています。また、社外の特別委員からの助言・指導を受けています。

アラームネット(内部通報制度)

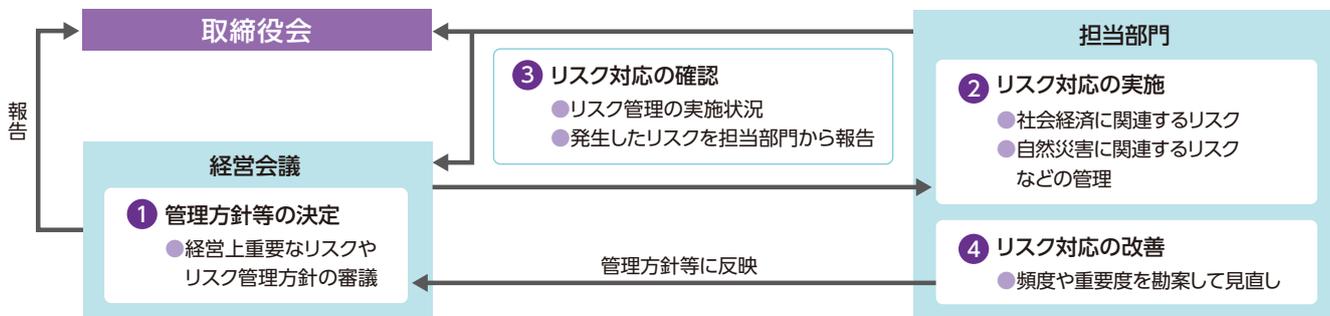
業務の遂行に伴う不正行為等のコンプライアンス違反を防止し、首都高グループ全体の社会的信頼を確保することを目的に、社員等からの通報を受ける窓口「アラームネット」を設置しています。

リスク管理

社会経済に関連するリスク、自然災害に関連するリスクなどリスク全般について頻度や重要度を勘案し、毎年度、経営上重要なリスクやリスク管理方針を経営会議の審議を経て定めています。

発生したリスクは取締役会及び経営会議に報告するなど、リスク対応の実施状況を確認し、リスク管理を徹底しています。

リスク管理体制



PDCAサイクル



個人情報保護

当社は、個人情報について、「個人情報保護方針(プライバシーポリシー)」を定め、公表しています。今日のデジタル社会において個人情報の保護が極めて重要な社会的責務であることを深く認識し、個人情報の保護を図っています。

1. 法令等の遵守

個人情報の保護に関する法令及びその他の規範を遵守し、個人情報の保護に万全を尽くします。

2. 取扱いの制限

個人情報を取扱うにあたっては、その利用目的をできるだけ特定して行います。また、当該目的の達成に必要な範囲を超えて、個人情報を取扱うことがないよう措置します。

3. 利用目的の明示

お客さまご本人から書面等に記録された個人情報を提供いただく場合には、法令に定める場合を除き、あらかじめ利用目的を明示します。

4. 適正な取得

個人情報を取得するにあたっては、適法かつ公正な手段により行います。

5. 安全管理の措置

当社自らが取扱う個人情報を漏えい、滅失、毀損その他の危険から守るため、これを厳重に管理します。また、取扱う必要がなくなった個人情報については、速やかにこれを消去または破壊します。

6. 役員及び社員の義務

当社の役員及び社員またはその職にあつた者においては、業務に関して知り得た個人情報の内容をみだりに他人に知らせたり、または不当な目的で利用したりすることを厳に慎み、この方針に基づく義務を遵守します。

7. 外部委託業者の適切な選定と監督

外部の委託業者に個人情報を提供する場合、個人情報を適正に取扱っていると認められる委託先を選定し、委託契約等において、個人情報の安全管理、秘密保持、再提供の禁止等のために必要な事項を定めるとともに、適切な監督を行います。

8. 利用及び提供の制限

法令に基づく場合を除いて、利用目的以外の目的のために個人情報を自ら利用したり、第三者に提供したりしません。

9. お客さまご本人からのお申し出による開示、訂正、利用停止等

お客さまご本人から自らの個人情報の開示、訂正、利用停止等のお申し出があったときは、法令に基づき、合理的な期間及び範囲で対応します。

10. 組織・体制の整備

この方針を実行するため、適切な管理責任体制を構築するとともに、研修・教育を通じて継続的に役員及び社員に対する意識啓発と周知徹底を図ります。

情報セキュリティ

当社では、経営理念の実現に向け、業務上保有する情報資産を的確に取り扱うとともにこれを適正に保護することを目的として、情報セキュリティ対策の基本方針(情報セキュリティポリシー)を以下のとおり定めています。

適用範囲

この基本方針は、業務上保有する情報資産及びこれを利用するすべての者(以下「情報利用者」といいます。)に適用します。

情報セキュリティ体制

内部の組織ごとに情報セキュリティ責任者を設置し、情報セキュリティ体制を構築します。

情報セキュリティ対策

情報資産の可用性・完全性・機密性が確保されるよう、物理的セキュリティ、人的セキュリティ、技術的セキュリティの3面から適切な対策を実施します。また、これにより契約の相手先のセキュリティ水準を把握し、適正な履行を確保します。

情報セキュリティに関する整備

情報セキュリティに関する体制の構築や対策が確実に行われるよう、内部規則を定め、遵守を情報利用者に義務付けます。また、対策水準の向上を図るため、内部規則は継続的に見直します。

個人情報の取扱い

個人情報の取扱いに関しては、今日の高度情報社会において個人情報の保護が極めて重要な社会的責務であることにかんがみ、別にプライバシーポリシーを定め、保護を図ります。

情報セキュリティに関する教育

情報セキュリティ水準の維持又は向上を図るため、必要な教育を継続的に実施し、関係法令及び規則に関する情報利用者の理解を深めることに努めます。



取引先の 皆さまの ために

公正な事業活動を推進し、
事業に関わるあらゆる取引先と
相互信頼関係を築きます。

CONTENTS

入札・契約手続	59
工事の安全対策	60

入札・契約手続

貢献する
SDGsの目標



新たな取り組み

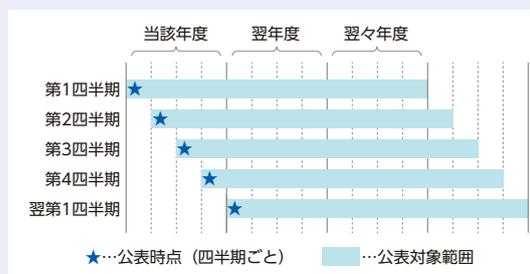
公共工事の発注者に求められる競争性、公平性、透明性を確保しつつ、高い品質を目指した契約方式を採用しているほか、円滑な事業推進と品質確保等への新たな取り組みを行っています。

新たな取り組みとその特徴は次のとおりです。

工事発注見通しにおける公表対象範囲の拡大

- ▶ 公表対象範囲を「公表時期からその後1年間分」から「公表時期からその後3年間分」に拡大

※新設・改築事業、特定更新等工事（大規模更新、大規模修繕）が対象



- ▶ 計画的な受注体制、技術者の確保のため、公表時点から3年先まで公表することにより、計画的な受注体制・技術者配置が可能

技術評価点の評価項目に災害時等協力表彰実績を導入

- ▶ 首都高速道路事業への災害や積雪・凍結対応等協力に対する表彰または感謝状を受けた場合、技術評価点を加算

工事請負契約における前払金の支払方法を変更

- ▶ 前払金制度対象範囲の拡大
- ▶ 前払金額の上限を請負代金額の最大30%から一律40%に増額
- ▶ 年度出来高予定額による前払の導入

首都高未経験技術者活用業務の試行

- ▶ 次世代の担い手育成を目的として、2020年4月より試行を開始
- ▶ 未経験技術者を管理技術者として配置するとともに、未経験の部分の補うために管理補助技術者を配置した場合には技術評価点を加算
- ▶ 技術者資格以外の項目は管理技術者(未経験技術者)に代わり、管理補助技術者で評価

ICT活用推進による受発注者双方の生産性向上

- ▶ 工事及び調査・設計業務で競争を行う全ての方式において、電子入札を実施
- ▶ 契約金額が250万円を超える全ての契約案件において、電子契約を実施
- ▶ 工事書類作成マニュアルを制定、情報共有システム(ASP)を導入
- ▶ 遠隔臨場試行マニュアルを制定し、ICTを活用した現場立会効率化の取り組みを展開

入札監視委員会の設置

入札・契約手続における公正の確保と透明性の向上を図るため、外部有識者で構成された「入札監視委員会」を設置しています。入札監視委員会における主要な業務は右記の3つです。

入札監視委員会
定例会議
(2021年度実績)
12月開催



入札監視委員会 委員 慶應義塾大学 商学部
教授 加藤 一誠 さま

首都高には建設、改築、更新や維持修繕などの工事だけでなく、調査・設計、物品やサービスの購入をはじめ多岐にわたる契約があります。近年、全国的な建設需要を背景に技術者の確保が難しくなり、入札が不調、不成立になる場合もあります。また、利用者から通行料金をいただきつつ公的な事業を遂行している以上、契約は合理的な金額でなされるべきですし、その手続きは透明でなければいけません。本委員会は、実施済みの契約を検証し、今後の契約手続きに関して、金額や手続きの公正さを担保することを使命としています。

VOICE

入札監視

入札・契約手続の運用状況等についての報告を受け、一般競争に係る資格の設定理由等を審議の上、意見の具申または勧告を行います。

独占禁止法違反の監視

入札に参加した業者間に独占禁止法違反等の違法行為の疑いがある場合は、事実調査の実施及びその結果報告を会社に求めます。

再苦情処理

入札及び契約の過程に関する再苦情処理についての審議を行います。

なお、入札監視を行う定例会議は年に2回程度、独占禁止法違反の監視を行う臨時会議や再苦情処理を行う再苦情処理会議は必要に応じて開催しています。

反社会的勢力への対応

反社会的勢力には毅然として対応しており、当社が発注する工事等の契約手続において暴力団排除に関する誓約事項の承諾を求めるルールを定めるなど、暴力団関係企業等の排除を徹底しています。

工事の安全対策

工事事故削減に向け、「工事安全の5つの柱」を定め、様々な安全対策を実施しました。

1. 火災事故の防止
2. 労働災害の防止
3. 公衆災害の防止
4. 交通事故の防止
5. もらい事故の削減

工事事故防止の取り組み

安全意識向上に向けた各種講習会の開催

工事安全に対する知識の習得や危険に対する意識の向上を目的とする講演会を作業従事者向けに開催し、事故防止を呼びかけています。塗装工事現場で働く作業従事者を対象とした講演会は、(一社)日本橋梁・鋼構造物塗装技術協会の協力の下2021年度は11回開催し、約660名が受講しました。

現場安全パトロールの継続実施

現場に潜むリスクを確実に把握し、事故発生を未然に防止するため、工事現場における火災予防及び有害物質取扱いによる健康障害予防や足場からの墜落及び転落等事故防止、ライフラインへの接触・損傷事故防止対策の推進等をテーマとした、現場安全パトロールを定期的の実施しました。



作業従事者向け講習会



安全パトロールの実施

特集

お客さまのために

社会のために

環境のために

株主 投資家の皆さまのために

取引先の皆さまのために

社員のために



社員の ために

社員が自らの力を高め、
誇りと達成感を持ち、
安心していきいきと働ける企業を
目指します。

CONTENTS

- 働き方改革の推進 61
- 誰もが安心して働ける職場づくり 63
- 人材育成の推進 65

働き方改革の推進

貢献する
SDGsの目標



社員が元気に前向きに働ける会社を 目指して

当社では2018年度を働き方改革元年として、社内に働き方改革推進室を設置し、お客さまの安全・安心と両立した働き方改革を推進しています。引き続き、働き方改革を通じて、社員が元気に前向きに働ける職場環境を整備していきます。

VOICE



働き方改革推進室
総務・人事部 総務室 総務課 課長
山中 聡

首都高の安全と快適を追求し、お客さまに満足いただける質の高いサービスを提供するためには、社員が心身ともに健康で、元気に前向きに働ける会社であることが極めて重要であると考えています。これを踏まえ、当社では働き方改革として、相互理解の促進、仕事力向上の支援、業務・職場のあり方の改善をテーマとした様々な施策を進めているところです。

これからも社員が元気に前向きに働くことができるよう、社員間の信頼感の醸成に重点を置き、チームプレーを通じて当社の社会的使命を全うできるよう努めてまいります。

職場環境の整備

業務の効率化及び生産性の向上を図るため、職場環境の整備を推進しています。

コミュニケーションスペースの設置

相互理解の促進のためのスペースを設置し、社員間のコミュニケーションの創出を図っています。



双方向コミュニケーションツールによる情報発信

現在進めている働き方改革施策についての情報共有や、各職場で取り組むことのできる情報・アイデアについて、若手社員が自らの視点でセレクトし、コミュニケーション機能をそなえた社内掲示板にて定期的発信しています。



OAスキル向上研修の実施

社員のOAスキルをレベルアップさせ、生産性向上につなげることを目的として2019年度から実施しています。これまで延べ700名以上の社員が受講しています。



2019年度実施時の様子

リモート会議の推進

会議参加のための移動時間削減やペーパーレス化による業務の効率化を図るため、リモート会議の活用を推進しています。





誰もが安心して働ける職場づくり



多様で柔軟な働き方の推進

社員は職場だけでなく、社会生活において家事や育児、家族の介護、ボランティア、地域活動など様々なシーンでそれぞれの役割を担っています。当社では社員のライフスタイルやライフステージに応じてワーク・ライフ・バランスを保ちながら働ける職場づくりを推進しています。

■ 育児世代・介護世代の支援

社員の仕事と育児・介護の両立を支援するため様々な取り組みを行っています。育児に関しては、育児休業や育児参加休暇の積極的な取得を推奨しており、女性社員だけでなく多くの男性社員も活用しています。こうした実績や制度整備の取り組みが評価され、優良な「子育てサポート企業」として2017年12月に厚生労働大臣より「プラチナくるみん[®]」の認定を受けました。また、社員が選択できる保育所の幅を広げるため企業主導型保育所の共同利用の仕組みを利用しており、子育てしながら働き続けられる環境づくりに努めています。

※くるみん認定企業のうち、より高い水準の取り組みを行った企業が、さらに一定の要件を満たした場合に受けられる特例認定。



産休・育児取得者

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
産前産後休暇取得者数	2名	3名	4名	7名	6名
育児休業取得者数	6名	7名	8名	14名	20名

各年度に取得した延べ人数

両立支援のための各種制度

産前産後休暇(女性)	出産予定日の6週間前(多胎妊娠の場合は14週間前)～出産日の8週間後までの期間
配偶者の出産休暇	3日以内
男性の育児参加休暇	配偶者の出産予定日の6週間前(多胎妊娠の場合は14週間前)～出産日の8週間後までの期間で5日以内
育児休業	子が3歳に満たない期間
子の看護休暇	小学校3年生までの子の看護(予防接種や健康診断の受診も含む)を行う場合 毎年度5日以内(当該子が2人以上の場合は10日以内)
介護休暇	要介護者を介護する場合 毎年度5日以内(当該要介護者が2人以上の場合は10日以内)
部分休業(育児)	子が小学校3年生を終了する日までの期間(1日最大2時間)
積立年休(育児・介護)	未使用の年次休暇を最大12日まで積み立てることができ、育児・介護等の事由による取得が可能

VOICE



技術部 技術企画課 係長 若月 利亮

第二子が産まれた時に、積極的に育児に関わりたいとの思いから、2021年に育児休業を取得しました。相談した上司の子育ての体験も踏まえて、取得について肯定的に話を聞いていただき、温かく職場を送り出していただきました。当社には、制度が整備されているとともに、利用することができる環境もあり、社員全員が働きやすい会社であることを感じました。

お陰様で、育児休業中は、第一子の時は、時間がなく対応できなかった子供の奔放さにしっかりと対応し、子供の成長に寄り添うことができ、貴重な経験をすることができました。

VOICE



東京東局 施設保全設計課 主任 樋浦 有季乃

子供が1歳になるまでは、子供に全力で向きあいたいという思いから、育児休業を取得しました。休暇取得にあたり、職場の方々に温かく送り出していただいたことで、育児に専念することができました。育児休業は、子供の成長を間近で見守り関わられる喜びだけでなく、私自身の成長の機会をももたらしてくれました。

復職後は、当社に整備されている柔軟な働き方ができる制度の活用や、職場の方々のサポートにより、家族との時間を大事にしながら業務に取り組んでいます。仕事と育児に奔走することもあります。工夫しながらワーク・ライフ・バランスの向上を図っていきたいと思います。

■ 柔軟な勤務体系と休暇取得の促進

育児や介護だけでなく、自己啓発や家族との時間など、社員一人ひとりのプライベートも大切にしながら、メリハリをもって働くことのできる職場環境を整備するため、スライド勤務など柔軟な勤務体系の推進に取り組んでいます。また、年次休暇についても、計画的かつ積極的な取得を推進しています。休暇が取得しやすいよう、メモリアル休暇制度を設け、社員や家族の誕生日や結婚記念日など特別な日には年次休暇を取得しやすい仕組みづくりに努めています。

多様な人材の活躍推進(ダイバーシティマネジメント)

当社では年齢や性別をはじめとして様々な背景を持つ人材が社員として活躍しています。人材の多様化を積極的に推進し、また一人ひとりが活力をもって働くことのできる職場環境の整備に努めています。

女性の活躍推進

女性の積極的な採用とより活躍できる環境整備に取り組んでおり、女性社員の多くが仕事と家庭を両立しながら長期にわたり活躍しています。また女性活躍推進法に基づく行動計画を策定しており、当社における女性社員のロールモデルを提示するとともに、ジョブローテーションや出向も含めた体系的な育成プランの構築を推進しています。

女性活躍行動計画・数値目標と実績

	数値目標 (~2022年3月)	実績					
		2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
管理職に占める 女性比率	3.0%以上	2.4%					
新規採用における 女性採用者数	毎年度 20%以上	22%	20%	22%	25%	27%	24%
女性の 育児休業取得率	100%維持	100%					

多様な人材確保を目指して

会社が期待する社員像をもとに、多様な人材に活躍してもらうことを目指し採用選考活動を実施しています。2021年度の新入社員は37名(男性28名、女性9名)です。また、多様なキャリア経験を当社で活かしてもらうため、キャリア採用を推進し、障がい者雇用にも取り組んでいます。

社員の健康管理とメンタルヘルスケア

当社では人間ドック水準の健診項目を設けた定期健康診断を行い、その結果に基づき生活習慣病対策など保健指導を行っています。労働安全衛生法に基づいた健康管理の他に、様々な疾病予防活動を展開しています。また、メンタルヘルス(心の健康)対策として社内にカウンセラーを配置するとともに24時間相談可能なカウンセリング窓口を整備するなど、社員が相談しやすい環境を用意しています。

重点面談

社員の健康状態を確認するため、医療資格を保有する社内カウンセラーが毎年対象者に面談を行っています。事後フォローが必要な社員には継続的なフォローを行うなど社員の心身の健康に努めています。

定年後再雇用制度

定年退職者のキャリアを活かし、働きがいをもって活躍できる機会と場を広げていくため、再雇用制度を導入しています。

2021年度は当社の定年退職者のうち、継続雇用を希望する20名全員を再雇用しました。

ストレスチェック

ストレスチェックの実施だけでなく、当社ではセルフケアとして結果に応じた学習プログラムの提供や組織ごとの集団分析結果を活用した報告会を実施し、職場環境の改善に取り組んでいます。

VOICE



計画・環境部 都市環境創造課
担当課長 佐伯 由布子

当社はこれまで、仕事と私生活や家庭を調和させる「ワークライフバランス」実現のための制度を創設・推進してきました。私は出産や育児といったライフイベント

を経験していますが、現在も仕事を続けられていられるのはこれらの制度があったからこそです。最近では男性社員も育児休業を取得するなど、育児参加が女性社員だけのものではないという社内風土ができつつあるように思います。

このほか、介護休業・休暇、定年後の再雇用といった制度も用意されているので、社員の様々なライフステージに応じた活用が可能です。これらの制度が定着していることで、社員個人の属性や事情、価値観を尊重することが自然と受け入れられており、とても働きやすい会社であると感じています。

TOPICS

新型コロナウイルス感染症への対応

新型コロナウイルス感染症から社員を守るため、必要な対策を実施しています。

- 手洗い、うがい、正しいマスク着用、「三密」回避等、感染予防行動の周知徹底
- 在宅勤務や時差出勤の実施、推奨
- 消毒液、飛沫防止パーテーション、サーモセンサー、紫外線付き空気清浄機等の設置
- 職域接種の実施



人材育成の推進



自己成長を続ける人材の育成

当社の人材育成においては、未来を担う社員や自律的な成長の促進により自らの成長を実感できる社員の計画的・体系的な育成を目的に掲げ、基本的な考え方をまとめた「人材育成基本方針」を策定しています。

会社が期待する社員像

お客さまに満足いただける質の高いサービスを提供するため、相互に連携・支援しつつ責任感をもって仕事に取り組み、自らの力を高めて何事にもチャレンジする社員

人材育成のPDCAサイクルの構築

会社が期待する社員の育成のため、職種ごとの人材育成プランや研修計画を策定し、これらに基づくOJT(On the Job Training)、Off-JT(Off the Job Training)を実施しながら、社員の自発的な自己研鑽もサポートできる体制を整備しています。また、社員一人ひとりが自らの力を高め、その能力・適性を十分に発揮できるよう、人事面談等を通じてその効果を確認し、次年度の研修計画等に反映させる人材育成のPDCAサイクルを構築しています。

PDCAサイクル



■ OJT

先輩社員を新入社員に対するOJTリーダーに選任することで、社会人としての基本から業務に至るまで、OJTリーダーを窓口として新入社員が相談しやすく、職場全員で手厚くサポートできる体制を整えています。また、各階層別研修において、部下・後輩への育成力を向上させるためのプログラムを実施しています。

■ Off-JT

各階層に期待される能力の向上等を目的とした「共通研修」、各部門における専門的知識、能力、技術力の習得を目的とした「部門別研修」、専門的知識の習得のため外部機関が実施する研修等に社員を派遣する「派遣研修」を主に行っています。また、管理職層を対象とするマネジメント強化のための研修を継続的に実施し、組織マネジメント力の向上に努めています。

研修参加者数 (2021年度)

	共通研修	部門別研修	派遣研修
実施件数	34件	46件	88件
受講者数 (延べ人数)	2,002名	860名	221名

VOICE



総務・人事部 人材育成課 係長 伊藤 由

社員が前向きにやりがいをもって働くことを通じて社会に貢献するとともに、自身の成長を実感することができるよう社員の育成を支援しています。主に、職場にお

けるOJTの推進や信頼感の醸成に資する施策の立案、職位や職種

の課題に応じた研修の企画・運営を担当しています。

近年は、働き方改革の推進を目的としたコミュニケーション力向上や業務効率化に資する研修を、階層別研修で実施するほか、参加者を募る募集型研修での実施にも力を入れています。

学びは誰かから与えられるより、成長したいと思い、自ら学びを得ようとする方が身につくと自分自身の経験からも感じています。これからも社員の皆さんの学ぶ意欲を喚起し、成長するキッカケをつくれるよう、尽力してまいります。

■ 自己研鑽

通信教育受講料の援助や推奨資格取得時の経済的支援などを実施しています。また、高速道路事業を支えるとともに、多様な事業展開に対応できる社員の能力開発を推進するため、海外・国内留学制度を設けています。

主な資格保有社員数 (2022年3月現在)

不動産鑑定士 1名	税理士 1名	社会保険労務士 8名
宅地建物取引士 111名	補償業務管理士 10名 (延べ人数)	経営学修士(MBA) 11名



研修の様子

技術力の向上と技術継承

当社が60年にわたり積み重ねてきた取り組みは、都市内高速道路を支える「つくる・つかう・まもる」の3つの高度な技術力として国内外で高い評価を得ています。当社では仕事の進め方などを社内しっかりと残し、継承していくために「首都高エンジニア育成プラン」を改定し、記載内容の拡充を図るとともに、PDCAサイクルを確実に実施することにより、継続的な技術力向上と技術継承に取り組んでいます。

技術者の人材育成

より高度な技術力が求められる事業を着実に柔軟に推進し、将来にわたってお客さまへ高品質なサービスを提供することを目指し、技術者の人材育成においては以下の取り組みを行っています。

■ OJT

若手エンジニアの基礎知識・専門技術力向上のため、職場での日常業務を通じた若手エンジニアに対する指導・育成を行うとともに、社内勉強会を開催しています。勉強会では設計・施工上の技術的課題の解決に向け、専門分野別に若手エンジニアが中心となって活動しています。また、総合的な技術力向上のため、VE活動を継続的に実施しています。



社内勉強会の様子

VE (Value Engineering) 活動

“Value Engineering (VE)”とは、製品やサービスの「価値」を、それが果たすべき「機能」とそのためにかける「コスト」との関係で把握し、システム化された手順によって「価値」の向上を図る手法です。

VE活動では、業務上の課題等特定のテーマを対象として、機能向上とコスト最適化に取り組むチーム活動を実施しています。

年間の活動成果については、社内報告会を開催し、VE全国大会で発表しています。

安全意識の向上

お客さまに安全・安心な道路を提供するためには、社員一人ひとりの安全意識を高め、首都高を守る自覚を育てることが重要です。

取り組みのひとつとして、当社では「首都高安全月間」を定めています。その中では新入社員を中心とする当社社員が直接現場で目視点検を行う「首都高ウォッチング」を実施するなど、安全意識のさらなる向上を図っています。

■ Off-JT

現場力強化や専門技術向上のため、実習形式の研修や各技術分野に特化した社内研修を行うとともに、最新の技術や知見を習得するための外部派遣研修も実施し、社内で共有を図っています。また、社内で定期的に「技術発表会」を開催し、技術成果の論文発表や技術情報の共有・継承を行っているほか、学協会等の対外的な場においても積極的な論文の投稿や発表会への参加により、当社の技術力をPRしています。

■ エキスパート制度の導入

社内でのエンジニア育成、技術力強化、設計・施工品質向上等の促進を目的としたエキスパート制度を2020年度から導入しています。社内外で技術指導できる高度な専門技術力や知識、業務経験を有する社員を、各専門分野における「エキスパート」として任命し、各専門分野における若手エンジニアへの指導・育成等を実施しています。

■ 自己研鑽

専門技術力や適応能力の継続的な向上のため、積極的な資格取得を支援・奨励しています。

主な資格保有社員数 (2022年3月現在)

技術士	博士	一級建築士
58名	6名	17名
コンクリート診断士	土木鋼構造診断士	VEスペシャリスト
48名	23名	3名

■ その他の取り組み

グループ会社や他機関への人事交流や、学協会等の外部委員への積極的参加により、技術力の向上につなげています。

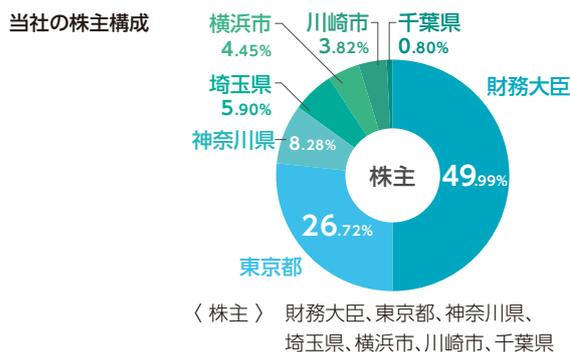


社員による首都高ウォッチングの実施

会社概要

当社は、「民間にできることは民間に委ねる」との政府の方針を受けて、2004年6月2日に成立した高速道路株式会社法及び日本道路公団等民営化関係法施行法に基づき、それまでの首都高速道路公団(1959年設立)に代わる新しい組織として、2005年10月1日に設立されました。首都高速道路公団と同様に、首都高の新設、改築、維持、修繕その他の管理を効率的に行うこと等により、道路交通の円滑化を図り、国民経済の健全な発展と国民生活の向上に寄与することを事業目的に据えています。また、民営化に伴い高速道路事業に支障のない範囲内で、他の様々な事業を行うことができるようになりました。

社名	首都高速道路株式会社 Metropolitan Expressway Company Limited
代表者	代表取締役社長 前田 信弘
所在地	東京都千代田区霞が関1-4-1
設立	2005年10月1日
資本金	135億円
社員数	1,123人(2022年3月31日現在)



【当社の主な事業】

高速道路事業

首都高の維持管理

お客さまに安全・安心に首都高をご利用いただくため、点検・補修・補強、清掃、緊急応急対応、積雪・凍結対策を行っています。



首都高の大規模更新・大規模修繕

進行する構造物の高齢化に対応するため、道路構造物の造り替え等の更新事業や修繕事業を進めています。



首都高の新設・改築

新規路線の整備や既存路線の改築を行うことでネットワークの強化を図り、渋滞緩和、移動時間の短縮や物流の効率化等に取り組んでいます。



首都高の料金収受

限られた道路空間の中で、お客さまにより快適にご利用いただくため、ETCを活用しながら効率的な料金収受を行っています。



関連事業

駐車場やPAの運営・管理

高架下等を活用した駐車場や首都高上のPAの運営・管理を行っています。



技術コンサルティング

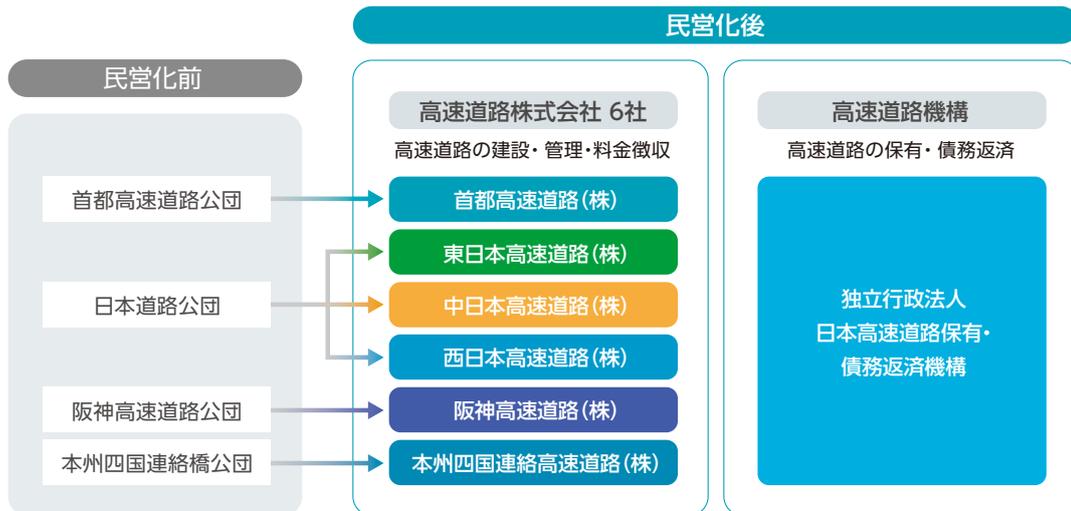
高速道路事業において培った技術・ノウハウを活用し、コンサルティング事業として国内外で展開しています。



高速道路会社の民営化

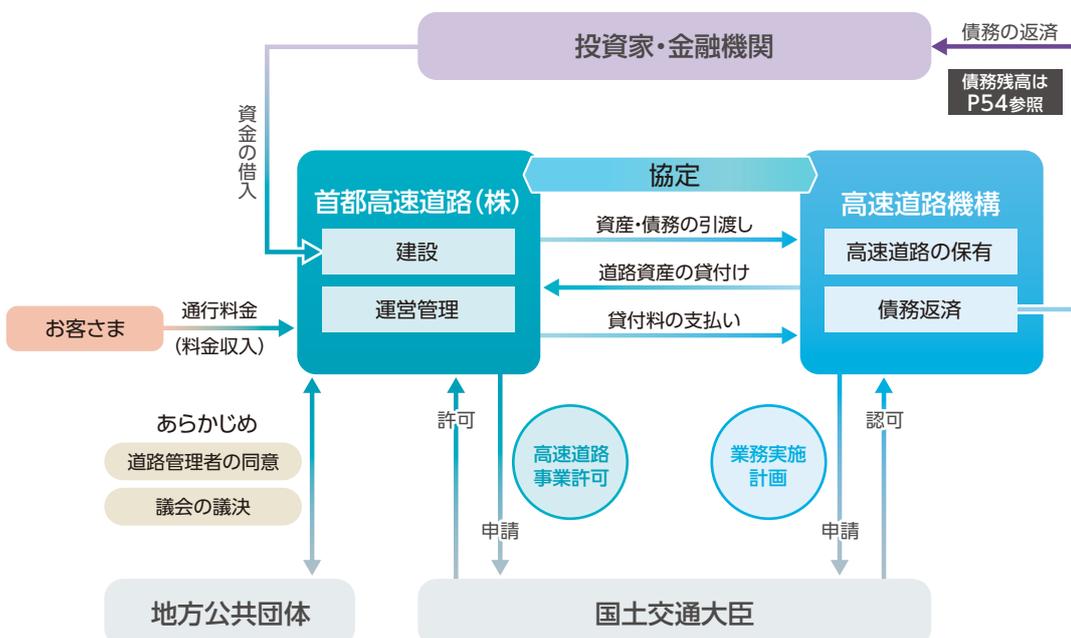
2005年10月1日に首都高速道路公団、日本道路公団、阪神高速道路公団及び本州四国連絡橋公団が解散し、高速道路の建設及び管理を行う高速道路株式会社6社と高速道路資産の保有と債務の返済を行う高速道路機構が設立されました。

高速道路機構は、各道路会社からの道路資産賃借料を原資として2065年度までに債務を完済することを計画しています。



【高速道路事業の運営スキーム】

当社は、高速道路機構と締結する「協定」に基づき、高速道路の建設及び管理等を行います。



「首都高CSRレポート2022」に対する第三者意見



立教大学経営学部
教授・博士(経済学)
高岡 美佳 さま

本レポートは、「首都圏のひと・まち・くらしを安全・円滑な首都高速道路ネットワークで結び、豊かで快適な社会の創造に貢献します」という基本理念のもとに事業を展開する首都高グループの多角的な活動を報告しています。社員をはじめとするステークホルダーの生の声が「VOICE」として多数掲載されており、「顔の見える」報告書となっている点も特徴です。

トップメッセージにあるように、首都高グループは、東京を中心に埼玉・神奈川・千葉の3方向へ延びる首都高速道路の建設・維持管理を通じて、首都圏のくらしや社会経済活動を支えています。全長327km、そして1日に90万台以上が通行する道路ネットワークですが、開通から50年以上を経過した路線が全体の約30%、30年以上が経過した路線が約67%と高齢化が進んでいます。このような状況の中、お客さまに安全で快適な質の高いサービスを提供し続けるため、首都高グループは、日々の点検・補修に加えて大規模更新、大規模修繕に力を入れています。2021年度は、6号向島線などで補修を実施したほか、都心環状線・日本橋区間地下化事業を公表するなど、周辺地域の再開発プロジェクトと連携して地域の魅力度向上に貢献しようという意欲が見られました。社会インフラを担う企業として、本業を通じてCSR(企業の社会的責任)を果たすことが重要であるとする首都高グループの真摯な姿勢を高く評価したいと思います。

今回のレポートで最も高く評価したい点は、脱炭素社会の実現を目指して「首都高カーボンニュートラル戦略」を策定・公表したことです。2050年にカーボンニュートラルを目指すことを公に宣言し、2030年度を中間年次として目標値を

PROFILE

青山学院大学経営学部卒。東京大学大学院経済学研究科で博士号取得。大阪市立大学経済研究所助教授、立教大学経営学部准教授などを経て2009年4月より現職。主な研究テーマは、流通論、CSRとブランド価値、小売経営と消費者行動。著書に『サステナブル・ライフスタイル ナビゲーション』(共著、日科技連出版社、2007年)など。

設定しています。具体的には、次世代自動車の普及に加えて、交通円滑化のさらなる推進により、自動車交通からのCO₂排出量を2019年度比で約3割削減し、同時に、事業活動に伴うCO₂排出量を5割削減するという目標です。いずれも2021年に閣議決定された第6次エネルギー基本計画における2030年度の発電電力量と電源構成を前提していると推察しますが、火力発電が占める割合が多少上下しても達成できるよう、3つの基本方針と12のリーディングプロジェクトを積極的に推し進めていただくことを期待します。カーボンニュートラル戦略そのものに加えて具体的なスケジュールや施策を示していただいたのは、高速道路会社として初であり、志の高さと業界をリードする卓越したリーダーシップに敬意を表するとともに、率先して社会的責任を果たす企業として高く評価したいと考えます。

その他、本レポートでは、i-DREAMS®を軸としたDX推進の現状や、土木学会賞・国土技術開発賞を受賞した技術などが紹介されており、お客さまに安全・安心な道路を提供し続けるための新技術の開発やイノベーションに前向きなグループであることが示されています。

最後になりますが、労働力人口の減少を受けて政府が推し進めてきた「働き方改革」が示すように、多様なバックグラウンドを持つ従業員が生き活きと働くことのできる職場環境の整備は、企業にとって今や欠かせない要素となっています。また、これからの時代、事業イノベーションを促進するためには組織のダイバーシティが重要となってきます。今後は、女性管理職の育成にも力を入れていただき、ダイバーシティが一層充実することを期待します。

第三者意見を受けて



代表取締役 専務執行役員
藤井 健

高岡さまには、「首都高CSRレポート2022」に対してご提言・ご評価をいただき、誠にありがとうございます。首都高グループは、首都圏の大動脈である首都高を通じて、日本の経済や社会に関して大きな社会的責任を担っています。その責任を確実に果たし続けていくだけではなく、カーボンニュートラル戦略の策定・DXの推進など、新たな課題にも取り組んでいます。

こうした首都高グループの取り組みについて高く評価をいただきましたことは、首都高グループ一丸となって業務に取り組む上で大変励みになると考えています。厚く御礼申し上げます。

首都高グループは、このたびいただいたご意見を踏まえ、より一層の情報開示を行うとともに、ステークホルダーとの対話を続け、首都圏の豊かで快適な社会の創造に貢献するとともに持続可能な社会の実現を目指した事業活動を引き続き推進してまいります。

ガイドライン対照表

SDGs対応表

首都高CSRレポート2022における掲載内容とCSR作成ガイドライン(「国連グローバル・コンパクト原則」と「ISO26000」)との対照表を記載しています。

国連グローバル・コンパクト原則	ISO 26000	首都高CSRレポート2022における掲載内容	ページ
		組織統治	
		トップメッセージ	3-4
		基本理念、経営理念、企業倫理憲章	4
		CSRマネジメント	5-6
		中期経営計画 2021-2023	7-8
		首都高ネットワーク	32
		着実な債務の引渡しと返済	53-54
		資金調達	54
		決算情報	55
		道路事業に係る厳格な評価の実施	56
		事業評価監視委員会の設置	56
		投資家の皆さまに向けたIR活動	56
		コーポレート・ガバナンス、コンプライアンス	57
		リスク管理、個人情報保護、情報セキュリティ	58
		会社概要	67-69
人権	人権	企業倫理憲章	4
		コンプライアンス	57
		個人情報保護、情報セキュリティ	58
		多様な人材の活躍推進(ダイバーシティマネジメント)	64
		安全意識の向上	66
		工事故防止の取り組み	60
		社員が元気に前向きに働ける会社を目指して	61-63
		多様な人材の活躍推進(ダイバーシティマネジメント)	64
		社員の健康管理とメンタルヘルスケア	64
		自己成長を続ける人材の育成	65
		技術力の向上と技術継承	66
		安全意識の向上	66
		特集1:環境への取り組み	13-14
		環境への取り組み姿勢	43
		高速道路利用に伴うCO ₂ 排出量削減への取り組み	44
		事業活動に伴うCO ₂ 排出量削減への取り組み	44-45
		マテリアルフロー	46
		次世代自動車普及のための環境整備	46
		生物多様性保全の取り組み	47-48
		周辺環境との調和に向けた取り組み	49
		騒音・振動対策の推進	49-50
		大気環境対策の取り組み	50
		環境負荷低減を目指して	51
		環境情報の発信	51-52
		道路事業に係る厳格な評価の実施	56
		事業評価監視委員会の設置	56
		コンプライアンス	57
		リスク管理	58
		新たな取り組み	59-60
		入札監視委員会の設置	60
		反社会的勢力への対応	60
		着実な点検・補修の推進	17-18
		確実な施工管理による品質の確保	18
		長期の安全・安心を確保する「大規模更新」「大規模修繕」	19-20
		日本橋区間地下化事業	21
		渋滞対策の推進	23
		交通集中への対策	23
		上り勾配での速度低下対策	23
		合流部の対策	24
		多様化するニーズに対応する情報提供を目指して	25-26
		快適に通行できる料金所を目指して	26
		快適な都市型PAの実現に向けて	27
		お客さまの声に迅速に答えるために	28
		お客さまの声を活かした改善の実施	28
		交通安全の実現に向けて	29
		法令違反車両対策の強化	30
		個人情報保護	58
		特集2:DXの推進	15-16
		首都高ネットワークの充実を目指して	31
		迅速な対応を実現する地震防災対策	33
		大雨対策の強化	33
		積雪・凍結対策の取り組み	34
		都市高速道路の技術開発の推進	35
		国内における取り組み	36
		海外における取り組み	37
		自治体との相互協力	38
		地域活性化を目指して	38
		社会活動への協力	39
		社会課題への取り組み	39-40
		地域共生への取り組み	41
		情報発信	42
		着実な債務の引渡しと返済	53-54
		投資家の皆さまに向けたIR活動	56
		「コミュニケーションへの参画及び「コミュニケーションの発展	

2022年7月

CSRレポートコンテンツ	全体	特集1:環境への取り組み	特集2:DXの推進	お客さまのために
1 貧困をなくそう	●	●		
2 飢餓をゼロに				
3 すべての人に健康と福祉を	●	●		●
4 質の高い教育をみんなに	●			
5 ジェンダー平等を実現しよう	●			
6 安全な水とトイレを世界中に	●			
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	●	●		
8 働きがいも経済成長も	●		●	●
9 産業と技術革新の基盤をつくろう	●	●	●	●
10 人や国の不平等をなくそう	●			●
11 住み続けられるまちづくりを	●	●	●	●
12 つくる責任 つかう責任	●	●		●
13 気候変動に具体的な対策を	●	●	●	●
14 海の豊かさを守ろう	●	●		
15 陸の豊かさを守ろう	●	●		
16 平和と公正をすべての人に	●			●
17 パートナーシップで目標を達成しよう	●			
関連するSDGs				
169ターゲット*		1.5	8.2	
		3.9	9.1	
		7.2	9.5	
		7.3	11.3	
		9.4	11.5	
		11.6	13.1	
		12.5	13.3	
		12.8		
		13.1		
		14.1		
		15.1		

当社Webサイトのご案内



首都高速道路株式会社CSRサイト

当社のCSRに関する取り組みをご紹介します。また、過去から最新の「首都高CSRレポート」のPDFをダウンロードいただけます。

Web 詳細はこちら

首都高CSR

検索



<https://www.shutoko.co.jp/company/info/csr/>

首都高環境サイト shuto-E-co

当社の環境への取り組みを詳しく紹介する専用サイトです。「おおはし里の杜」や「見沼たんぼ首都高ビオトープ」の紹介、首都高環境フェアなどの環境イベントのお知らせや開催報告など、様々な取り組みを紹介しています。

Web 詳細はこちら

首都高環境サイト

検索



<https://www.shutoko.jp/ss/shutoeco/>

首都高速道路株式会社コーポレートサイト

当社の企業情報や事業内容、IR情報、安全・環境・渋滞・景観に関する取り組み、グループ会社、入札契約情報、採用に関する情報などを公開しています。

Web 詳細はこちら

首都高速道路株式会社

検索



<https://www.shutoko.co.jp/>

首都高ドライバーズサイト

首都高をご利用いただく際に必要な情報と、皆さまに首都高を知って楽しんでいただくための様々な情報を公開しています。路線図や料金、工事・通行止めの情報はもちろん、おすすめドライブガイドや首都高名所なども紹介しています。

Web 詳細はこちら

首都高ドライバーズサイト

検索



<https://www.shutoko.jp/>